

ヨリ起算ス但第七條ニ依リ延期シタルモノト雖モ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ(二十八  
五號ヲ以テ次  
項トモ改正) 法律第十

現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役年期ニ算入セス其豫備  
役年期ハ現役ヲ終ル年ヨリ起算シ陸軍ニ在テハ第六年目ノ三月三十一日迄海軍ニ在テハ第五年目ノ  
十一月三十日迄トス但第十條ニ依リ現役年期ヲ短縮シタルモノハ其現役ヲ短縮シタル場合ニ於ケル  
豫備役年期ニ應シ本項ニ準シテ計算ス

豫備役後備役及補充役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ理由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年  
ハ服役年期ニ算セス

第五章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サ、ル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三  
十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲  
ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限り  
三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ノ外及沖繩縣並ニ東京府管下小笠原島ニハ漸チ以テ施  
行ス其時期區域及特ニ召集ヲ免除シ若ハ猶豫ス可キモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(廿八年法律第十五  
號ヲ以テ條中改正)

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 現今陸軍豫備役ニ在ル者ノ服役年期ハ第三條ニ依ル其後備役ニ在ル者ハ常備役年期ヲ通  
シテ十二箇年四箇月トス(二十八法律第十  
五號ヲ以テ改正)

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ  
止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クル  
モ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七  
箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ  
止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲クル者其事故各其本條ノ期限内ニ止  
ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故八箇年以内  
ニ止ミタルトキ又ハ八箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志  
願スルコトヲ得(二十六年法律第四號ヲ以  
テ六箇年ヲ八箇年ト改ム)

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間(明治二十一年十  
二月一日ヨリ起  
算ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム)

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者ハ舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員トナリタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徴兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲グル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲グル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

第十三條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄其數職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ(二十二年法律第二十九號ヲ以テ本項ヲ追加シ二十六年法律第四號ヲ以テアルヲ第十條ニ改ム)(二十二年法律第二十九號ヲ以テ本項ヲ追加シ二十六年法律第十五號ヲ以テ第十一條ト

第一項及第二項ノ届出ヲ爲サ、ル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ(二十二年法律第二十九號ヲ以テ前項トアルヲ第一項又第二項ト改ム)

●北海道ニ徴兵令施行 (二十八年勅令第二百二十六號)

第一條 明治二十九年一月一日ヨリ北海道渡島後志擔振石狩ノ四箇國ニ徴兵令ヲ施行ス

明治三十一年一月一日ヨリ天鹽北見日高十勝釧路根室千島ノ七箇國ニ徴兵令ヲ施行ス(三十年勅令第二百十七號ヲ以テ改ム)

第二條 前條ノ徴兵令施行地ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ生業ニ従事スル者ハ轉籍移住ノ後五箇年ニ滿ツル年迄徵集ヲ猶豫ス但轉籍移住ノ後前條ノ區域外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此ノ限ニ

アラス

第三條 屯田兵現役豫備役下士兵卒ノ戶籍内ニ在ル者ハ徵集ヲ免除ス(三十年勅令第二百十七號ヲ以テ改正)

第四條 從來徴兵令ヲ施行セル函館江差福山ニハ本令ヲ適用スルノ限ニアラス

●沖繩縣及小笠原島ニ徴兵令施行 (三十年勅令第二百五十八號)

明治三十一年一月一日ヨリ沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徴兵令ヲ施行ス

沖繩縣壯丁ニシテ徴兵ニ應スルトキハ從來ノ産業ヲ維持スルコト能ハスト認ムル者ハ特ニ徴兵ヲ免除ス

小笠原島ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ正業ニ従事スル者ハ轉籍移住ノ後五箇年ニ滿ツル年迄徵集ヲ猶豫ス但轉籍移住ノ後本島外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此ノ限ニアラス

●國民軍條例 (二十八年勅令第十三條)

第一條 國民軍ハ陸軍ニ屬シ主トシテ尙成若クハ邊境ノ警備ニ充ツ

第二條 國民軍ハ國民兵ヲ以テ之ヲ編制ス

第三條 國民兵ノ召集及解散ハ勅令ニ依リ師團長之ヲ行フ

戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ途ナキトキハ直ニ召集ヲ行フコトヲ得

第四條 國民軍幹部ハ必要ニ應シ現役豫備後備ノ陸軍將校、同相當官、准士官、下士ヲ以テ充ツルノ外左

ニ掲グル者ヨリ選抜シテ之ニ充ツ

一 退役ノ陸軍將校、同相當官、准士官ニシテ國民役兵ニ在ル者若クハ國民軍編入志願ノ者

第十五編 沖繩及小笠原島ニ徴兵令施行

第十五編 國民兵條例 徵兵事務條例

二 元陸軍下士、上等兵ニシテ國民兵役ニ在ル者若クハ國民軍編入志願ノ者  
三 國民兵中材幹技能アル者

第五條 陸軍後備兵ニシテ後備軍召集ニ加ハラサル者ハ特ニ國民軍ニ編入スルコトヲ得

第六條 第四條第二第三ニ該ル者ノ任官ハ陸軍武官官等表ニ依リ士官以上ハ師團長ノ具狀ニ由リ陸軍

大臣之ヲ奏薦宣行シ其ノ他ハ師團長ノ認可ヲ得テ聯隊長同等以上ノ權アル長官之ヲ行フ

第三條第二項ニ依リ召集ヲ行ヒタル司令官ハ召集員ニ士官以上ノ勤務ヲ命スルコトヲ得其ノ勤務ヲ

命セラレタル者ノ身分取扱ハ其ノ官職ヲ有スル者ニ準ス

前項ノ司令官師團長ニアラサルトキハ準士官以下ノ任官ニ付師團長ト同一ノ權ヲ有ス

第七條 國民軍幹部ノ進級ハ拔擢トス其ノ任官ハ前條ノ例ニ依ル

第八條 國民軍編制ノ爲メ召集セラレタル者及志願ニ由リ國民軍ニ編入セラレタル者ハ其ノ間現役ニ

準ス 第九條 第四條第二第三ニ該リ任官シタル者解散ノトキハ準士官以上ノ之ヲ退役トシ下士ハ其ノ官ヲ

免ス

●徵兵事務條例 (二十九年勅令第百十二號)

第一章 徵兵區

第一條 徵兵區ハ師管及聯隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ

第二條 聯隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ

第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市北海道ニ在テハ區ヲ以テ一區ト爲ス

一市ニシテ二聯隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス

數郡ニ一郡役所ヲ置ケモノハ數郡ヲ併セ一區ト爲ス其ノ島廳ヲ置ケモノ亦同シ

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ更ニ徵募區ヲ検査區ニ分チ區ヲ以テ検査區ト爲ス

第四條 歩兵隊ノ兵員ハ聯隊毎ニ其ノ師管ノ一聯隊區第一師管ニ在ヨリ其ノ他ノ兵員ハ其ノ師管各聯

隊區ヨリ徵集ス但重要員ヲ充シ能ハサルトキハ他ノ聯隊區若クハ他ノ師管ヨリ其ノ不足ヲ補充スルコ

トヲ得 近衛ノ歩兵隊及騎兵隊ノ兵員ハ各師管ヨリ其ノ他ノ兵員ハ第一師管ヨリ徵集ス

鐵道隊ノ隊員ハ第一第二第三第四第八及第九師管ヨリ徵集ス(三十二年勅令第百

警備隊ノ兵員ハ其ノ警備隊區ヨリ徵集ス十三號ヲ以テ改正)

海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル聯隊區ヨリ徵集ス

第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官、師管徵兵官、聯隊區徵兵官、警備隊區徵兵官及聯隊區聯合徵兵署徵兵官ト

ス 第六條 總理徵兵官ハ内務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首坐トシ其ノ管内府

縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

北海道ニ於テハ師團長及北海道廳長官ヲ以テ師管徵兵官ニ充テ師團長ヲ首坐トシ其ノ管内徵兵ノ事

ヲ統轄ス

第十五編 徵兵事務條例

第十五編 徵兵事務條例

一一一

第八條 聯隊區徵兵官ハ聯隊區内徵募區毎ニ聯隊區司令官及島司郡市長北海道ノ區ニ在テハ區長ヲ以テ之ニ充テ  
警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司郡市長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首坐ト  
シ其ノ區内徵募事務ヲ執行ス

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ検査區毎ニ聯隊區司令官及區長ヲ以テ聯隊區司令官ニ充テ聯隊區司  
令官ヲ首坐トシ抽籤事務ヲ除クノ外其ノ區内徵兵事務ヲ執行ス

第九條 聯隊區聯合徵兵署徵兵官ハ東京市、京都市、大阪市ニ於テ徵募區毎ニ聯隊區司令官市參事會員  
タル府ノ市長及各區長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官ヲ首坐トシ其區内抽籤事務ヲ執行ス(同上)

第十條 第八條第九條ニ掲クル徵兵官ノ外聯隊區内徵募區東京市、京都市、大阪毎ニ聯隊區徵兵參事員  
警備隊區内徵募區毎ニ警備隊區徵兵參事員ヲ置ク

第十一條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ徵兵令第二十二條ニ當ル徵集延期及徵兵免除  
竝ニ明治二十八年勅令第百二十六號第二條ノ徵集猶豫ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ司令官ニ具申ス  
ルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス

第十二條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ郡市名譽職參事會員ヲ以テ之ニ充ツ但市ニ於  
テハ其ノ市名譽職參事會員ニ於テ四名ヲ互選シ之ヲ定ム

東京市、京都市、大阪市ノ區ノ聯隊區徵兵參事員ハ市會ニ於テ其ノ區内ニ任スル市公民中選舉權ヲ有  
スル者ヨリ四名ヲ選舉シ之ヲ定ム其ノ任期ハ市會議員ノ例ニ依ル

島廳ヲ置ク島嶼ノ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ島司ニ於テ各町村會議員ヨリ四名ヲ  
選ヒ府縣知事ノ認可ヲ得テ之ヲ命ス其ノ任期ハ町村會議員ノ任期ニ依ル

北海道ノ郡又ハ區ノ聯隊區徵兵參事員ハ徵兵區毎ニ四名トシ北海道廳長官之ヲ命ス其ノ任期等ハ北  
海道廳長官ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 毎年徵兵事務執行中ハ師管徵兵醫官及聯隊區徵兵醫官聯隊區徵兵副醫官又ハ警備隊區徵兵  
醫官警備隊區徵兵副醫官ヲ置ク但シ警備隊區徵兵副醫官ハ時宜ニ依リ之ヲ置カサルコトヲ得  
師管徵兵醫官ハ師團長ニ屬シ師管内徵兵身體検査ニ係ル事ヲ管掌シ聯隊區徵兵醫官ハ聯隊區司令官  
ニ警備隊區徵兵醫官ハ警備隊司令官ニ屬シ其ノ區内徵兵身體検査ニ係ル事ヲ管掌シ聯隊區徵兵副醫  
官ハ聯隊區徵兵醫官ヲ警備隊區徵兵副醫官ハ警備隊區徵兵醫官ヲ補佐ス(同上)

第十四條 師管徵兵醫官ハ師團軍醫部長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區徵兵醫官及警備隊區徵兵醫官ハ陸軍一  
等軍醫一名聯隊區徵兵副醫官及警備隊區徵兵副醫官ハ陸軍二三等軍醫ノ内一名ヲ以テ之ニ充ツ(同  
上)

第十五條 毎年徵兵事務執行中ハ聯隊區徵兵署、警備隊區徵兵署、及聯隊區聯合徵兵署ニ事務員ヲ置キ  
該徵兵署ノ庶務ニ従事セシム

第十六條 聯隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ハ聯隊區書記又ハ警備隊書記二名及島廳郡  
市書記東京市、京都市、大阪市及北  
海道ノ區ニ在テハ區書記二名若クハ三名ヲ以テ之ニ充ツ

聯隊區聯合徵兵署事務員ハ聯隊區書記二名市書記二名及各區書記二名若クハ三名ヲ以テ之ニ充ツ  
(同上)

第十七條 徵兵事務執行ニ際シ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ノ全部ヲ缺クトキハ府縣知  
事ハ徵兵區内ノ公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ就キ臨時聯隊區徵兵參事員又ハ臨時

第十五編 徵兵事務條例

一三

警備隊區徵兵參事員ヲ命スルコトヲ得

島廳ヲ置キタル島嶼ノ臨時徵兵參事員ハ島司ニ於テ便宜之ヲ命スルコトヲ得

第三章 配賦

第十八條 毎年徵集スヘキ現役兵及補充兵ノ員數ハ上裁ヲ經テ陸軍大臣之ヲ各師管ニ配賦ス

第十九條 師團長ハ第十八條ニ依リ現役兵及補充兵ノ要員ヲ各聯隊區又ハ警備隊區ニ聯隊區司令官又

ハ警備隊司令官ハ之ヲ各徵兵區ニ配賦ス

第二十條 現役兵及補充兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ基準トシテ之ヲ定ム(同上)

第四章 徵募

第二十一條 町村長町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戶長以下同シハ毎年戶籍簿ニ據リ徵兵適齡者ヲ取調ヘ徵兵令第二十五

條ノ屆書ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り二月十五日迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一

徵兵區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出スヘシ

市長東京市、京都市、大阪市及ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ聯隊區

徵兵署ニ提出スヘシ(同上)

第二十二條 毎年徵兵事務執行ノトキハ各徵募區及檢查區ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設ク

但土地廣濶者ハ交通不便若ハ壯丁多數ノ徵募區ニ於テハ二箇所以上ノ地ニ逐次開設スルコトヲ得

(同上)

東京市京都市、大阪市ニ於テハ抽籤執行ノ爲メ別ニ徵募區ニ聯隊區聯合徵兵署ヲ設ク

第二十三條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署開設ノ日割ヲ定メ聯隊區司

令官警備隊司令官ハ師團長ニ島司郡市長ハ北海道廳長官府縣知事ニ申報スヘシ

島司郡市長ハ檢查抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ豫メ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員

ニ通知シ且其ノ管内ニ告示スヘシ(同上)

第二十四條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ壯丁ノ身體檢查ヲ行フ

其ノ檢查ハ徵兵官及徵兵參事員ノ面前ニ於テスルモノトス

第二十五條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體檢查ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス

第二十六條 島司郡市長東京市、京都市、大ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審覈ニ

任ス(同上)

第二十七條 壯丁ノ身體檢查終ルトキハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ徵集延期、徵集猶豫、徵集

免除及兵役免除ノ處分ヲ爲シ又壯丁名簿ヲ以テ徵集名簿、徵集延期名簿、徵集猶豫名簿、徵集免除名簿

及兵役免除名簿ヲ作ルヘシ

第二十八條 身體檢查ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ等位及兵種ヲ分チ

聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ但東京市京都市、大阪市、ニ於テハ聯隊區聯合徵

兵署ニ於テ之ヲ行フ

抽籤ハ徵兵官及徵兵參事員列席ノ上抽籤總代人之ヲ爲スモノトス但シ東京市、京都市、大阪市ノ徵兵

參事員ハ各檢查區ヨリ一名宛出席スヘシ

抽籤總代人ハ其ノ年ノ壯丁ニ就キ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員之ヲ選定ス其ノ人員ハ

適宜トス(同上)

第十五編 徵兵事務條例

第十五編 徵兵事務條例

第二十九條 前條ノ徵兵官ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依ル抽籤名簿ニ通テ作ルヘシ

第三十條 抽籤終ルトキハ抽籤名簿及徵募名簿ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ領シ抽籤名簿  
徵兵延期名簿、徵集猶豫名簿、徵集免除名簿、及兵役免除名簿ハ島司郡市長之ヲ領シ島廳、郡市役所ニ備  
置クヘシ但東京市、京都市、大阪市、ニ於テハ、抽籤名簿ヲ除クノ外ハ區長之ヲ領シ區役所ニ備置クヘ  
シ(同上)

第三十一條 各徵募區ノ抽籤終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ第十九條ノ配賦ニ基キ現役  
兵徵募及補充兵編入ノ處分ヲ爲シ又徵集名簿ヲ以テ現役兵名簿、補充兵名簿及要員超過名簿ヲ作ル  
ヘシ

第三十二條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵名簿ヲ各聯隊長聯隊長ヲ爲ササル隊ニ在テハ其ノ隊長及海兵團長ニ  
交付シ且現役兵ニ徵募スヘキ者及補充兵ニ編入スヘキ者ノ順序ヲ島司郡市長ニ通知スヘシ  
抽籤名簿及補充兵名簿ハ之ヲ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ備置キ要員超過名簿ハ島司郡市長ニ  
交付シ島廳郡市役所ニ置備クヘシ(同上)

第三十三條 第二十七條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官第三十一條ノ處分  
ヲ爲シタル者ニハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官各其ノ證書ヲ附與ス但徵集免除ノ者竝ニ要員ニ超  
過シタル者ニハ證書ヲ附與セス

第三十四條 徵召事務終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り師  
團長ニ差出シ師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表  
ヲ作り奏上スヘシ

第五章 裁決

第三十五條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第三十六條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ現役兵徵募、補充兵編入、要員超過、徵集免  
除及兵役免除ノ事ヲ裁決ス

第三十七條 徵集延期、徵集猶豫、徵集免除及兵役免除ノ裁決ハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ  
爲シ其ノ他ノ裁決ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ爲ス

第三十八條 壯丁若クハ其ノ家族ニ於テ徵兵令第二十二條及明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ  
關スル聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ  
不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲ニ裁決ノ執行ヲ停止セス

第三十九條 本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期日ヲ過ケルモノハ受理セス  
第三十九條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願ヲ爲サントスル者ハ其ノ訴願書ニ同徵募區内其ノ年徵集ニ應ス  
ヘキ壯丁ノ戸主三名ノ保證書ヲ添ヘ其ノ裁決ヲ爲シタル徵兵官ヲ經由シテ差出スヘシ

第四十條 徵兵官前項ノ訴願書ヲ受領シタルトキハ之ニ前裁決ニ關スル書類ヲ添ヘ上級ノ徵兵官ニ差出スヘシ  
總理徵兵官又ハ師管徵兵官ニ於テ下級徵兵官ノ裁決不當ナリト認ムルトキ又其ノ裁決詐  
偽若ハ錯誤ニ起因シタルモノナリト認ムルトキハ之ヲ取消シ更ニ處分ヲ命スヘシ但シ師管徵兵官ハ  
總理徵兵官ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス

第六章 現役兵及補充兵  
第十五編 徵兵事務條例

第四十二條 現役兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム

警備隊諸兵ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年六月一日トシ砲兵輪卒ノ入營ハ三期ニ分チ其ノ第一期ハ應募年ノ十二月一日第二期ハ翌年四月一日第三期ハ同年八月一日トシ輜重輪卒ノ入營ハ四期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年三月一日第三期ハ同年六月一日第四期ハ同年九月一日トス

第二師管第七師管第八師管及第九師管ニ於テハ砲兵輪卒ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年四月一日第二期ハ同年八月一日輜重輪卒ノ入營ハ三期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年三月一日第二期ハ同年六月一日第三期ハ同年九月一日トス但シ第七師管及第八師管ニ於テ輜重輪卒ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年五月一日第二期ハ同年八月一日トス

戰時若ハ事變ノ際其ノ他必要ノ場合ニ在テハ前諸項ノ入營期日ヲ變更スルコトヲ得(同上)

第四十三條 現役兵ヲ入營セシムルトキハ聯隊區司令部長ヲ入營地若ハ近衛、海軍入營兵集合地ニ派遣シ之ヲ當該隊長又ハ近衛、海軍入營兵受領員ニ交付セシム但シ土地ノ狀況ニ由リ入營兵引率員ヲシテ入營地若ハ近衛、海軍入營兵集合地ニ引率セシムルコトアルヘシ

入營兵ノ人員寡少ナルトキ及入營兵受領員出發後到着シタル者ハ直ニ入營セシム(同上)

第四十四條 現役兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ二十日以内ノ延期ヲ許スヘシ  
東京市、京都市、大阪市、ニ其ノ延期ヲ願フ者ハ願書ニ市町村長在テハ區長以下同シ。ノ奥書證印ヲ受ケ其ノ父母疾病危篤ノ

者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ差出スヘシ

第四十五條 現役兵入營前ハ第四條ノ區域外ニ轉籍<sup>戶籍上本人ノ出入スルモ所屬ノ隊籍ヲ變更セスモ含有ス以下同シ</sup>徵兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者ハ身體檢査ヲ行ヒ更ニ隊籍ヲ定ムモノトス但第四條ノ

區域外ニ轉籍シタル者ハ其ノ地ニ於テ身體檢査ヲ行ヒ隊籍ヲ定ム

第四十六條 現役兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ缺員ヲ生シ若クハ入營シ難シト認メタル者又ハ入營ノ後翌年一月三十一日前ニ死亡シタル者若クハ一時服役ニ堪ヘサル者又ハ常備後備ノ服役及永久服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ其ノ徵募區同兵種ノ第一補充兵若クハ海軍補充兵ヲ以テ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ補充シ若シ其ノ徵募區ヨリ補充スルコト能ハサルトキハ聯隊區内他ノ徵募區ヨリ補充ス其ノ配賦ハ各徵募區補充兵ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム但警備隊諸兵及砲兵輪卒、輜重輪卒ニシテ入營スヘキ月ノ十日迄ニ本文ノ事故ヲ生シタル者アルトキハ次期入營スヘキ者ヲ繰上ケ入營セシム其ノ最終期ニ在テハ前期ニ繰上ケタル缺員ト其ノ期ノ缺員ハ第一補充兵ヲ以テ補充ス(同上)

第四十七條 現役兵入營前廢疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ兵役ヲ免ス但徵兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者其ノ年徵募事務終結前ハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 現役兵入營前徵兵令第二十二條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ徵集ヲ延期ス

其ノ願書ニハ同徵募區内其ノ年徵集ニ應スヘキ現役兵ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ

第十五編 徵兵事務條例

聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長町村ニ在テハ町  
村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス  
島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付ス  
ヘシ(同上)

第四十九條 現役兵入營前及補充兵 補充兵證書附與後其ノ年十一 轉籍シタルトキハ十四日以内ニ島司  
郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長町村  
ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ  
其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ舊住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ新住地聯  
隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通報スヘシ

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(同上)

第五十條 現役兵入營前及補充兵寄留者クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ召集ノ命アルト  
キ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ其ノ復歸シ  
タルトキ亦届出ヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長町村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ  
本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタルトキハ五錢以上一圓九  
十五錢以下ノ科料ニ處ス(同上)

第七章 雜則

第五十一條 徵兵令第十二條ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其ノ願書ニ戶主或ハ後見人連署

シ身元證書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ九月一日以前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ海兵團  
ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但軍隊又ハ海兵團遠隔ノ地ニ居住ノ者ハ徵兵検査ノ際聯隊區徵兵署又ハ警  
備隊區徵兵署ニ申立テ身體検査ヲ受ケ合格ノ者ハ合格證書ヲ添ヘ願出ルコトヲ得

検査ノ爲メ往復ノ旅費及入營旅費ハ自辨トス

第五十二條 第五十一條ニ依リ服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第五十三條 他ノ徵募區ニ寄留シ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ受ケンコトヲ冀望スル者ハ本籍及寄留地徵  
募區ノ検査開始前寄留地ノ島司郡市長 東京市、京都市、大阪市ニ願出テ且其ノ由ヲ本籍ノ市町村長ニ  
届出ヘシ

島司郡市長其ノ願ヲ許可シタルトキハ直ニ之ヲ本籍地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ

第一項ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(同上)

第五十四條 徵兵令第二十二條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應スヘキ壯丁ノ戶主二名ノ保證  
書ヲ添ヘ三月一日迄ニ 三月一日後抽籤迄ニ事故ノ生 聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ但  
其ノ事故二年以上繼續スル者ハ毎年願出テ其ノ三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ本文ノ保證書ヲ  
添ヘ届出ヘシ

前項ノ願書及届書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十五條 徵兵令第二十三條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使領事又ハ  
貿易事務官ノ證明書ヲ添ヘ三月一日迄ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ  
公使領事及貿易事務官ヲ置カサル國ニ在ル者及一定ノ地ニ在留セサル旅行ノ者ハ其ノ徵集猶豫願書

第十五編 徵兵事務條例



第十五編 徵兵事務條例

ニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ證明書ヲ添ヘ差出スヘシ  
公使領事及貿易事務官ヲ置キタル國ニ在ル者ト雖徵集猶豫願チ差出ストキ未タ公使領事又ハ貿易事  
務官ノ證明書ヲ得サルトキハ之ニ換フルニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ承認書ヲ添ヘ差出シ置キ追  
テ證明書ヲ差出スコトヲ得

本條ノ願書ニハ町村長ノ與書證明ヲ受クヘキモノトス(同上)

第五十六條 明治二十八年勅令第百二十六號第二條ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及生業ノ狀況ヲ詳記

シ毎年三月一日迄ニ聯隊區徵兵官ニ願出ヘシ

前項ノ願書ニハ町村長ノ與書證明ヲ受クヘキモノトス

第五十七條 徵兵令百二十三條第一項ノ事故止ミタル者ノ願書及同條第二項ノ歸朝シタル者ノ願書ハ

町村長ヨリ其ノ年ノ壯丁名簿進達前ニ在テハ其ノ名簿ト共ニ進達後ニ在テハ受領ノ日ヨリ三日以内

ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ差出スヘシ

市長ハ前項ノ願書ヲ聯隊區徵兵署若クハ聯隊區聯合徵兵署開設ノトキ同署ニ提出スヘシ

第五十八條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ身體検査ヲ受ケ難キ者及志願兵出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査當

日迄ニ島司郡市長ニ届出ヘシ其ノ疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ

島司郡長ニ差出ス届書ニハ町村長ノ與書證明ヲ受クヘキモノトス

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十九條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ聯隊區司令

官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ其ノ疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ其ノ届書ニハ市町村

長ノ與書證明ヲ受クヘキモノトス

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十條 徵兵署ノ諸費壯丁及抽籤總代人ノ旅費現役兵入營ノ旅費徵兵參事員ノ手當金旅費ハ官

給ス(同上)

第六十一條 第四十條ニ依リ更ニ處分ヲ爲ストキハ臨時徵兵署ヲ開設スルコトヲ得(同上)

第六十二條 島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長、地方長官協議ノ上適

宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第六十三條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ寄留地最寄ノ徵募區ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ

得其ノ願出手續及取扱ハ第五十三條ノ例ニ準ス

韓國在留ノ者ニ在テモ前項ノ例ニ依リ便宜ノ徵募區ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ得(同上)

第六十四條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其ノ年又ハ翌年ノ徵集ニ應セシム

但年齡二十六歳ヲ過キ轉籍シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

附則

第六十五條 第七師團ノ兵員ハ當分第一第二第七及第八師管ヨリ徵集ス但シ第七師管外ヨリ徵集スル

者ノ入營ニ係ル取扱ハ第四十三條近衛海軍入營兵ノ例ニ依ル(同上)

第六十六條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員又ハ未タ郡制ヲ施行セサル郡ニ在テハ其ノ郡

内ニ於テ四名ヲ選舉シ當選ノ者ヲ以テ之ニ充テ其ノ選舉人被選舉人資格、選舉ノ方法及任期ハ總テ

府縣會議員ノ例ニ依ル

第十五編 徵兵事務條例

第十五編 徵兵事務條例補則

第六十七條 本條例ハ明治二十九年四月十日ヨリ施行ス

●徵兵事務條例補則 (三十一年勅令第四十一號)

第一條 徵兵事務條例中北海道及沖繩縣或小笠原島ニ實施シ難キ諸件ハ當分本則ニ依ル

第二條 北海道廳支廳ノ管轄區域及沖繩縣ノ區並小笠原島ハ各之ヲ徵募區ト爲ス

第三條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區聯兵參事員ハ一徵募區ニ四名トシ地方長官之ヲ命ス其ノ任期等ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第四條 沖繩縣及小笠原島ニ在テ徵兵參事員ハ徵兵事務條例第十一條ニ掲グル外明治三十年勅令第二百五十八號第二項若ハ第三項ノ徵集免除又ハ徵集猶豫ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス

第五條 明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ當ル者ハ從來ノ經歷及產業ノ現況ヲ詳記シ三月一日迄三月一日以後事故ノ生シタニ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ

迄ル者ハ其ノ都度以下同シ 明治三十年勅令第二百五十八號第三項ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及生業ノ狀況ヲ詳記シ毎年三月一日迄ニ聯隊區徵兵官ニ願出ヘシ

本條ノ願書ニハ町村長ニ準スヘキ者ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス

第六條 壯丁若ハ其ノ家族ニ於テ明治三十年勅令第二百五十八號第二項及第三項ニ依ル警備隊區徵兵官又ハ聯隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ徵兵事務條例第五章ノ規程ニ依リ訴願スルコトヲ得

第七條 沖繩縣ニ在テ島司郡區長ハ明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ依ル徵兵免除ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審察ニ任ス

第八條 北海道及沖繩縣ニ在テハ師管徵兵官ノ認可ヲ得某徵募區ノ徵兵醫ヲ他ノ徵募區内ニ設ルコトヲ得

第九條 沖繩警備隊區ノ壯丁ハ之ヲ第六師團第十二師團及海軍諸兵ニ徵集ス

沖繩警備隊區ニ於ケル現役兵及補充兵ノ要員ヲ其ノ區ノ壯丁ヲ以テ充スコト能ハサルトキハ其ノ不足員ハ第六師管及第十二師管若ハ其ノ一ヨリ補充ス

第十條 沖繩警備隊區ニ於ケル現役兵及補充兵ノ配賦ハ隊丁ノ總員ヨリ明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ當ルヘキ豫定ノ人員ヲ除算シタルモノヲ以テ率トス

第十一條 沖繩警備隊區ヨリ徵募ノ現役兵入營ノトキハ地方吏員之ヲ引率シ當該隊長又ハ海兵團長ニ交付セシム

第十二條 徵兵事務條例中警備隊司令官隊警備司令官部附軍醫ノ職務ハ沖繩警備隊區ニ在テハ警備隊區指令官警備隊區司令官部附軍醫、市長市書記ノ職務ハ沖繩縣ニ在テハ區長區書記、郡市長郡市書記ノ職務ハ北海道ニ在テハ北海道廳支廳長同支廳ノ屬、町村長ノ職務ハ沖繩縣及小笠原島ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第十三條 北海道廳紗那支廳管下及小笠原島ニ於ケル聯隊區徵兵官タル聯隊區司令官ノ職務ハ聯隊區副官若ハ他ノ將校ヲシテ臨時之ヲ行ハシムルコトヲ得

北海道廳紗那支廳管下及小笠原島ニ於ケル徵兵事務執行ノ際ハ徵兵事務條例第十四條ノ軍醫ノ外仍軍醫一名ヲ以テ聯隊區附軍醫官ト爲スコトヲ得

附則 第十五編 徵兵事務條例補則

第十五編 陸軍一年志願兵條例

第十四條 本則中警備隊區ニ係ル事項ハ明治三十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 第五條第一項及第二項ノ願出期日ハ明治三十一年ニ限り四月二十日迄トス

●陸軍一年志願兵條例 (二十六年勅令第七十三號)

第一條 徵兵令第十三條ニ據リ一年志願兵トナル者ハ服役スヘキ兵科及簡戍地ヲ選フコトヲ得但第四

條ニ當ル者ハ此限ニ在ラス (二十八年勅令第三十四號及三十

二年勅令第百十四號ヲ以テ改正)

第二條 一年志願兵ニハ所屬隊ヨリ糧食、被服、裝具、兵器、彈藥ノ現品ヲ給シ被服費、裝具費、彈藥費及

兵器修理費トシテ金六十二圓糧食費トシテ金三十八圓ヲ納メシム又騎兵科ニ入ル者ニハ馬匹ヲ貸與

シ馬糧費、裝蹄費、別毛費及馬糞費トシテ更ニ金七十五圓ヲ納メシム以上ノ金額ニテ不足ヲ生スルト

キハ之ヲ徵收シ殘餘アルトキハ之ヲ還付シ兵器ハ本人滿期ノ際之ヲ返納セシム

第三條 一年志願兵ハ在營セシムルヲ例トス但本人ノ願ニ依リ聯隊長ヲ成サハル隊ニ在 外泊ヲ許

シ通勤セシムルコトヲ得

第四條 費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ハ糧食費外ノ費用ヲ官給ス

第五條 一年志願兵ハ總テ無給料トス其檢査往復並ニ入營退營旅費亦自辨トス

第六條 官費服役ヲ許スヘキ一年志願兵ノ定員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム (二十八勅令

官費服役出願者前項ノ定員ヲ超過スルトキハ年少ノ者ヨリ順次次年ニ廻シ入隊セシム (令第三十四

號ヲ以テ) 本項追加

第七條 一年志願兵ハ現役滿期ノ後六箇年四箇月間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ理由ナクシテ召集ヲ缺キタル者ニ召集ヲ缺キタル年ハ服役年

期ニ算セス (二十八勅令第三十四號ヲ以テ改正)

第八條 一年志願兵志願者ハ其願書ヲ一月三十一日迄ニ本籍ノ島司郡市長 東京京都大阪ノ三市及沖繩

道ニ在テハ北海道廳 支廳長以下同シ 支廳長以下同シ 支廳長以下同シ 支廳長以下同シ

證書寫及戶主ニアラサルモノハ戶主二十歳未滿者ハ戶主若クハ後見人及親權ヲ行フ父又ハ母ノ承認

書ヲ添附スルヲ要ス (二十八勅令第三十四號二十九勅令第百九

島司郡市長ハ志願者ノ身元資産並ニ犯罪有無ノ證明書ヲ製シ其願書ニ添附スヘシ

第九條 前條ノ志願者ニシテ一月三十一日迄ニ徵兵令第十三條ノ學校ヲ卒業セサル者ハ其年十月三十

一日迄ニ卒業スヘキ者ニ限り學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證書寫ニ換フルヲ得但卒業ノ上ハ直ニ卒業

證書寫ヲ添ヘ師團長ニ届出ヘシ (二十八勅令第三十四號及二十九

勅令第百九十一號ヲ以テ條中改正)

第十條 師團長ハ第八條ノ志願者中學術試驗ヲ受クヘキ者ノ一人員ヲ各檢査場ニ區分シ二月二十日迄

ニ教育總監ニ通報シ又人名書ヲ身體檢査ヲ爲サシムヘキ軍醫ニ下付スルモノトス (二十九勅令第

百九十一號及三

第十條 師團長ハ學術試驗ヲ受クヘキ者ノ身體檢査時日ヲ定メ府縣知事ニ通達シ本人ヲ檢査地ニ召

集ス

第十一條 一年志願兵ノ學術試驗格例ハ毎年陸軍大臣之ヲ告達ス (三十二年勅令第百

四號ヲ以テ改正)

第十二條 師團長ハ軍醫ヲシテ學術試驗ヲ受クヘキ者ノ身體檢査ヲ爲サシム其合格者ハ陸軍將校生徒

試驗臨時委員ヲシテ學術試驗ヲ行ハシム (二十七年勅令第八號及二十九勅令第

百九十一號ヲ以テ條中改正) 師團長ハ試驗ノ成績ニ依リ及第落第ヲ定メ及第者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ落第者

第十五編 陸軍一年志願兵條例

第十五編 陸軍一年志願兵條例

ニハ其旨ヲ通知スヘシ(二十七年勅令第八號及二十九年勅令) 第八條但書ノ卒業者及第九條ニ當ル者ハ通常ノ徵兵ト同時ニ身體検査ヲ爲シ合格者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ不合格者ニハ其旨ヲ通知スヘシ但第九條ニ當ル者ノ認定證書ハ同條但書ノ届出ヲ爲シタルトキ之ヲ付與スルモノトス

第四條ニ當ル者ハ認定證書ノ外別ニ官費服役證書ヲ付與スヘシ

第十五條 一年志願兵ノ入隊期日ハ毎年十二月一日トス

第十六條 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ入隊スヘキ年ノ十一月三十日迄ニ第二條若クハ第四條ノ金額ヲ所屬隊ニ納付スヘシ但入隊前外泊ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二條ノ糧食費ヲ控除シ納付スヘシ

第十七條 一年志願兵ノ教育ニ關シテハ聯隊長其責ニ任スルモノトス

第十八條 一年志願兵中勤務熟達品行方正ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ材幹アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ通常教育ノ外特別ノ教育ヲ授ケ更ニ二箇月ノ後上等兵トシ下士ノ勤務ヲ爲サシメ更ニ三箇月ノ後二等軍曹ノ階級ニ進メ諸勤務ヲ練習セシム 其ノ一等卒上等兵ヲ命シ及聯隊長ニ於テ

其服役滿期ニ際シテハ聯隊長終末試験委員ヲシテ終末試験ヲ爲サシメ其成績ヲ具シ師團長 步兵ニ在長ヲノ認可ヲ受ケ及前考者ニハ終末試験及第證書ヲ授與シ一等軍曹ニ其落弟者ハ二等軍曹ニ任シ豫備

役ニ編入ス(二十九年勅令第九十一號及三十一年勅令第十四號ヲ以テ改正)

第十九條 前條及第二十二條ノ選ニ當ラサル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ六箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ三

箇月ノ後上等兵ト爲シ通常教育ノ外下士タルノ教育ヲ授ケ服役滿期ノ際其成績優等ノ者ハ師團長ノ認可ヲ受ケ下士適任證書ヲ付與シ若クハ之ヲ付與セスシテ豫備役ニ編入ス(廿九年勅令第九十一號) 第二十條 第十八條及第二十二條ニ當ル者ニシテ疾病其他ノ事故ニ由リ豫備士官ト爲スノ見込ナキニ至リタルトキハ第十九條ノ例ニ準シ取扱フモノトス

第二十一條 醫學、藥學、理財學若クハ商業學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊 理財學商業學卒業證書 令部所在地ノニ獸醫學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊、野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間 隊列勤務ヲ爲シ後半年ノ初ニ於テ軍醫、藥劑生、獸醫生又ハ軍吏生ト爲リ各專門ノ勤務ヲ練習スルコトヲ得志願ノ者ハ入隊ノ際其卒業證書寫ヲ添へ出願スヘシ

前項ノ獸醫生、藥劑生、獸醫生若クハ馬匹ニ關スル納金ヲ要セス

第二十二條 前條ノ志願者中勤務勉勵品行方正ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ志操アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ二箇月ノ後上等兵ヲ命スヘシ之ニ軍醫、藥劑生、獸醫生、軍吏生ヲ命スルニハ師團監督部長若クハ軍醫部長、獸醫部長ヨリ師團長ノ認可ヲ受ケルモノトス但軍吏生ト爲シタル者ハ下士ノ勤務ヲ爲サシメ上等兵ヲ命シタルトキヨリ更ニ三箇月ノ後三等書記ノ階級ニ進ムヘシ(二十九年勅令第九十一號) 一等卒及上等兵ヲ命スルハ聯隊長ニ於テシ三等書記ノ階級ニ進ムルハ師團監督部長ニ於テスルモノトス(三十二年勅令第十

二十三條 軍醫、藥劑生ノ教育ハ該隊上級醫官、藥劑生ノ教育ハ衛戍病院長、獸醫生ノ教育ハ該隊上級ノ獸

醫官、軍吏生ノ教育ハ師團監督部長各其責ニ任スルモノトス

第十五編 陸軍一年志願兵條例

第十五編 陸軍一年志願兵條例

第二十四條 軍醫、藥劑、獸醫、衛生、曹長同等ノ取扱ヲ受クルモノトス

第二十五條 軍醫、藥劑、獸醫、衛生及軍吏生ト爲シタル者ハ、服役満期ノ際師團監督部長、軍醫部長若クハ獸醫部長終末試験委員ヲシテ終末試験ヲ爲サシメ其及第者ニハ、軍醫部長、獸醫部長ハ其成績ヲ具シ師團長ノ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ軍吏生ニ在テハ二等書記ニ任シ豫備役ニ編入ス(二十九年勅令第九十一號ヲ以テ條中ヲ改正ス)

其ノ落第者ニ在テハ軍醫、衛生、看護長適任證書、藥劑生ハ調劑手適任證書、獸醫、衛生ハ鑛鐵工下長適任證書軍吏生ハ軍吏部下士適任證書ヲ付與シ豫備役ニ編入ス(二十九年勅令第九十一號ヲ以テ本項改正ス)

二等書記ノ任官及各適任證書ノ付與ハ軍醫、藥劑生ニ在テハ軍醫部長ヨリ陸軍省醫務局長、獸醫、衛生ニ在テハ當該隊長ヨリ師團長、軍吏生ニ在テハ監督部長ヨリ陸軍省經理局長ノ認可ヲ受クルモノトス(二十九年勅令第九十一號ヲ以テ本項中ヲ改正ス)

第二十六條 師團長及師團監督部長ハ毎年一年志願兵ノ終末試験格例ヲ定メ豫メ之ヲ告達ス

第二十七條 終末試験委員ハ聯隊長、監督部長之ヲ編成ス

軍醫、藥劑、獸醫、衛生ノ終末試験委員ハ師團長之レヲ編成シ軍醫部長及ヒ獸醫部長ノ指揮ニ屬ス(二十九年勅令第九十一號ヲ以テ本項改正ス)

第二十八條 第十八條及第二十二條ニ依リ上等兵ト爲シタル者ハ成ルヘク兵卒ト居室ヲ異ニシ將校ト共ニ會食セシムヘシ

第二十九條 一年志願兵ノ限制ハ別ニ定ムルモノ、外其階級ニ應ジ各兵科ノ下士兵卒ト同一トス但軍醫、藥劑、獸醫、衛生ハ該隊曹長軍吏生ニシテ三等書記ノ階級ニ進メタル者ハ該隊二等軍曹ト同一トス

軍醫、藥劑、獸醫、衛生軍吏生ハ之ヲ命シタル日ヨリ襟ニ特別ノ徽章ヲ附ス(二十七年勅令第八號ヲ以テ條中ヲ改正追加ス)

第三十條 戦時若クハ事變ニ際シテハ一年志願兵ト雖モ通常ノ現役勤務ニ服セシムルコトアルヘシ(二十八年勅令第三十四號ヲ以テ條中ヘ追加)

第三十一條 一年志願兵入隊前禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ死亡シタルトキハ其親族ヨリ該隊所管ノ師團長ニ届出ヘシ(二十九年勅令第九十一號及三十號ヲ以テ改正)

第三十二條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止テ得サル事故ニ由リ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ添ヘ入隊延期ヲ該隊所管師團長ニ出願スヘシ

前項ノ事故アル者十二月三十一日ヲ過ルモ入隊シ難シト認ムルトキハ師團長之ヲ次年廻シト爲シ聯隊長及本人ニ通知スヘシ(同上)

第三十三條 一年志願兵入隊シタルトキ若クハ次年廻シト爲リタルトキハ本籍所管聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ届出ヘシ(二十九年勅令第九十一號ヲ以テ條中ヲ改正ス)

第三十四條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年十二月一日ニ入隊セサルトキハ一年志願兵タルノ資格ヲ失フモノトス

第三十五條 一年志願兵中左ノ事項ニ當ル者ハ現役ヲ免シ第二國民兵役ニ服セシム但傷疾若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス(二十八年勅令第三十四號ヲ以テ條中ヲ改正シ二十九號ヲ以テ本條並各項トモ改正ス)

一 傷疾若クハ疾病ニ由リ服役ニ堪ヘ難キトキ

二 本人ヲ要スルニ非サレハ家族自活シ能ハサル事故ヲ生シ其ノ家族ヨリ免役ヲ願出タルトキ

第三十六條 前條ノ家族自活シ能ハサル事故ニ由リ免役ヲ願出テントスル者ハ其ノ願書ニ近鄰ノ戸主

第十五編 陸軍一年志願兵條例

三一

第十五編 陸軍六週間現役兵條例

三二

二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官 沖繩警備隊區ニ差出スヘシ  
但町村ニ於テハ町村長 町村制ヲ施行セサル地方ニ在ノ典書證印ヲ受クヘキモノトス  
島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作リ願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付シ同  
官ハ之ニ意見ヲ附シ願書ト共ニ聯隊長ニ移スヘシ(同上) (二十九年勅令  
第三百九十一號)

第三十七條 第三十五條ニ當ル者アルトキハ聯隊長ハ師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分ス  
シテ本條ヲ追加)  
シ次條ヲ繰下ク)

附則

第三十八條 明治二十七年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ豫備役後備役年期ハ第七條ニ依ル但  
明治二十四年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ後備役年期ハ豫備役年期ヲ通シテ十一箇年四箇  
月トス(二十八年勅令第三  
十四號ヲ以テ改正)

●試補及判任官見習並非職休職ノ官吏一年志願兵服役方

(二十三年勅令第六十二號)

試補及判任官見習並非職休職ノ官吏ニシテ一年志願兵トナル者ハ其儘服役スルヲ得  
但有給者ニハ俸給ヲ給セス試補及判任官見習ニ在テハ服役時日ヲ實務練習ノ期限ニ算入セス

●陸軍六週間現役兵條例 (二十八年勅令第四百一十一號)

第一條 徵兵令第十三條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服セシムヘキ者ハ教職ニ就キタル年若クハ其  
ノ翌年ニ於テ其ノ居住地師團内ノ歩兵隊 警備隊ヲ置ク島嶼ニ在テハ警備 二編入シ服役セシム (三十  
勅令第四百十五  
號ヲ以テ改正)

第二條 六週間現役兵ノ入營期日ハ毎年六月一日 聖德ニ在テトス但疾病其ノ他ノ事故ニ由リ期日ヨリ  
三日以内ニ入營シ難キ者ハ翌年徵集ス

戰時若クハ事變ニ際シテハ其ノ徵集ヲ延ハスコトアルヘシ(同上)

第三條 現役服役日數ハ入營期日ヨリ起算ス

第四條 六週間現役兵ノ教育ハ聯隊長 獨立大隊ニ在テハ隊長警備隊 其ノ責任ニ任ス

第五條 六週間現役兵中勤務勉勵品行方正ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スル部隊ノ幹部タルヲ得ヘキ  
材幹アル者ニハ聯隊長其ノ成績ヲ具シ順序ヲ經テ師團長 警備ニ在テノ認可ヲ受ケ國民軍幹部適任證  
書ヲ授與ス(同上)

第六條 六週間現役兵ノ身體検査ハ入營スヘキ年ニ於テ一般ノ徵兵検査ト同時ニ之ヲ行フ徵集ニ適セ  
サル者ハ徵兵検査規則ニ照シ處分ス

北海道臺灣及沖繩縣ニ在ル者ノ身體検査ニ關スル規程ハ陸軍大臣別ニ之ヲ定ム(同上)

第七條 検査往復旅費及入營旅費ハ官給ス

附則

第八條 北海道ニ在ル者ハ第七師管ニ常備歩兵隊ヲ置ク迄ハ第二師管ノ歩兵隊ニ編入シ服役セシム

第九條 本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●海軍志願兵條例 (三十二年勅令第七十二號)

第一條 海軍志願兵トハ海軍兵役ニ服センコトヲ志願シ認可ヲ得海軍志願兵籍ニ編入セラレタル者ヲ  
第十五編 海軍志願兵條例

三三

謂フ

第二條 海軍志願兵トシテ徵募スヘキ卒ノ種別ハ左ノ如シ

水兵、信號兵、軍樂生、木工、機關兵、鍛冶、看護、主廚

第三條 信號兵ハ所屬ニ應ジ水兵中ヨリ適當ノ者ヲ選ミ之ニ轉セシム其ノ規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

第四條 志願兵ノ徵募ハ其ノ年ニ於テ左ノ各項ニ適合スル者ニ就キ之ヲ行フ

一 水兵、機關兵、十七年以上二十一年未滿

二 木工、鍛冶、看護、主廚ハ十七年以上二十六年未滿

三 軍樂生ハ十六年以上十九年未滿

第五條 左ニ掲クル者ハ志願兵ノ徵募ニ應スルコトヲ得ス

一 陸軍ノ豫備役後備役及第一補充兵役ニ在ル者

二 徵兵令第二十八條ニ當ル者

三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

四 刑事被告人

五 復讐ヲ得サル家資分散者破産者若ハ其ノ相續人

六 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人

第六條 軍樂生ニシテ入團後三箇月ヲ經過シ技藝發達ノ目途ナキ者ハ軍樂生ヲ免ス

第七條 志願兵ノ服役ハ海軍下士卒服役條例ニ依ル

第八條 志願兵現役中ハ家族アル者ニ限リ扶助金トシテ一箇月金八十五錢ヲ其ノ家族ニ給ス但シ左ニ

掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其ノ間支給ヲ停止ス

一 擅ニ艦船團其ノ他各部ヲ離レ若ハ職役ヲ離レ若ハ允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸着ノ期限ニ後

レ二箇月ヲ過キタルトキハ其ノ翌月ヨリ自首若ハ捕縛ノ前月マテ

二 禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ翌月ヨリ刑期滿限ノ前月マテ

第九條 海軍大臣ハ志願兵徵募ノ爲海軍志願兵徵募區ヲ定メ鎮守府ヲシテ之ヲ管セシム

第十條 海軍大臣ハ毎年志願兵トシテ採用スヘキ人員ヲ定メ鎮守府ヲシテ徵募セシム

附則

第十一條 本條例施行ノ際現ニ扶助金一箇月金一圓七十五錢ヲ受クル志願兵ノ家族ニハ其ノ現役滿期

ノ月迄同金額ヲ給ス但シ再服役ヲ許シタルトキハ再服役ノ翌月ヨリ第八條ノ金額ヲ支給ス

第十二條 海軍志願兵徵募ニ關スル細則及家族扶助金支給ニ關スル細則ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十三條 本條例ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十四條 明治三十一年勅令第八十三號海軍志願兵徵募規則ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

戒嚴令 (十五年第三十六號布告)

第一條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ警戒スルノ法トス

第二條 戒嚴ハ臨戰地境合圍地境トノ二種ニ分ツ

第一 臨戰地境ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ臨戰ノ區域ト爲ス者ナリ

第二 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻堅其他ノ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲

ス者ナリ

第十五編 戒嚴令

第三條 戒嚴ハ時機ニ應シ其要スヘキ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス

第四條 戒時ニ際シ「鎮臺」營所要塞海軍港鎮守府海軍造船所等邊カニ合圍若クハ攻撃ヲ受ケル時ハ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルヲ得又戰界上臨機ノ處分ヲ要スル時ハ出征ノ司令官之ヲ宣告スルヲ得

第五條 平時土寇ヲ鎮定スル爲臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速ニ上奏シテ命ヲ請フヘシ若シ切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキトキハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルヲ得

第六條 軍團長師團長旅團長「鎮臺」營所要塞司令官警備隊司令官若クハ分遣隊或ハ艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣シ得ルノ權アル司令官トス(十九年勅令第七十四號ヲ以テ要塞司令官ノ下ニ警備隊云々十三字ヲ加フ)

第七條 戒嚴ノ宣告ヲ爲シタル時ハ直チニ其狀勢及ヒ事由ヲ具シテ之ヲ太政官ニ上申ス可シ但其隸屬スル所ノ長官ニハ別ニ之ヲ具申ス可シ

第八條 戒嚴ノ宣告ハ彙ニ布告シタル所ノ戰時若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルヲ得

第九條 臨戰地境ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ヲ限リ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速ニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十條 合圍地境内ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速ニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フヘシ

第十一條 合圍地境内ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ軍衛ニ於テ裁判ス

刑法

第二編

第一章 皇室ニ對スル罪、第二章 國事ニ關スル罪、第三章 靜謐ヲ害スル罪、第四章 信用ヲ害スル罪、第九章 官吏濫職ノ罪

第三編

第一章 第一節 謀殺故殺ノ罪、第二節 毆打創傷ノ罪、第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪、第七節 脅迫ノ罪

第二章

第二節 強盜ノ罪、第七節 放火失火ノ罪、第八節 決水ノ罪、第九節 船舶ヲ覆没スル罪、第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第十二條 合圍地境内ニ裁判所ナク又其管轄裁判所ト通路斷絶セシ時ハ民事刑事ノ別ナク總テ軍衛ノ裁判ニ屬ス

第十三條 合圍地境内ニ於ケル軍衛ノ裁判ニ對シテハ控訴上告ヲ爲ス可シ得ス

第十四條 戒嚴地境内ニ於テハ司令官ニ記列ノ諸件ヲ執行スルノ權ヲ有ス但其執行ヨリ生スル損害ハ要償スルヲ得ス

第一 集會若クハ新聞雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムル者ヲ停止スルヲ

第二 軍需ニ供ス可キ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸出ヲ禁止スルヲ



第十五編 徵發令

第三 銃砲彈藥兵器其他危險ニ涉ル諸物品ヲ所有スル者アル時ハ之ヲ検査シ時機ニ依リ押收スル

第四 郵便電報ヲ開封シ出入ノ船舶及ヒ諸物品ヲ検査シ並ニ陸海通路ヲ停止スル

第五 戰狀ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動産不動産ヲ破壊燬燒スル

第六 合圍地境內ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶中ニ立入り検査スル

第七 合圍地境內ニ寄宿スル者アル時ハ時機ニ依リ其地ヲ退去セシムル

第十五條 戒嚴ハ平定ノ後ト雖モ解止ノ布告若クハ宣告ヲ受クルノ日迄ハ其ノ効力ヲ有スル者トス

第十六條 戒嚴解止ノ日ヨリ地方行政事務司法事務及ヒ裁判權ハ總テ其常例ニ復ス

●法律規則中戰時ト稱スル場合 (十五年第三十七號布告)

凡ソ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ定ムルモノトス

●徵發令 (十五年第四十三號布告)

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ

地方人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ列記スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

- 一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官
- 二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長

三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令官官艦隊司令官分遣艦隊長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又

ハ艦長

第四條 徵發ス可キモノノ種類ニ依リ徵發區ニ定ムルコト左ノ如シ

- 一 第十二條第一項ハ 府縣
- 二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ 郡區
- 三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ 町村
- 四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ機車ハ 會社

第五條 徵發ス可キモノハ徵發區內ニ現在スルモノニ限ル

第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事(縣令)郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ

第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事(縣令)郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコト

ナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス

第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期

ニ違フトキハ府知事(縣令)郡區長戶長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ

辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ

第十條 徵發ヲ課セラレタルモノノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタル

トキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事(縣令)郡區長戶長若クハ停車場長船舶會

第十五編 徵發令

第十五編 徵發令

社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ

- 一 米麥秣藪鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭
  - 二 乘馬駄馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具  
三人夫
  - 四 宿舍廐園及ヒ倉庫
  - 五 飲水石炭
  - 六 船舶
  - 七 鐵道機車
  - 八 漕習ニ要スル地所
  - 九 演習ニ要スル材料器具
- 第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノ、外徵發ス可キモノ左ノ如シ但平時ノ演習及行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス
- 一 造船所工作所及軍事ノ工作ニ要スル材料器具
  - 二 職工破夫洗濯人ノ類
  - 三 破服裝具艸鞋兵器彈藥船具履具藥劑治療器械及ヒ綳帶具
  - 四 水車搗春ノ類
  - 五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 皇族所用ノ車馬
- 二 外國公使館并ニ領事館ニ屬スル車馬
- 三 乘馬本分タル職務ニ要スル匹馬
- 四 郵便用ノ車馬
- 五 公認セラレタル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 公務ニ屬スル麻署
- 二 皇族ノ邸宅
- 三 外國公使館領事館及其所屬館
- 四 鐵道電信郵便用ノ建造物
- 五 陸海軍將校并ニ同等官現住ノ家屋
- 六 博物館書籍館
- 七 病院盲啞院養兒院
- 八 學校但臨戰合圍地境内ニ在リテハ此限ニ在ラス
- 九 製造場内機械室

第十六條 第十二條第二項ニ掲クルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルコトヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此ノ限ニ在ラス

第十五編 徵發令

第十五編 徵發令

四二

第十七條 第十二條第二項ニ掲グルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ合圍地境内ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第二十一條 宿舍ヲ定メタル後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ移轉セシムルコトヲ許サス廠圍倉庫亦同シ

第二十二條 宿舍廠圍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ戰時若クハ事變ニ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ其業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲グルモノヲ業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ニ際ニ限ル但船橋及艇船ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル瀛車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ニ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲グルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境内ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシテ其輸送賃ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三箇月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵兵區毎ニ一括シテ府知事「縣令」郡區長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求スヘシ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戸長ニ届出ツ可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラス若シ其期限ヲ越エ又ハ期限内持主若クハ業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

- 一 四洋形船舶 七日間
- 二 地所 評價委員ノ告示スル時日間
- 三 其他ノ物件 一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三箇年間ノ平均價ヲ取リ之ヲ定ム

第十五編 徵發令

四三

其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ借賃ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノハ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ賃格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置クヘシ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノノ外左ノ區別ニ從フ  
一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃  
二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乗載量五分ノ三ニ滿チタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航船賃費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ解船ニ充テタルモノノ賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノノ外平常ノ定賃トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限リ賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ忌避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事「縣令」郡區長戸長停車場長船會社ノ店長其處置ヲ爲サル

ルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ  
貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタ  
ルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

●徵發事務條例 (十五年第二十六號布達)

第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムルモノトス

第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ酌量シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ

徵發書ヲ出ス可シ

第三條 徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ徵發スルコト

ヲ得

第四條 徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲グル特命司令官軍團長師團長艦隊司令長官ハ時機ニ依

リ其部下ヲ各團長若クハ各艦隊司令長官ニ徵發ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得

第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲グル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中ニ掲グル特

命司令官艦隊司令官分遣艦長ハ其獨立中ニ限リ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖

モ軍團若クハ二艦以上ニ編制セラレタルトキハ徵發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令長官

ノミ之ヲ有ス

第六條 徵發令第三條第二項中ニ掲グル演習及行軍ノ軍隊長トハ諸團隊ヲ統フル長<sup>士官</sup>ト言ヒ第三項

中ニ掲グル操練及ヒ航海ノ艦隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長<sup>士官</sup>ト言ヒ艦長トハ先任艦長又ハ獨立艦長ト

言フモノニシテ其長ノミ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置  
クト雖モ其部下ノ團隊若クハ各艦往返發著ノ地ヲ異ニスルトキハ往返中ニ限リ其團隊長若クハ艦長  
各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス (二十三  
年勅令  
第九十六號ヲ  
以テ本項追加)

第七條 徵發ニ應シタル人員ハ勉メテ彈丸ノ達セサル場所ニ於テ之ヲ使用ス可シ

第八條 徵發物件其徵發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戶長及

ビ證人二人<sup>其町村内ニ住スル親族又ハ預リ主又ハ同立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシムヘシ</sup>物品營業者ノ内ヨリ戶長ノ選定スルモノ

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ徵發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作

所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ從ヒ他ノ

同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應ス可キ人員亦同シ

第十條 徵發書ハ徵發令第六條ニ依リ府知事<sup>縣令</sup>郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス

可シト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ

町村ニ付ス可キモノヲ町村ニ付シ店長ニ付ス可キモノヲ船長ニ付スコトアル可シ

右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徵發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徵發ス

ルコトアル可シ此場合ニ於テハ徵發書ヲ用ヒス本人ニ受領證票ヲ交付スルニ止ル

本條ノ場合ニ於テハ徵發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事<sup>縣令</sup>郡區長戶長若クハ店長ニ其

旨ヲ通知ス可シ

第十五編 徵發事務條例

徵發令第十二條第二項ノ物件ニ限り場合ニ依リ徵發書ヲ北海道廳長官府縣知事ニ付スルコトヲ得

(二十三年勅令第百九十  
六號ヲ以テ本項追加)

第十一條 徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ晝夜ヲ別タス速ニ其處置ヲ爲スコシ

第十二條 徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク可キ官憲ニ報告スヘシ

町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事「縣令」ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戶長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事「縣令」ニ速ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ陸海軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ検査セシムルコトアルヘシ郡區長府知事「縣令」其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事「縣令」ハ他ノ郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條 府知事「縣令」徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官憲ニ報告ス可シ

第十四條 府知事「縣令」郡區長及ヒ戶長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條 徵發ヲ課セラレタルモノノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分スコシト雖モ正當ノ事由ヲ證明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス

第十六條 徵發令第十一條ニ掲グル受領證票ハ附錄第二號雜形ニ依リ調製スコシ

第十七條 受領證票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ屬スル物件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ徵用濟ノ後之ヲ交付スコシ但徵用濟ノ後交付スル場合ニ於テハ同令

第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項及ヒ第五項ニ掲グルモノヲ除クノ外當初領收ノ際假受領證ヲ交付スコシ

第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及ヒ第十三條第二項ニ掲グルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ並ニ同令第十二條第六項ニ掲グルモノノ船及ヒ船ヲ借切トシテ徵用スルトキハ特ニ本人若クハ操業者ニ受領證票ヲ交付スコシ

第十九條 徵發令第十五日以上ニ及フモノハ一箇月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領證票ヲ交付スコシ

第二十條 徵發令第十二條第一項ニ掲グルモノノ徵發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尙完全セサルトキニ限り他ノ人民ニ賦課スコシ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陥ヒラサラシムル爲メニ相當ノ分置ヲ各所有ノ許ニ殘シ置ク可シ其分置ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定スコシ

二 他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量

三 秣藁ハ家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條 郡區市長島司ハ陸軍省ノ定ムル雜形ニ依リ各區域内ニ於ケル家屋、人口、職業、越物、船舶等ニ關スル表ヲ調製シ之ヲ北海道廳府縣廳ニ差出スヘシ

第十五編 徵發事務條例

鐵道局長鐵道會社社長ハ陸軍省ノ定ムル雜形ニ依リ毎年十二月三十一日調ヲ以テ鐵道表ヲ製シ翌年三月三十一日限リ同省ヘ送付スヘシ又新ニ鐵道ヲ布設シ若ハ改築シタルトキハ其時鐵道表ヲ製シ陸

軍省へ送付スヘシ三十二年勅令第三百三十三號ヲ以テ改正

第二十二條 ~~十九年閣令第十~~

第二十三條 ~~十九年閣令第十~~

第二十四條 北海道廳長官府縣知事ハ陸軍省ノ定ムル雜形ニ依リ三箇年毎ニ牛馬車輛及同屬具表及

物産收穫表ヲ製シ郡區市長島司ヨリ差出シタル表ト共ニ翌年三月三十一日限リ陸軍省へ送付スヘシ

(同上)

第二十五條 北海道廳長官府縣知事ハ海軍省ノ定ムル雜形ニ依リ工場表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ

海軍省へ差出スヘシ

北海道廳長官府縣知事ハ海軍省ノ定ムル雜形ニ依リ汽船表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ

タル船舶アル海軍省ニ送付スヘシ但シ海軍大臣ハ便宜ニ依リ船舶會社ヲシテ直ニ送付セシムルコト

時ハ其時時

第二十六條 徵發令第十二條第二項第六項第七項ニ掲グルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル屬具ヲ併

セテ供給ス可キモノトス故ニ其屬具ニ對スル償價ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十七條 徵發令第十二條第六項ニ掲グル船舶中郵便船ニ限リ其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ル

コトヲ得ス又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ス

第二十八條 徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖厨ヲ指シ營業ニ必要ナル

場所トハ商估ノ店舗農工ノ仕事場ヲ云フ又旅店等トハ料理店貸座敷食廩等ヲ包含ス

第二十九條 宿舍ノ廢狹ハ徵發令等十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戶長ニ於テ賦課ノ際標

準ト爲ス可キモノヲ概定スルコト左ノ如シ

一 廳署

陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋

二 將官其參謀部ト共ニ

一家屋

三 上長官又ハ同等軍屬一名

一室

四 士官又ハ同等軍屬二名

一室

五 下士又ハ同等軍屬一名

一疊半乃至二疊

六 卒又ハ同等軍屬一名

一疊乃至一疊半

七 徵發ニ應シタル人員三名

二疊

第三十條 戶長ハ陸海軍ノ宿制主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ム可シ

第三十一條 徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サスト雖モ若シ該

家ニ病者死者等アルトキハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但シ之力爲メ徵發令

第二十二條ニ掲グル日限ヲ更新スルモノニアラス

第三十二條 徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食飼ノ定量大率ヲ左ノ如シト雖モ陸海軍給與

ノ規則ニ由リ定量以内ヲ以テ臨時ニ變換又ハ減少スルコトアル可シ

一人 精米每食二合 朝夕飯一汁一菜漬物 午飯一菜漬物

二馬 駐軍中 朝大麥二升秣五百目喰藁百五十目 糞秣五百目喰藁百五十目 夕大

麥二升秣五百目喰藁二百目 演習及行軍中 朝大麥二升秣五百目 糞大麥一升 夕大麥二升秣一貫目喰藁

第十五編 徵發事務條例

五百目

小麥ヲ大麥ニ喰糶ヲ秣糶ニ代用スルトキ 期小麥一升喰糶一貫目 糶小糶五合 夕

小糶一升五合喰糶二貫目

搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰糶ヲ秣糶ニ代用スルトキ

朝搗麥又ハ裸麥一升一喰糶一貫目 晝搗麥又ハ裸麥一升 夕搗麥又ハ裸麥二升喰糶

一貫目

廢棄ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スモノトス

第三十三條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ室内要所ノ燈火竝ニ其ノ他ノ慣用ニ從ヒ地爐者クハ火鉢

薪炭ニ毎室ニ一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス

第三十四條 寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セス徵發令第四十八條ニ從ヒ賠償ス

第三十五條 宿舍ヘ徵發ヲ課セラレタルモノ公有家屋社 寺亦同シ食飼ニ供ス可キ物品又ハ手傳人不足シ供給ヲ

爲シ能ハサルノ證アルトキハ戶長ニ於テ賄ノ受負ヲ立ツル歟若クハ物品及手傳人ヲ其本人ニ供スル

等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ准ス可シ

第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スルトキハ戶長ニ

於テ其物品ヲ供スヘシ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ准シテ處分ス可シ

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ證明スル

トキハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償ヲ以テ差引ヲ立ツ可シ

第三十八條 食飼ノ定賃ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲ニ

於テ其所々賠償金額ヲ定ムヘシ其借切トシテ徵發シタルトキ亦同シ

第三十九條 徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但時宜ニ依リ徵發區外ニ設クルコ

トヲ得(二十三年勅令百九十六)

トヲ得(號ヲ以テ次項共ニ正)

第四十條 徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之方爲

メニ生シタル費用ハ其ノ區ノ負擔トスヘキモノトス但差出場所ヲ徵發區外ノ地ニ設ケタルトキハ其

區外ニ係ル輸送費ハ當該官憲ヨリ賠償スヘシ(二十三年勅令第九十九)

第四十一條 郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセシムル爲メ隣接郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合

ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事(縣令)郡區戶長

若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示スヘシ

第四十三條 府知事(縣令)郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償金

計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領證書ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但シ徵發令第三十六條及ヒ

第三十八條ニ掲グルモノアルトキハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引ヲ立ツ可シ又評價ニ關スル件目ノ

賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ記載ス可シ

第四十四條 徵發令第三十一條ニ定ムル三箇月ノ期限ハ受領證書ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍

官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書ノ違算若

クハ不合式ニ依リ推問往復ノ爲メ消費シタル時日ハ算入セス

第十五編 徵發事務條例



第四十五條 徵發令第十二條第二項及第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償ス  
若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償ス可キモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條 徵發物件ノ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官憲既ニ出發セシトキハ戶長ニ届出可キモノトス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損果シテ使用ヨリ生シタルモノト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セサルトキハ評價委員ニ付スルシ  
戶長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ檢査シ其調査書ヲ作り供給者ノ請求金額ヲ其關係ノ陸海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由實況竝ニ請求金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ

第四十八條 徵發令第三十三條ニ掲グルル期日ヲ超エタル届出ハ之ヲ受理ス可カラス但變災厄難ニ罹リタルノ確證アルモノハ其變災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條 徵發令第三十四條ニ從ヒ北海道廳長官府縣知事ハ陸軍省海軍省協議ノ上定ムル雜形ニ依リ其管下市場三箇所以上ノ前三年間ノ平均物價表ヲ調製シ毎年三月三十一日限リ陸海軍省ニ差出ス  
ヘシ(同上)

第五十條 徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シテハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲メ臨時ニ騰貴セサル以前ノ賃價ヲ言フ

第五十一條 徵發令第三十五條及ヒ第三十八條ニ掲グルル平常ノ賃價雇賃借貸ハ郡區長確認ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ  
其他徵發令中ニ掲グルル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ戶長ヨリ陸海軍官憲ニ申出可シ

第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ倍償金ハ兩省同額タル可シ雖モ本條例第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食飼ノ定量ヲ變換若クハ減少スルニ於テハ其現量ニ從ヒ賠償ス可シ

第五十三條 徵發令第四十二條中航船實費トハ石炭油脂其他日用消耗品ノ航船中現ニ消耗シタルモノノ代價ニシテ其物品ヲ船積ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算ス可キモノトス

第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セズ但船積ヲ借切トシテ徵用シタル積込ニ物件ヲ操業者ト分別シテ徵用シタルトキノ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條 評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名徵發區ニ從ヒ府縣郡區吏員若クハ戶長一名及ヒ其町村ノ住民ニシテ其事件ニ熟達シタルモノノナキトキハ他二名若クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依テ決ス

鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル地所ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス

第五十六條 評價委員ニ採用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニシテ地方吏員若クハ戶長ニ於テ選舉ス可キモノトス

第十五編 徵發事務條例

其選舉セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條 其選舉セラレタル者ニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給ス可シ

第五十八條 評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戶長ノ派出ヲ要スルトキハ其事件ニ關係ノ陸海軍官憲ヨ

リ之ヲ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ通達ス可シ

第五十九條 評價ノ方法ハ評價ス可キモノ、種類ニ從ヒ精密ニ調査シ其價額ヲ評定スルヲ要トス左ニ

地所損害ニ關スル評價ノ一例ヲ掲ケ  
演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ届出タルトキハ評價委員ニ於テ實況ヲ查察シ其請求スル所ノ賠償金額ノ當

否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ過當ナリト認ムルトキハ

實測ス可シ  
評價委員ハ評價畢ルノ後左ニ掲ケル要目ニ准シ所有主毎ニ評價明細書ヲ製ス可シ

一 評價ノ事項及ヒ事由

二 委員ノ氏名

三 地面ノ廣袤ハ何ヲ以テ定メタルヤル歟又ハ實測シタル歟金額ノ算出ハ如何ナル方法ニ依リタル

ヤ其季ノ收穫皆無タルニ依リ其植物ノ前何年平均ヲ以テ賠償金ヲ定メタル歟其損害ノ度幾分ニ

止マリ其幾分ニ係ル賠償金額ヲ全部收穫ノ前何年平均額ヨリ算出シタルカ植物生熟ノ度ニ從

ヒ其平均收穫額ヲ應シ賠償ス可キ金額中ヨリ幾分ノ手間賃及ヒ肥料ヲ控除シタル歟又永存ノ

草木ニシテ毎年收穫アルモノノ損害ヲ受ケタルトキハ其損害ノ收實ニ止マルト枝幹ニ係ルモノト

ニ從ヒ一年若クハ幾年分ノ收穫ヲ

見込賠償金額ヲ定メタル歟ノ類  
第六十條 評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ交付ス可シ府知事縣令郡

區長若クハ戶長ハ其明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作り陸海軍官憲ノ指示スル場所ニ就テ賠償金額ノ  
請求ス可シ

(附錄略ス)

馬匹ノ調査及検査 (二十九年法律六十六號)

第一條 戰時若ハ事變ノ際軍馬ノ利給ヲ確實ナラシムル爲馬匹ノ調査及検査ヲ行フ

第二條 馬匹ノ調査ハ島司、郡市町村長之ヲ行ヒ其ノ検査ハ陸軍官憲之ヲ行フ但シ検査ハ一年一回ヲ

超ユルコトナシ

第三條 馬匹ノ所有者ハ馬匹ノ調査ニ必要ナル事項ヲ届出ヘシ

第四條 馬匹ノ所有者ハ指定ノ検査場ニ於テ馬匹ノ検査ヲ受ケヘシ

馬匹ノ検査ヲ受ケタル馬匹所有者ニハ手當及旅費ヲ給ス

第五條 徵發令ニ依リ徵發ノ免除ヲ受ケヘキ馬匹ニハ此ノ法律ヲ適用セス

第六條 馬匹ノ調査及検査ヲ行フヘキ區域時期馬匹ノ種類、第三條ノ届出事項及第四條ノ手當旅費ノ

金額ニ關スル規程並此ノ法律施行ノ爲必要ナル程規ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

第七條 東京市、京都市、大阪市ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル市長ノ職務ハ區長之ヲ行フ市制、町村制

ヲ施行セサル地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル市町村長ノ職務ハ區長戶長又ハ之ニ準スヘキ者之

ヲ行フ

第八條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十五編 馬匹ノ調査及検査

其選舉セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條 其選舉セラレタル者ニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給ス可シ

第五十八條 評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戸長ノ派出ヲ要スルトキハ其事件ニ關係ノ陸海軍官憲ヨ

リ之ヲ府知事縣令郡區長若クハ戸長ニ通達ス可シ

第五十九條 評價ノ方法ハ評價ス可キモノノ種類ニ從ヒ精密ニ調査シ其價額ヲ評定スルヲ要トス左ニ

地所損害ニ關スル評價ノ一例ヲ掲ク

演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ届出タルトキハ評價委員ニ於テ實況ヲ查覈シ其請求スル所ノ賠償金額ノ當

否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ過當ナリト認ムルトキハ

實測ス可シ

評價委員ハ評價畢ルノ後左ニ掲クル要目ニ准シ所有主毎ニ評價明細書ヲ製ス可シ

一 評價ノ事項及ヒ事由

二 委員ノ氏名

三 地面ノ廣袤ハ何チ以テ定メタルヤル歟又ハ實測シタル歟金額ノ算出ハ如何ナル方法ニ依リタル

ヤ其季ノ收穫皆無タルニ依リ其植物ノ前何年平均チ以テ賠償金ヲ定メタル歟其損害ノ度幾分ニ

止マリ其幾分ニ係ル賠償金額ヲ全部收穫ノ前何年平均額ヨリ算出シタルカ植物生熟ノ度ニ從

ヒ其平均收穫額料ニ應シ賠償ス可キ金額中ヨリ幾分ノ手間賃及ヒ肥料ヲ控除シタル歟又永存ノ

草木ニシテ毎年收穫アルモノノ損害ヲ受ケタルトキハ其損害ノ收買ニ止マルト枝幹ニ係ルモノト

ニ從ヒ一年若クハ幾年分ノ收穫ヲ見込賠償金額ヲ定メタル歟ノ類

第六十條 評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長若クハ戸長ニ交付ス可シ府知事縣令郡

區長若クハ戸長ハ其明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作り陸海軍官憲ノ指示スル場所ニ就テ賠償金額ノ

請求ス可シ

(附錄略ス)

●馬匹ノ調査及検査 (二十九年法律六十六號)

第一條 戦時若ハ事變ノ際軍馬ノ補給ヲ確實ナラシムル爲馬匹ノ調査及検査ヲ行フ

第二條 馬匹ノ調査ハ島司、郡市町村長之ヲ行ヒ其ノ検査ハ陸軍官憲之ヲ行フ但シ検査ハ一年一回ヲ

超ユルコトナシ

第三條 馬匹ノ所有者ハ馬匹ノ調査ニ必要ナル事項ヲ届出ヘシ

第四條 馬匹ノ所有者ハ指定ノ検査場ニ於テ馬匹ノ検査ヲ受ケヘシ

馬匹ノ検査ヲ受ケタル馬匹所有者ニハ手當及旅費ヲ給ス

第五條 徵發令ニ依リ徵發ノ免除ヲ受ケヘキ馬匹ニハ此ノ法律ヲ適用セス

第六條 馬匹ノ調査及検査ヲ行フヘキ區域時期、馬匹ノ種類、第三條ノ届出事項及第四條ノ手當旅費ノ

金額ニ關スル規程並此ノ法律施行ノ爲必要ナル程規ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

第七條 東京市、京都市、大阪市ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル市長ノ職務ハ區長之ヲ行フ市制、町村制

ヲ施行セサル地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル市町村長ノ職務ハ區長、戸長又ハ之ニ準スヘキ者之

ヲ行フ

第八條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十五編 馬匹ノ調査及検査

## 第十六編 官制

### ●内閣官制 (二十二年勅令第百三十五號)

第二條 内閣ハ國務各大臣ヲ以テ組織ス

第二條 内閣總理大臣ハ各大臣ノ首班トシテ職務ヲ奏宣シ旨ヲ承ケテ行政各部ノ統一ヲ保持ス

第三條 内閣總理大臣ハ須要ト認ムルトキハ行政各部ノ處分又ハ命令ヲ中止セシメ勅裁ヲ待ツコトヲ得

第四條 凡ソ法律及一般ノ行政ニ係ル勅令ハ内閣總理大臣及主任大臣之ニ副署スヘシ勅令ノ各省委任ノ行政事務ニ屬スル者ハ主任ノ各省大臣之ニ副署スヘシ

第五條 左ノ各件ハ閣議ヲ經ヘシ

一 法律案及豫算決算案

二 外國條約及重要ナル國際條件

三 官制又ハ規則及法律施行ニ係ル勅令

四 諸省ノ間主管權限ノ爭議

五 天皇ヨリ下付セラレ又ハ帝國議會ヨリ送致スル人民ノ請願

六 豫算外ノ支出

七 勅任官及地方長官ノ任命及差遣

其ノ他各省主任ノ事務ニ付キ高等行政ニ關係シ本體稍重キ者ハ總テ閣議ヲ經ヘシ

第十六編 賞勳局官制

第六條 主任大臣ハ其ノ所見ニ由リ何等ノ件ヲ問ハス内閣總理大臣ニ提出シ閣議ヲ求ムルコトヲ得

第七條 事ノ軍機軍令ニ係リ奏上スルモノハ天皇ノ旨ニ依リ之ヲ内閣ニ下付セラルノ件ヲ除ク外陸

軍大臣海軍大臣ヨリ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第八條 内閣總理大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時命ヲ承ケ其ノ事務ヲ代理スヘシ

第九條 各省大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時擔任シ又ハ命ヲ承ケ其ノ事務ヲ管理スヘシ

第十條 各省大臣ノ外特旨ニ依リ國務大臣トシテ内閣員ニ列セシメラルコトアルヘシ

●賞勳局官制 (二十六年勅令第百十六號)

第一條 賞勳局ハ内閣ニ隸シ左ノ事務ヲ掌ル

一 勳位、勳章及年金ニ關スル事項

二 記章、褒章其ノ他賞件ニ關スル事項

三 外國ノ勳章、記章ノ受領及佩用ニ關スル事項

第二條 賞勳局ニ左ノ職員ヲ置ク(三十一年勅令第百五十二號ヲ以テ改正)

總裁 一人 勅任

書記官 專任二人 奏任

屬 六人 列任

第三條 總裁ハ局中一切ノ事務ヲ管理シ所部ノ官吏ヲ監督ス

第四條 (削除)

第五條 奏任官ノ進退ハ總裁之ヲ内閣總理大臣ニ具狀シ列任官以下ハ之ヲ專行ス

第六條 書記官ハ總裁ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌理ス

第七條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ務庶ニ從事ス

附 則

第八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●法制局官制 (二十六年勅令第百十八號)

第一條 法制局ハ内閣ニ隸シ左ノ事務ヲ掌ル

一 内閣總理大臣ノ命ニ依リ法律命令案ヲ起草シ理由ヲ具ヘテ上申スルコト

二 法律命令ノ制定、廢止、改正ニ付意見アルトキハ案ヲ具ヘテ内閣ニ上申スルコト

三 各省大臣ヨリ閣議ニ提出スル所ノ法律命令案ヲ審査シ意見ヲ具ヘ又ハ修正ヲ加ヘテ内閣ニ上

申スルコト

四 前諸項ニ揚グルモノ、外内閣總理大臣ヨリ諮詢アルトキハ意見ヲ具ヘテ上申スルコト

第二條 法制局ニ左ノ職員ヲ置ク(三十一年勅令第百五十四號ヲ以テ改正)

長官 一人 勅任

參事官 專任十人 奏任

但シ内二人ハ勅任トス

書記官 二人 奏任(參事官ヲシテ之ヲ兼ネシム)

屬 專任十一人 列任

法制局ニ左ノ二部ヲ置ク其ノ事務分掌ハ長官之ヲ定ム

第十六編 法制局官制

第十六編 文官試験委員官制

第一部

部長ハ參事官ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 長官ハ局中一切ノ事務ヲ管理シ所部ノ官吏ヲ監督ス

第四條 奏任官ノ進退ハ長官之ヲ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第五條 長官事故アルトキハ上席參事官其ノ職務ヲ代理ス

第六條 參事官ハ長官ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌ル

第七條 書記官ハ長官ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌理ス

第八條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附則

第九條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●文官試験委員官制 (二十七年勅令第五十四號)

第一章 文官高等試験委員

第一條 文官高等試験委員ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ文官高等試験及奏任文官任用ノ銓衡ニ關スル

事務並文官普通試験科目ニ關スル事務ヲ掌ス

第二條 文官高等試験委員ハ委員長常任委員及臨時委員ヲ以テ組織シ各官廳高等官ノ中ヨリ内閣總理

大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第三條 文官高等試験委員長ハ委員ヲ監督シ其ノ一切ノ事務ヲ統理ス

第四條 文官高等試験常任委員ハ三人ヲ以テ定員トシ委員長ノ監督ヲ承ケ文官高等試験及奏任文官任用ノ銓衡ニ關スル事務並ニ文官普通試験科目ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 文官高等試験臨時委員ハ文官高等試験施行ノ際之ヲ命ス委員長ノ監督ヲ承ケ文官高等試験ノ

事ヲ掌ル

第六條 文官高等試験委員長及常任委員ニハ一箇年三百圓以内臨時委員ニハ二百圓以内ニ於テ事務ノ

繁簡ニ從ヒ手當トシテ之ヲ給ス

第七條 文官高等試験委員ノ事務ニ關シ常任書記及臨時書記ヲ置ク

第八條 常任書記ハ内閣所屬又ハ法制局判任官臨時書記ハ各官廳ニ奉職スル吏員ノ中又ハ其他ヨリ之

ヲ命ス

書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第九條 常任書記ハ三人ヲ以テ定員トシ臨時書記ハ文官高等試験施行ノ際必要ニ照シ之ヲ命ス

第十條 書記ニハ職務ノ繁簡ニ從ヒ百圓以内ノ手當ヲ給ス

第二章 文官普通試験委員

第十一條 文官普通試験委員ハ之ヲ各官廳ニ置ク長官ノ監督ニ屬シ文官普通試験及判任文官任用ノ銓

衡ニ關スル事務ヲ掌ス

第十二條 中央官廳ノ文官普通試験委員長及委員ハ長官其ノ廳ノ高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

第十三條 地方官廳ノ文官普通試験委員長及委員ハ長官其ノ廳ノ官吏及府縣立學校教官ノ中ヨリ之ヲ

命ス但北海道ニ在テハ札幌農學校教官ヲ以テ之ニ加フルコトヲ得

第十六編 文官試験委員官制

第十六編 内閣所屬職員官制

第十四條 文官普通試験委員長ハ委員ヲ監督シ其ノ一切ノ事務ヲ統理ス

第十五條 文官普通試験委員ハ委員長ノ監督ヲ承ケ文官普通試験及判任文官任用ノ銓衡ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條 文官普通試験委員ノ事務ニ關シ書記ヲ置キ各官廳ノ判任官ノ中ヨリ之ヲ命ス  
書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

●内閣所屬職員官制 (三十一年勅令第二百五十五號)

第一條 内閣所屬ノ職員左ノ如シ

書記官長 一人 勅任

統計局長 一人 勅任

恩給局長 一人 勅任 法制局長官ヲシテ之ヲ兼ネシム

書記官 專任四人 奏任

内閣總理大臣秘書官 專任二人 奏任

統計局審査官 專任二人 奏任

恩給局審査官 專任一人 奏任

圖 九十三人 判任

第二條 書記官長ハ内閣總理大臣ノ命ヲ承ケ機密文書ヲ管掌シ内閣ノ庶務ヲ統理シ及判任官以下ノ進退ヲ專行ス

第三條 書記官ハ内閣總理大臣又ハ書記官長ノ命ヲ承ケ左ノ事務ヲ掌ル

一 詔勅及法律命令ノ發布ニ關スル事項

二 大日本帝國憲法及法律勅令ノ原本ノ保存ニ關スル事項

三 公文ノ査閱、起草、受授及保存ニ關スル事項

四 官印ノ管守ニ關スル事項

五 内閣ノ會計ニ關スル事項

六 各廳高等官ノ履歷ニ關スル事項

七 内閣記録ノ編纂ニ關スル事項

八 内閣所管圖書ノ類別、購買、保存及出納並其ノ目錄調製ニ關スル事項

九 内閣所用圖書ノ出版ニ關スル事項

第四條 各局長ハ内閣總理大臣又ハ内閣書記官長ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ理掌シ所屬職員ヲ監督ス

第五條 統計局長ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 行政各部統計ノ統一ニ關スル事項

二 行政各部ニ專屬セサル統計ニ關スル事項

三 統計ニ關スル報告ノ刊行ニ關スル事項

四 内外統計表ノ交換ニ關スル事項

五 各官廳ノ統計主任者ノ招集及會議ニ關スル事項

第六條 恩給局長ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 恩給及扶助料ヲ受ケヘキ資格及權利ノ審査並裁決ニ關スル事項

第十六編 内閣所屬職員官制

第十六編 印刷局官制

二 恩給及扶助料ノ支給ニ關スル事項

第七條 内閣總理大臣秘書官ハ大臣官房ノ事務ヲ掌ル

第八條 統計局審査官ハ統計局長ノ命ヲ承ケ各種ノ統計ヲ擔任ス

第九條 恩給局審査官ハ恩給局ノ事務ヲ掌ル

第十條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

二 附則

第十一條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

●印刷局官制 (三十一年勅令第二百五十六號)

第一條 印刷局ハ内閣總理大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 官報、法令、會書及職員録ノ編輯並發賣ニ關スル事項

二 官報其ノ他文書ノ印刷ニ關スル事項

三 印紙、郵便切手並諸證券等ノ製造ニ關スル事項

四 抄紙ニ關スル事項

第二條 印刷局ニ左ノ職員ヲ置ケ

局長一人 勅任

事務官一人 委任

技師三人 委任

一屬三十六人 列任

技手 四十五人

第三條 局長ハ内閣總理大臣又ハ内閣書記官長ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條 事務官ハ局長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第五條 技師ハ局長ノ命ヲ承ケ工務ヲ監理ス

第六條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

附則

第八條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

●法典調査會規則 (二十七年勅令第三十號)

第一條 法典調査會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ法典及附屬法令ノ改正又ハ制定ニ關スル事項ヲ起案

審議シ並條約ノ實施ニ必要ナル事項ヲ調査ス (三十二年勅令第四十八號ヲ

前項ニ掲ケタル事項ノ外法令ニ關シ内閣總理大臣ノ諮詢アルトキハ意見ヲ上申ス)

以テ) 第二條 法典調査會ハ總裁副總裁各一人及委員三十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 總裁、副總裁及委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第四條 委員ニシテ引續キ二箇月以上會議ニ出席セサル者アルトキハ總裁ヨリ之ヲ内閣總理大臣ニ

具申スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ内閣總理大臣ヨリ奏請ノ上其委員ヲ免ス

第十六編 印刷局官制 法典調査會規則



第十六編 鐵道國有調査會規則

- 第五條 法典調査會ノ議事及會務整理ニ關スル規則ハ内閣總理大臣之ヲ定ム
- 第六條 總裁ハ議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ内閣總理大臣ニ具申ス
- 第七條 副總裁ハ總裁ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ管理シ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス  
副總裁ハ前項外委員ト同一ノ資格ヲ以テ議事ニ列ス
- 第八條 法典調査會ニ部長四人、起草委員及主査委員若干人ヲ置キ委員中ニ就キ總裁之ヲ命ス(同上)
- 第九條 總裁副總裁及委員ニハ一箇年千圓以内ノ手當ヲ給ス但起草委員及主査委員ニハ二千圓以内ヲ給スルコトヲ得(同上)
- 第十條 法典調査會ニ補助委員八人以内ヲ置キ起草委員及主査委員ノ職務ヲ補助セシム(同上)
- 第十一條 法典調査會ニ書記若干人ヲ置キ議事ノ筆記及庶務ニ從事セシム
- 第十二條 補助委員ニハ一箇年六百圓以内ノ書記ニハ五百圓以内ノ手當ヲ給ス(同上)
- 鐵道國有調査會規則(三十二年勅令第四十三號)
- 第一條 鐵道國有調査會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ私設鐵道買收ニ關スル事項ヲ調査ス
- 第二條 鐵道國有調査會ハ會長副會長各一人委員二十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス  
前項定員ノ外臨時ノ須要ニ應ジ臨時委員若干人ヲ置クコトヲ得
- 第三條 會長副會長及委員ハ文武高等官帝國議會議員其ノ他鐵道經濟ニ關シ學識經驗アル者ノ内ヨリ選定シ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス
- 第四條 鐵道國有調査會ノ議事及會務整理ニ關スル規則ハ内閣總理大臣之ヲ定ム
- 第五條 會長ハ議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ内閣總理大臣ニ具申ス

- 第六條 副會長ハ委員ト同一ノ資格ヲ以テ議事ニ列シ會長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス
- 第七條 鐵道國有調査會ニ幹事一人ヲ置ク  
幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス
- 第八條 鐵道國有調査會ニ書記若干人ヲ置ク  
書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス
- 第九條 書記ニハ一箇年三百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得
- 議院建築調査會規則(三十二年勅令第五百十九號)
- 第一條 議院建築調査會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ議院ノ建築ニ關スル事項ヲ調査ス
- 第二條 議院建築調査會ハ會長副會長各一人委員十六人以内ヲ以テ之ヲ組織ス  
前項定員ノ外臨時ノ須要ニ應ジ臨時委員若干人ヲ置クコトヲ得
- 第三條 會長副會長委員ハ高等文官帝國議會議員其他建築ニ關シ學識經驗アル者ノ中ヨリ選定シ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス
- 第四條 議院建築調査會ノ議事及會務整理ニ關スル規則ハ内閣總理大臣之ヲ定ム
- 第五條 會長ハ議事ヲ整理シ其決議ヲ内閣總理大臣ニ具申ス
- 第六條 副會長ハ委員ト同一ノ資格ヲ以テ議事ニ列シ會長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス
- 第七條 議院建築調査會ニ幹事一人ヲ置ク  
幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス
- 第八條 議院建築調査會ニ書記若干人ヲ置ク
- 第十六編 議院建築調査會規則

第十六編 樞密院官制及事務規程

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第九條 書記ニハ一箇年三百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

●樞密院官制及事務規程（二十一年勅令第二十二號）

樞密院官制

第一章 組織

第一條 樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢スル所トス

第二條 樞密院ハ議長一人副議長一人顧問官二十五人書記官三人ヲ以テ組織ス（二十三年勅令）

第二百十六號ヲ以テ改正シ及二十六勅令

第二百二十號ヲ以テ書記官五人ヲ三人ニ改ム

第三條 樞密院ノ議長副議長顧問官ハ親任書記官長ハ勅任書記官ハ奏任トス

第四條 何人タリトモ年齢四十歳ニ達シタルモノニ非サレハ議長副議長及顧問官ニ任スルコトヲ得ス

第五條 議長ハ書記官ノ内ヲ以テ秘書官ヲ兼ネシムルコトヲ得

第二章 職掌

第六條 樞密院ハ左ノ事項ニ付諮詢ヲ待テ會議ヲ開キ意見ヲ上奏ス（二十三年勅令第二百十六號ヲ以テ各項共改正）

一 皇室典範ニ於テ其權限ニ關セシメタル事項

二 憲法ノ條項又ハ憲法ニ附屬スル法律勅令ニ關スル草案及疑義

三 憲法第十四條戒嚴ノ宣告同第八條及第七十條ノ勅令及其他則ノ規定アル勅令

四 列國交渉ノ條約及約束

五 樞密院ノ官制及事務規程ノ改正ニ關スル事項

六 前諸項ニ掲ケルモノノ外臨時ニ諮詢セラレタル事項

第七條 前條第三項ニ掲ケタル勅令ニハ樞密院ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載スヘシ

第八條 樞密院ハ行政及立法ノ事ニ關シ天皇ノ至高ノ顧問タリト雖モ施政ニ干與スルコトナシ

第三章 會議及事務

第九條 樞密院ノ會議ハ顧問官十名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十條 樞密院ノ會議ハ議長之ニ首席シ議長事故アルトキハ副議長之ニ首席ス議長副議長共ニ事故アルトキハ顧問官其席次ニ依リ首席スヘシ

第十一條 各大臣ハ其職權上ヨリ樞密院ニ於テ顧問官タルノ地位ヲ有シ議席ニ列シ表決ノ權ヲ有ス又

各大臣ハ委員ヲ差シテ會議ニ出席シ演述及説明ヲ爲サシムルコトヲ得但表決ノ數ニ加ラス

第十二條 樞密院ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス但可平等ノ場合ニ於テハ會議首席ノ決スル所ニ依ル

第十三條 議長ハ樞密院ニ屬スル一切ノ事務ヲ總管シ樞密院ヨリ發スル一切ノ公文ニ署名ス

副議長ハ議長ノ職務ヲ輔佐ス

第十四條 書記官長ハ議長ノ監督ヲ受ケ樞密院ノ常務ヲ管理シ一切ノ公文ニ副署シ會議ニ付スヘキ事項ヲ審査シテ報告書ヲ調製シ會議ニ列シ辨明ノ任ニ當ル但表決ノ數ニ加ラス

書記官ハ會議ニ於テ議事ヲ筆記シ及書記官長ノ職務ヲ輔佐シ書記官長事故アルトキハ書記官之ヲ代理ス

前項ノ筆記ハ出席員ノ姓名會議ノ事件質問答辯及議決ノ要旨ヲ記載スルモノトス

第十五條 特別ノ場合ヲ除クノ外豫メ審査報告書ヲ調製シ其會議ニ必用ナル書類ト共ニ之ヲ各員ニ配

第十六編 樞密院官制及事務規程

第十六編 樞密院官制及事務規程

達シタル後ニ非レハ會議ヲ開クコトヲ得ス  
議事日程及報告ハ豫メ各大臣ニ通報スヘシ

樞密院事務規程

第一條 樞密院ハ勅命ニ由リ會議ニ下付セラレタル事項ニ付意見ヲ述フ

第二條 樞密院ハ帝國議會若クハ其一院又ハ官署又ハ臣民ヨリ請願上書其他通信ヲ受領スルコトヲ得

ス

第三條 樞密院ハ内閣及各省大臣トノミ公務上ノ交渉ヲ有シ其他ノ官署帝國議會又ハ臣民トノ間ニ文

書ヲ往復シ又ハ其他ノ交渉ヲ有スルコトヲ得ス

第四條 議長ハ樞密院ニ到達スルノ事項ハ書記官長ニ下付シテ之ヲ審査セシメ及會議ニ付スヘキ事項

ヲ報告ヲ調製セシム

議長ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テ親ヲ報告ノ任ニ當リ又ハ顧問官一人若クハ數人ニ之ヲ任スルコ

トヲ得ヘシ

第五條 審査報告書ハ報告員ヨリ之ヲ議長ニ提出スヘシ

臨時緊急ノ場合ニ於テハ口頭ヲ以テ報告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其要領ヲ簡短ニ第八條ニ載

スル件名簿ニ記入スヘシ

第六條 議長ハ審査報告書ヲ整頓スヘキ期日ヲ限定スルコトヲ得報告ハ成ルヘク速ニ之ヲ調製シテ選

延スルコトヲ許サス

内閣ハ至急ヲ要スル事件ニ付其由ヲ通知シ及其會議ノ期日ヲ限定スルコトヲ得

第七條 審査報告書ハ附屬文書ト共ニ其會議ヲ開クノ日ヨリ少クモ三日以前ニ之ヲ各員ニ配達スヘシ

第八條 件名簿ハ會議ノ期日ノ順序ニ從ヒ之ヲ記入スヘシ件名簿ニ登載スヘキ事項ハ第一事件ノ性質

第二會議ノ前文書配達ノ日時第三其會議ノ期日等トス

會議ニ付スヘキ各件ニ就テハ前項ニ同シキ議事日程ヲ調製シ其會議ヲ開クノ日ヨリ三日以前ニ各員

ニ通報スヘシ此通報ハ會議ノ招狀ヲ兼ヌルモノトス

第九條 樞密院ノ會議ノ日時ハ議長之ヲ定ム但各大臣ハ其日時ノ變更ヲ求ムルコトヲ得

第十條 樞密院ノ會議ハ左ノ規程ニ循由シ議長若シクハ副議長之ヲ整理スヘシ

議長ハ書記官長ヲシテ其事件ヲ辯明セシメ次ヲ各員ヲシテ自由ニ討論セシム何人タリト雖モ議長ノ

許可ヲ受クルニ非レハ發言スルコトヲ得議長ノ討論ニ參與スルハ其自由ニ屬スルモノトス討論既

ニ盡ルノ後ハ議長ヨリ問題ヲ定メ表決ヲ爲サシム

議決ノ結果ハ議長之ヲ言明スヘシ

第十一條 議事日程ニ掲載シタル事件ノ會議其當日ニ結了セサルトキハ之ヲ他日ニ延會スルコトヲ得

此場合ニ於テハ更ニ常例ノ定式ヲ踐行スルコトヲ要セス

第十二條 樞密院ノ會議ノ意見ハ書記官長又ハ書記官表決ノ結果ニ依リ之ヲ起草シ議長ノ檢閱ヲ請フ

ヘシ此意見ニハ理由ヲ附シ重要ノ事件ニ就テハ討論ノ要領書ヲ附屬スヘシ

反對ノ議論ヲ主持シタル出席員ハ其表決ト其理由トヲ議事筆記理由書又ハ要領書ニ記入セラレンコ

トヲ求ムルコトヲ得

第十三條 前條ノ意見ハ議長ヨリ天皇ニ上奏シ同時ニ内閣總理大臣ニ通報スヘシ

第十六編 樞密院官制及事務規程

第十六編 宮内省官制

第十四條 樞密院ノ會議ノ議事筆記ハ議長及書記官長又ハ出席書記官之ニ署名シ其正確ヲ表明スヘシ

●宮内省官制 (二十二年宮内省達第十號)

第一條 宮内大臣ハ帝室ニ關スル一切ノ事務ヲ總判シ所部各官ヲ統督シ兼テ華族ヲ監督ス

第二條 宮内大臣ハ皇室典範ニ於テ制定セラレタルモノヲ除クノ外勅ヲ奉シテ帝室ニ關スル諸法規ヲ制定施行スルコトヲ得但法律勅令ニ牴觸スルコトヲ得ス

第三條 宮内大臣ハ皇室典範ニ於テ制定セラレタル主務及前條法規ニ關シ施行細則ヲ定ムルコトヲ得但其重要ナルモノハ裁可ヲ經可シ

第四條 宮内大臣ハ例規ニ依リ宮儀祭典行幸行啓其他主任ニ屬スル帝室事務ニ關シ臣民ニ命令告示スルコトヲ得

第五條 宮内大臣ハ臨時勅ヲ奉シ若クハ例規ニ依リ救恤褒賞贈賜ノ事ヲ施行ス

第六條 宮内大臣ハ主任ノ事務ニ關シ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ示命スルコトヲ得

第七條 宮内大臣ハ事故アルトキハ次官ヲシテ其職務ヲ代理シムルコトヲ得又次官事故アルトキ及所部各部長缺員若クハ事故アルトキハ裁可ヲ經テ所部高等官ニ代理ヲ命スルコトヲ得

第八條 宮内大臣ハ次官及所部各部長ニ其事務ノ幾部ヲ委任スルコトヲ得

第九條 宮内大臣ハ所部各局内ノ各課ヲ廢置分合シ及其處務規程ヲ定ムルコトヲ得

第十條 宮内大臣ハ所部委任官ノ進退ハ之ヲ上奏シ判任官ノ進退及委任官以下俸給定限内ノ増減ハ之ヲ專行ス准官モ亦同シ

第十一條 宮内大臣ハ所部各官定員内ニ於テ委任官試補判任官見習ヲ置クコトヲ得准官モ亦同シ

第十二條 宮内大臣ハ裁可ヲ經ルニ非サレハ官制定限外ニ所部高等官ヲ増加シ又ハ兼任ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第十三條 宮内大臣ハ帝室ノ事務ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ裁可ヲ經テ勅委任官又ハ華族ニ委員ヲ命スルコトヲ得其所部外ニ涉ル者ハ豫メ該長官ノ承諾ヲ受ク可シ

第十四條 宮内大臣ハ帝室ノ事務ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ補助員顧問員評議員ヲ置クコトヲ得其委任以上ノ待遇ニ屬スル者ハ裁可ヲ請フ可シ

第十五條 宮内大臣ハ裁可ヲ經テ人員及其待遇ノ資格ヲ定メ華族勤務ヲ命スルコトヲ得其委任以上ノ待遇ニ屬スル者ハ上奏ス可シ

第十六條 宮内大臣ハ豫算金額内ヲ以テ所部官吏及委員補助員顧問員評議員勤務華族ニ賞與又ハ報酬ヲ爲スコトヲ得其賞與ノ委任以上及同等ノ待遇ニ屬スルモノハ上奏ス可シ

第十七條 宮内大臣ハ旨ヲ奉シテ皇族ノ敘勳ヲ賞勳局總裁ニ示命ス可シ又所部官吏ノ敘勳ハ賞勳局總裁ニ申牒ス可シ

第十八條 宮内大臣ハ例規ニ依リ文武官宮内官及華族士民ノ叙位ヲ上奏及奉宣ス

第十九條 宮内大臣ハ事務ノ現況ニ依リ所部官吏ニ非職休職ヲ命シ又ハ復職セシムルコトヲ得其勅任官ニ係ルモノハ裁可ヲ請フ可シ

第二十條 宮内大臣ハ例規ニ照シ所部官吏「及華族」ヲ懲戒スルコトヲ得

第二十一條 「宮内大臣ハ毎年二月後年度ノ收支豫算ヲ調製シ裁可ヲ經テ之ヲ定ム可シ但已ムヲ得サルノ事故アリテ臨時増額又ハ別途支出ヲ要スルコトアルトキハ裁可ヲ請フ可シ」

第十六編 宮内省官制

第十六編 宮内省官制

第二十二條 「宮内大臣ハ毎年八月前年度ノ收支結算ヲ了シ之ヲ上奏ス可シ」

第二十三條 宮内大臣ハ帝室會計審査ノ實務ニ關涉スルコトヲ得ス

第二十四條 宮内省ニ宮内次官一人ヲ置ク一等トス宮内大臣ヲ輔ケテ省務ヲ管理ス又大臣ヨリ委任ヲ受ケタル事務ハ之ヲ專行ス

第二十五條 宮内省ニ宮内書記官六人ヲ置ク奏任トス宮内大臣及次官ノ命ヲ受ケ省務ヲ掌理ス但シ親王ニ專屬スル書記官ヲ置クハ此限ニ在ラス

第二十六條 宮内大臣官房ニ左ノ職員ヲ置キ官房ノ庶務ヲ管理ス

宮内大臣秘書官 二人 奏任

大臣ニ專屬シテ文書往復其他官房内ノ庶務ヲ掌理ス但省務ノ現況ニ依リ書記官又ハ各部局ノ事務ヲ補助セシムルコトアルヘシ

宮内屬 判任

第二十七條 宮内省ニ内事外事調査ノ三課ヲ設ケ左ノ職員ヲ置キ事務ヲ掌理ス

内事課長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

内事ニ屬スル事務ヲ掌理シ課長ヲ監督ス

内事課次長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

課務ヲ掌理ス

外事課長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

外事ニ屬スル事務ヲ掌理シ課長ヲ監督ス

外事課次長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

課務ヲ掌理ス

調査課長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

帝室ニ關スル制令法規及財産財務ニ關スル文案ヲ起草審査シ兼テ報告統計ノ事ヲ掌理シ課長ヲ監督ス

調査課次長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

課務ヲ掌理ス

宮内屬 判任

第二十八條 宮内省ニ左ノ各部局ヲ設ケ事務ヲ分管ス 侍從職、式部職、皇后宮職、内藏寮、御料局、爵位局、大膳職、主殿寮附皇宮警察署、圖書寮、

内匠寮、主馬寮、諸陵寮、侍醫局、主獵局、調度局、帝室會計審査局

第二十九條 侍從職ニ左ノ職員ヲ置キ常侍奉仕シ主管ニ關スル御服御物ヲ管守ス

侍從長 一人 親任

職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス

侍從 十五人 二人 二等 十三人 三等以下六等以上

常侍奉仕シ御服御物ヲ分掌ス

侍從試補 三人 七等八等

掌侍從ニ亞ク

第十六編 宮内省官制

第十六編 宮内省官制

判任

第三十條 式部職ニ左ノ職員ヲ置キ帝室ノ祭儀典式及雅樂ノ事ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル  
但式部官掌典ハ名譽職ヲ置クコトヲ得

式部長 一人 一等

職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス

式部次長 一人 二等

職務ヲ掌理ス

式部主事 二人 奏任  
式部官ヨリ兼任

庶務ヲ掌理ス

式部官 二十八人 二等五人及三等以下ノ内十七人を名譽職トス

儀式ノ務ニ服ス

式部屬 判任

掌典長 一人 一等

祭典ヲ掌ル

掌典 九人 奏任

祭典ニ從事ス

掌典補 判任

准奏任五等六等

式部官掌典ノ内ヨリ兼補

雅樂部長 一人

樂部ヲ掌理シ部員ヲ監督ス

雅樂部副長 一人 准奏任七等八等

掌部長ニ亞ク

伶人長 准判任

伶人 准判任

伶員 等外

樂師長 准判任

樂師 准判任

樂手 准判任

樂生 等外

第三十一條 「皇太后宮職ニ左ノ職員ヲ置キ宮事ヲ管理シ供御服用度管轄及主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

皇太后大夫 一人 二等

職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス

皇太后宮亮 一人 奏任

職務ヲ掌理ス

皇太后宮屬 判任

宮丁 等外

第十六編 宮内省官制

第十六編 宮内省官制

第三十二條 皇后宮職ニ左ノ職員ヲ置キ宮事及内廷ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

皇后宮大夫 一人 二等

職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス

皇后宮亮 一人 奏任

職務ヲ掌理ス

皇后宮屬 判任

第三十三條 内藏寮ニ左ノ職員ヲ置キ皇室經費及主管ニ屬スル財産會計ヲ管理ス

内藏頭 一人 一等二等

寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス

内藏助 一人 奏任

寮務ヲ掌理ス

内藏屬 判任

第三十四條 御料局ニ左ノ職員ヲ置キ世傳御料及主管ニ屬スル財産會計ヲ掌理ス

御料局長 一人 二等二等

局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス

御料局主事 三人 奏任

局務ヲ掌理ス

御料局理事 五人 奏任(二十三年宮内省選第八號) (ナ以テ四人五人ナニ改ム)

支廳長ニ任ス其職制ハ別ニ之ヲ定ム

御料局屬 判任

御料局技師 二十二名 奏任(二十三年宮内省選第十七號) (以テ十二人ナニ改ム)

御料地ノ實業ニ從事ス

御料局技手 判任

御料局技手袖 判任(二十三年宮内省選第十三號) (ナ以テ六等以下ヲ四等以下ト改ム)

御料局監守 准判任(二十三年宮内省選第四號) (ナ以テ六等以下ヲ四等以下ト改ム)

第三十五條 爵位局ニ左ノ職員ヲ置キ爵位及華族ニ關スル事務ヲ管理ス

爵位局長 一人 一等二等

局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス

爵位局主事 三人 奏任

局務ヲ掌理ス

爵位局屬 判任

「爵位局審理官 臨時省中高等官ヨリ兼補」

「華族懲戒審理ノ事ヲ掌ル」

第三十六條 大膳職ニ左ノ職員ヲ置キ供御饗宴及其器具ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

「但皇太后宮職主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス」

第十六編 宮内省官制

第十六編 宮内省官制

大膳大夫 一人 二等三等

職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス

大膳亮 一人 四等以下

職務ヲ掌理ス

大膳屬 判任

膳部長 准判任三等以上

膳部副長 准判任三等四等 (二十三年宮内省達第十三號ヲ以テ四等以下六等以上トアルヲ三等四等ト改ム)

膳部 准判任四等以下 (二十三年宮内省達第十三號ヲ以テ六等ヲ四等ト改ム)

膳部補 等外

第三十七條 主殿寮ニ左ノ職員ヲ置キ宮殿離宮及其附屬物件並ニ鎖鑰洒掃鋪設ニ關スル事務ヲ管理シ

兼テ皇宮警察署ヲ統轄ス

但侍從職「皇太后宮職」「皇后宮職」主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラズ

主殿頭 一人 二等三等

職務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス

主殿助 二人 四等以下

職務ヲ掌理ス但一人ハ京都出張所長ニ補ス

主殿屬 判任

皇宮警察長 一人 四等五等

宮殿離宮ノ守門防火警察ノ事ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

皇宮警察次長 一人 六等以下

職務ヲ掌理ス

皇宮警部 判任五等以上 (二十三年宮内省達第四號ヲ以テ八等ヲ五等ト改ム)

皇宮警部補 判任六等 (二十三年宮内省達第四號ヲ以テ九等以下トアルヲ六等ト改ム)

皇宮警手 等外

舍人 准判任

内舍人 省中官判任准官ノ内ヨリ兼補

准判任四等以下 (二十三年宮内省達第四號ヲ以テ六等トアルヲ四等ト改ム)

仕人 等外

第三十八條 圖書寮ニ左ノ職員ヲ置キ帝室ノ圖書記録ヲ保管シ皇統譜皇族牒籍ニ關スル事務ヲ管理シ

圖書頭 一人 二等三等

職務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス

圖書助 一人 四等以下

職務ヲ掌理ス

圖書屬 判任

第三十九條 内匠寮ニ左ノ職員ヲ置キ宮殿離宮庭園及廳舎ノ土木ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル

會計ヲ掌ル

第十六編 宮内省官制



第十六編 宮内省官制

「但皇太后宮職ノ主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス」

内匠頭 一人 二等三等

寮務ヲ掌理シ寮員ヲ監督ス

内匠助 一人 四等以下

寮務ヲ掌理ス

内匠屬 判任

内匠寮技師 五人 奏任

土木ノ覽業ニ従事ス

内匠寮技手 判任

第四十條 主馬寮ニ左ノ職員ヲ置キ車馬乘具調馬及牧場ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌

主馬頭 一人 二等三等

寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス

主馬助 一人 四等以下

寮務ヲ掌理ス

主馬屬 判任

車馬監 一人 五等以下

車馬乘具ヲ管守シ馬匹飼養調習醫療ノ事ヲ監督ス

調馬師 二人 六等以下

乘馬調習ニ従事ス

馬醫師 一人 六等以下

馬匹醫療ニ従事ス

主馬寮技師 二人 奏任

牧場ノ事務長ニ任シ實務ニ従事ス

馬醫 判任

主馬寮技手 判任

調馬手 准判任

駉者 准判任

學車 准判任

第四十一條 諸陵寮ニ左ノ職員ヲ置キ陵墓ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

諸陵頭 一人 二等三等

寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス

諸陵助 一人 四等以下

寮務ヲ掌理ス

諸陵屬 判任

諸陵寮技手 判任 (二十九年宮内省達甲第一號ヲ以テ追加)

第十六編 宮内省官制

第十六編 宮内省官制

守長

列任待遇（二十七年宮内省達甲第一號）  
ヲ以テ等外ヲ列任待遇トス

守部

等外

第四十二條 侍醫局ニ左ノ職員ヲ置キ診候醫藥衛生ニ關スル事務ヲ管理ス

侍醫局長 一人

勅任侍醫ヨリ兼任

局務ヲ總理シ局長ヲ監督ス

侍醫 十六人

二等以下

診候醫藥衛生ニ從事ス

侍醫局主事 三人

奏任  
侍醫ヨリ兼任

局務ヲ掌理ス

醫員

列任

藥劑師長 一人

六等以下（二十三年宮内省達第  
二十二號ヲ以テ追加）

藥品製煉調査及調劑ヲ掌理ス

製劑師

列任

侍醫局屬

列任

第四十三條 主獵局ニ左ノ職員ヲ置キ狩獵及獵場ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

但主獵官ハ名譽職トス

主獵局長 一人

二等三等

局務ヲ總理シ局長ヲ監督ス

主獵局主事 一人

四等以下

局務ヲ掌理ス

主獵官 十五人

二等以下（二十五年宮内省達甲第七  
號ヲ以テ定員ヲ改正ス）

狩獵ニ從事ス

主獵局屬

列任

主獵局監守長

准列任

主獵局監守

等外

第四十四條 調度局ニ左ノ職員ヲ置キ御服御物及宮中省中需用物品被服購買修補運搬ニ關スル事務ヲ

管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌リ兼テ省中洒掃ノ事ヲ掌ル

但「皇太后宮職」「皇后宮職」主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

調度局長 一人

二等三等

局務ヲ總理シ局長ヲ監督ス

調度局主事 一人

四等以下

局務ヲ掌理ス

調度局屬

列任

第四十五條 帝室會計審査局ニ左ノ職員ヲ置キ帝室ノ財計ヲ監査ス

帝室會計審査局長 一人

二等三等

局務ヲ總理シ局長ヲ監督ス

第十六編 宮内省官制

第十七編 宮内省官制

帝室會計審査局主事一人

奏任  
審査官ヨリ兼任

局務ヲ掌理ス

帝室會計審査官 五人

奏任

帝室ノ財計審査ヲ掌ル

帝室會計審査局屬

判任

第四十六條 前條々各官勅奏任ノ等級ニ規定ヲキモノハ總テ勅任ハ一等二等奏任ハ三等ヨリ八等ニ至リ判任ハ一等ヨリ六等ニ至ルモノトス准官モ亦同シ但令人樂師長樂師樂手監守長ハ等級ヲ設ケス

(二十三年宮内省達第十三號ヲ以テ判任ハ二等ヨリノ下「十」ヲ「六」ニ改ム)

第四十七條 省中各官同等内ノ順序ハ任官ノ前後ニ依ル准官モ亦同シ

第四十八條 四等五等ハ每等在職五年六等七等八等ハ每等在職三年ヲ踰ユルニ非ザレハ陞叙スルヲ得ス其每等定員ヲ限ルモノハ缺員アルニ非サレハ其期ヲ踰ユルト雖モ昇等スルコトヲ得ス准官モ亦同シ(二十三年宮内省達第四號二十四年同省達甲)

同シ(第四號二十五年同省達甲第六號ヲ以テ改正)

第四十九條 判任官二等三等ハ每等在職四年四等五等六等ハ每等在職二年ヲ踰ユルニ非サレハ陞叙スルコトヲ得ス但其每等定員ヲ限ルモノハ缺員アルニ非サレハ定期ヲ踰ユルト雖モ昇等スルコトヲ得ス准官モ亦同シ(二十三年宮内省達第十號ヲ以テ本條中改正)

第五十條 省中各官及准官ノ俸給ハ別紙甲乙丙三表ノ定ムル所ニ依ル

第五十一條 勅任官ニシテ其官最高額ノ俸ヲ受ケ勞績拔群顯著ナル者ハ特旨ヲ以テ一級上等ノ俸ヲ賜

フコトアルヘシ

第五十二條 三等ニシテ最高額ノ俸ヲ受ケ勞績拔群顯著ナル者ハ宮内大臣ノ上奏ニ依リ其俸六分ノ一マテ増賜スルコトアル可シ

第五十三條 判任官最上俸ヲ受ケ五年ヲ踰ヘ事務熟練優等ナルモノハ特別ヲ以テ月俸六分ノ一マテ増給スルコトアルヘシ(二十四年宮内省達甲第四號ヲ以テ改正)

第五十四條 等外ハ一年ヲ踰ユルニ非サレハ増給スルコトヲ得ス但其每級定員ヲ限ルモノハ缺員アルニ非サレハ増給スルコトヲ得ス

第五十五條 各部長官ハ宮内大臣ニ具狀シ其部内奏任官又ハ判任官ヲ以テ課長トナシ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得課長事故アルトキハ該長官ニ於テ其部員ニ臨時代理ヲ命スルコトヲ得

第五十六條 次官各部長官及書記官ハ皆命ヲ大臣ニ承ルモノトス其他各部長官ハ皆命ヲ主務上官ニ承クルモノトス其直ニ旨ヲ奉シ又ハ大臣若クハ上官ノ命ヲ承タルトテ問ハス其主任ノ事務ニ付テハ各其責ニ任ス可シ准官モ亦同シ

但經常旨ヲ奉シ又ハ大臣若クハ上官ノ委任ヲ受ク可キ條項及其處務規程ハ別ニ之ヲ定ム

第五十七條 第十一條ノ奏任官試補判任官見習ハ試験ヲ經可キモノトス但教官技術官ハ當分ノ内試験ヲ要セス

第五十八條 試補ハ在職三年見習ハ在職二年ヲ踰ユルニ非サレハ本官ニ任スルコトヲ得ス但本官ニ任スルハ試験ハ六等以下トシ見習ハ五等以下トス

第五十九條 各官職ニ於テ曾テ滿五年以上奏任官ヲ奉職セシ者ハ前條ノ例ニ依ラス試験ヲ經テ直ニ本

第十六編 宮内省官制

第十六編 內大臣宮中顧問官及內大臣秘書官官制

官ニ任スルコトヲ得准官モ亦同シ

第六十條 各部長ハ判任官ノ缺ヲ補フ爲メ備員ヲ置クコトヲ得其給額ハ又本官俸ヲ踰ユルコトヲ得  
ス准官モ亦同シ

第六十一條 各部長ハ前條ノ外雜役ニ供スル備員ヲ必要トスルトキハ宮内大臣定ムル所ノ定員内ニ  
於テ之ヲ置クコトヲ得

第六十二條 省中判任官及其准官等外並ニ雜役ニ供スル備員ノ定員ハ宮内大臣之ヲ定ム可シ  
(美譽)

●內大臣宮中顧問官及內大臣秘書官官制(十八年第六十八號達)

宮中ニ內大臣并宮中顧問官及內大臣秘書官ヲ置キ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

內大臣 一人 親任

一御璽圖璽ヲ尙職ス

二常侍輔弼シ及宮中顧問官ノ議事ヲ總攝ス

宮中顧問官 十五人以内 二等

帝室ノ典範儀式ニ係ル事件ニ付諮詢ニ奉對シ意見ヲ具上ス

內大臣秘書官 一人又ハ二人 奏任

內大臣ニ專屬ス

●學習院官制 (二十二年宮内省達第二十二號)

第一條 學習院ニ左ノ職員ヲ置キ學生教育ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

學習院長 一人 勅任

學習院教育ノ主旨及學制其他宮内大臣ノ令達ニ依リ院務ヲ總理シ職員ヲ統督シ學生育成ノ責ニ  
ハ任ス

學習院次長 現任院長ノ次等以下(二十五年宮内省甲第  
四號ヲ以テ本項追加)

院長ヲ輔ケ院務ヲ整理ス

學習院幹事 二人 奏任

長ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌理ス

學習院書記 判任四等以下(二十三年宮内省達第十號ヲ以テ判  
任五等トアルヲ判任四等ト改ム)

幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

學習院教授 奏任

長ノ命ヲ受ケ教育ニ従事ス

學習院助教授 判任

教授ノ職掌ヲ補助ス

學習院學生監 一人 六等七等

長ノ命ヲ承ケ學生ヲシテ院内ノ法規ヲ遵守シ軍隊ノ紀律ニ慣熟セシメ且其風儀ヲ監督シ又武課

ノ教習ニ従事シ兼テ寄宿舎及厩舎ヲ管理ス 奏任 學生監ノ次等以下

學習院學生監副官 一人

學生監ノ職務ヲ補助ス

第十六編 學習院官制

第十六編 學習院官制

學習院學生監助手

學生監及學生監副官ノ指揮ヲ承ケ其職務ノ細節ニ從事ス

學習院主計

長ノ命ヲ承ケ學習院會計規則ニ依リ出納ヲ掌理ス

學習院計吏

主計ノ指揮ヲ承ケ簿記計算ニ從事ス

學習院醫官

一人  
長ノ命ヲ承ケ醫藥衛生ニ從事ス

第二條 教授上必要アルトキ又判任官缺員アルトキハ長適當ナル者ヲ撰テ囑托員備員ヲ置クコトヲ得

第三條 院內ノ紀律及職員服分掌務規程ハ長之ヲ定メ宮內大臣ニ申牒スヘシ

第四條 高等官俸給ハ宮內省官制第五十條高等官俸給表ニ依リ長ハ第三級俸第四級俸第五級俸「第六級俸」ノ內ヲ賜ヒ委任官七等以上ハ各其等位ニ依リ第一級俸第二級俸第三級俸第四級俸ノ內ヲ賜ヒ

委任官八等ハ第一級俸第二級俸第三級俸第四級俸第五級俸第六級俸ノ內ヲ賜ヒ判任官官等俸給ハ同

條屬官官等俸給ニ依ル(二十三年宮內省達第十號ヲ以テ判任官以下ノ十九字ヲ改ム)

第五條 教授助教授ニハ其授業時間ノ多少學課ノ難易等ニ依リ官等相當俸給以下ノ額ヲ給ハルコトアルヘシ

第六條 囑托員ノ報酬備員ノ俸給ハ長適宜ニ之ヲ定ム

第七條 宮內省官制第四十八條第五十一條第五十二條第五十三條第六十一條ハ此官制ニモ亦適用ス

(二十三年宮內省達第十號ヲ以テ第四十八條ノ下第四十九條ノ五字ヲ削ル)

但判任官ノ陞叙年限ハ本年六月宮內省達第六號ニ依ル(二十三年宮內省達第十號ヲ以テ但書追加)

華族女學校職員及官等 (十九年宮內省達第二號)

第一條 華族女學校ニ左ノ職員ヲ置ク

長、學監、幹事、教授、助教、書記

第二條 長一人二等トス宮內大臣ノ命ヲ受ケ學校ノ事ヲ總理ス

第三條 學監二人委任トス長ノ命ヲ受ケ教授及校中ノ事務ヲ監督ス

第四條 幹事二人委任トス長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ幹理ス

第五條 教授ハ委任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第六條 助教ハ判任トス教授ノ職務ヲ助ケ

第七條 書記ハ判任トス長及幹事ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第八條 高等官俸給ハ宮內省官制第五十條高等官俸給表ニ依リ長ハ第三級俸第四級俸第五級俸「第六級俸」ノ內ヲ賜ヒ委任官ハ各其等位ニ依リ第一級俸第二級俸第三級俸第四級俸ノ內ヲ賜ヒ判任官官

等俸給ハ同條屬官等俸給ニ依ル(二十年宮內省達第六號ヲ以テ削除シ二十二年同省達第二十三號ヲ以テ本條以下第十一條迄追加シ二十三年同省達第十一號ヲ以テ判

任以下十九字ヲ改ム)

第九條 教授助教ニハ其授業時間ノ多少學課ノ難易等ニ依リ官等相當俸給以下ノ額ヲ給スルコトアル

第十六編 華族女學校職員及官等

第十條 教授上必要アルトキ又列任官缺員アルトキハ長適當ナル者ヲ撰テ囑托員備員テ置クコトヲ得  
其報酬及俸給ハ長適宜ニ之ヲ定ム

第十一條 宮内省官制第四十八條第五十一條第五十二條第五十三條第六十一條ハ此官制ニモ亦適用ス  
(二十三年宮内省達第十一號ヲ以テ第四十八條ノ下第四十九條ノ五字ヲ削ル)

但列任官ノ陞叙年限ハ二十三年六月宮内省達第六號ニ依ル(二十三年宮内省達第十(一)號ヲ以テ但書追加)

●各省官制通則 (二十六年勅令第二百二十二號)

第一條 本則ハ外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信ノ各省ニ適用ス

第二條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ責ニ任ス

主任ノ明瞭ナラサル事務ニシテ兩省以上ニ關涉スルモノアルトキハ閣議ニ提出シテ其ノ主任ヲ定ム

第三條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制定廢止改正ヲ要スルコトアルトキハ案ヲ具ヘ閣議ニ提出スヘシ

第四條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ省令ヲ發スルコトヲ得

第五條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監北海道長官、府縣知事ニ指令又ハ訓令ヲ下スコトヲ得

第六條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ヲ監督ス若シ警視總監、北海道

廳長官、府縣知事ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ

其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第七條 各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之上奏シ列任官以下ハ

之ヲ專行ス

地方官廳奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ内務大臣之上奏ス(三十二年勅令第二百五十四號ヲ以テ但書追加)

第八條 各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部ノ官吏ノ叙位叙勳ヲ上奏ス

地方官廳官吏ノ叙位叙勳ハ前條第二項ノ例ニ依ル

第九條 各省大臣事故アルトキハ法律勅令ニ副署シ省務ヲ敷奏シ内閣ノ職ニ列シ及省令ヲ發スルコト

ヲ除クノ外其ノ職務ヲ臨時次官ニ代理セシムルコトヲ得

第十條 各省ニ大臣官房ヲ置ク

大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 機密ニ關スル事項

二 官吏ノ進退身分ニ關スル事項

三 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項

四 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項

五 統計報告ノ調製ニ關スル事項

六 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項

七 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算、決算並會計ニ關スル事項

八 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項

九 其ノ他各省官制ニ依リ特ニ大臣官房ノ所掌ニ屬セシムル事項

陸軍省海軍省ニ於テハ前項第七第八ノ事務ヲ掌ラシムル爲特ニ局ヲ置クコトヲ得

第十六編 各省官制通則

第十一條 各省ノ便宜ニ從ヒ大臣官房ノ事務ヲ各局ニ於テ處理セシムルコトヲ得  
第十二條 各省中書務ヲ分掌スル爲局ヲ置ク其ノ分掌事務ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム  
第十三條 大臣官房及各局ノ分課ハ各省大臣ノ定ムル所ニ依ル

陸軍省海軍省中ノ分課ハ各其ノ省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十四條 各省ニ左ノ職員ヲ置ク(三十一年勅令第二百五十七號ヲ以テ改ム)

次官、參與官、局長、參事官、秘書官、書記官、屬

第十五條 各省次官ハ一人勅任トス

第十六條 次官ハ大臣ヲ佐ケ省務ヲ整理シ各局部ノ事務ヲ監督ス

第十七條 各省參與官ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ省務ニ參與ス(同上)

第十八條 各局局长ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

(同上)

第十九條 參事官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌ル(同上)

第二十條 參事官ハ其ノ省ノ便宜ニ從ヒ局課ニ兼勤シ若クハ臨時命ヲ承ケ其ノ事務ヲ助ケ

第二十一條 秘書官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ機密事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ケ各局課ノ事務ヲ助ケ

第二十二條 書記官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ各局ノ事務ヲ助ケ(同上)

第二十三條 各省專任秘書官ハ一人トス但外務省ニ於テハ專任二人ヲ置クコトヲ得

各省專任參事官專任書記官ハ併セテ八人以下トシ其ノ定員ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム但シ内務省

大藏省及逓信省ニ於テハ十二人以下ヲ置クコトヲ得(同上)

第二十四條 大臣官房及局中各課ニ課長一人ヲ置キ奏任官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ上官

ニ承ケ課務ヲ掌理ス

陸軍省海軍省中ノ課長ハ各其ノ省官制ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十六條 各省判任官ノ定員ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

第二十七條 本則ニ掲ケルモノハ各省特別ノ職員ヲ置クコトヲ要スルモノハ各省官制ニ於テ之ヲ定

ム

附則

第二十八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●奏任ト爲スコトヲ得ル諸官 (三十二年勅令第二百二十八號)

左ノ諸官ハ奏任ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於ケル官等ハ高等官三等トス

一内閣統計局長、一印刷局長、一各省局長、一傳染病研究所長、一造幣局長、一事賣局長、一知事

●外務省官制 (三十一年勅令第二百五十八號)

第一條 外務大臣ハ外國ニ關スル政務ノ施行、外國ニ於ケル帝國商事ノ保護及外國在留帝國臣民ニ關

スル事務ヲ管理シ外交官及領事官ヲ監督ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲ケルモノノ外帝國ニ駐在スル各國外交官領事官、外國人叙勳、條約

書保管及文書翻譯ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 外務省專任參事官ハ二人專任外務大臣秘書官ハ二人專任書記官ハ五人ヲ以テ定員トス

第十六編 外務省官制

第十六編 外交官及領事官官制

第四條 外務省ニ左ノ二局ヲ置ク

政務局

通商局

第五條 政務局ニ於テハ外交ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 通商局ニ於テハ通商航海及移民ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 外務省ニ翻譯官四人ヲ置ク奏任トス文書翻譯ニ從事ス

第八條 外務省屬ハ六十人ヲ以テ定員トス

第九條 外務省ニ翻譯官補六人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ文書翻譯及通辯ニ從事ス

第十條 外務省ニ技手二人ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ケ電信事務ニ從事ス

第十一條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

● 外交官及領事官官制 (三十二年勅令第二百八十號)

第一條 外交官ハ特命全權公使、辨理公使、公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官及  
外交官補トス

第二條 特命全權公使及理辨公使ハ勅任トシ公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官  
及外交官補ハ奏任トス

第三條 領事官ハ總領事、領事、副領事及領事官補トス

第四條 總領事、領事、副領事及領事官補ハ奏任トス

第五條 外交官ヲ置カサル地ニ於テハ外交事務官ヲ置クコトヲ得

第六條 領事官ヲ置カサル地ニ於テハ貿易事務官又ハ名譽領事若ハ名譽副領事ヲ置クコトヲ得  
貿易事務官ハ奏任トシ名譽領事及名譽副領事ハ奏任待遇トス

第七條 公使館、領事館及貿易事務館ニ外務書記生ヲ置ク  
外務書記生ハ判任トス

第八條 英吉利語、佛蘭西語及獨逸語以外ノ外國語ノ通譯ヲ要スル公使館ニ公使館一等通譯官、公使  
館二等通譯官ヲ置クコトヲ得

公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ハ奏任トス

第九條 英吉利語、佛蘭西語及獨逸語以外ノ外國語ノ通譯ヲ要スル公使館、領事館及貿易事務官ニ外務  
通譯生ヲ置クコトヲ得

外務通譯生ハ判任トス

第十條 外交官又ハ領事官ニシテ一時外國在勤ヲ免シタル者及外務省官吏ニシテ外交官又ハ領事官  
轉任シ未タ任所ヲ命セサル者ヲ待命トス

待命ノ外交官及領事官ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セス其ノ他本令及公使館領事館費用條例ニ特  
別ノ規定アル事項ヲ除ク外總テ在職官吏ト異ナルコトヲシ

待命ノ外交官及領事官ハ臨時外務省ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ在職官吏ニ關  
スル規定ヲ適用ス

第十六編 外交官及領事官官制



第十六編 在外公館職員定員令

待命ハ滿三箇年ヲ以テ期トス期滿レハ其ノ官ヲ免スルモノトス  
待命ノ外交官及領事官ニハ休職ヲ命スルコトヲ得ス  
前各項ノ規定ハ貿易事務官、公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ニ之ヲ適用ス

附則

第十一條 明治二十八年勅令第八十二號及同年勅令第八十七號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條 本令施行ノ際一等領事又ハ二等領事タル者ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セサルモノハ領事ニ任  
セラレタルモノトス

●在外公館職員定員令 (三十二年勅令第二百八十一號)

第一條 外交官、領事官、貿易事務官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官、外務書記生及外務通譯生  
ノ定員ハ左ノ如シ

特命全權公使辦理公使ハ通シテ十五人

公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官ハ通シテ二十八人

總領事、領事、副領事、副領事貿易事務官ハ通シテ三十四人

公使館一等通譯官、公使館二等通譯官ハ通シテ七人

外交官補、領事官補ハ通シテ二十九人

外務書記生外務通譯生ハ通シテ百二十三人

外交官ニシテ領事官ヲ兼任シ及領事官ニシテ外交官ヲ兼任スルトキハ其ノ兼官ハ定員ノ内ニ算入セ  
ス

第二條 待命ノ外交官、領事官、貿易事務官、公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ハ通シテ十五人ト  
シ前條定員ノ内ニ算入セス

附則

外交官、領事官、通譯官、書記生通譯生定員令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●外交官及領事官試驗委員會官制 (二十六年勅令第二百二十六號)

第一條 外交官及領事官試驗ヲ施行スル爲ニ外交官及領事官試驗委員ヲ置キ外務大臣ノ管轄ニ屬セシ  
ム

第二條 外交官及領事官試驗委員ハ左ノ人員ヲ以テ組織ス

委員長 外務次官

委員

外務省政務局長

外務省通商局長

文官高等試驗委員二名

帝國大學教授二名

外務次官、外務省政務局長又ハ外務省通商局長ニ關員又ハ事故アルトキハ臨時他ノ高等官ヲ以テ之  
ニ充ツ

第三條 前條委員ノ外臨時必要アルトキハ臨時試驗委員ヲ命スルコトヲ得

第四條 外交官及領事官試驗委員ハ職務上當然委員長又ハ委員タル者ヲ除クノ外外務大臣ノ奏請ニ依  
テ

第十六編 外交官及領事官試驗委員會官制

第十六條 日本船舶ノ船長疾病死亡其他ノ事故ニ由リ船舶ノ指揮運轉ニ差支ヲ生シタルトキハ領事ハ其船舶關係人申出ニ依リ假ニ船長ヲ選定スルコトヲ得

第十七條 條約若クハ慣例ニ從ヒ領事裁判權ヲ行フヘキ國ニ駐在スル領事ハ裁判權ヲ行フヘシ

第十八條 領事ハ日本臣民相互ノ間若クハ日本臣民ト外國人トノ間ニ生シタル民事上ノ爭論ニ關シ勸解ノ倚賴ヲ受ケタルトキハ之ヲ勸解スルコトヲ得

第十九條 領事ハ駐在國ノ法律規則及慣例ニ矛盾セサル限りハ日本臣民及日本船舶ニ對シ取締ヲ爲スコトヲ得

第二十條 領事ハ職務上必要アルトキハ日本軍艦ニ補助ヲ要求スルコトヲ得

第二十一條 領事ハ此規則ニ掲ケル領事手数料及出張入費表目ニ據リ手数料及出張入費ヲ徵收スヘシ但別ニ法律規則ノ明文アル事項ニ付テハ其規定ニ從フヘシ

第二十二條 表目第一第二ノ手数料ハ其關係者無資力ナル場合ニ於テハ之ヲ免除スルコトヲ得

第三ノ手数料ハ遺留財産ノ價格五拾圓未満ナルトキハ之ヲ免除ス

第二十三條 (二十六年勅令第九號ヲ以テ削除ス)

第二十四條 外國語ヲ以テ證明書ヲ付與シタルトキハ規定ノ手数料ニ十分ノ五ヲ増課スヘシ

翻譯ヲ要スルモノアルトキハ更ニ其實費ヲ拂ハシムヘシ

第二十五條 各地ノ法律規則又ハ慣例ニ依リ領事ノ證明又ハ取扱ヲ要スヘキ事項ニシテ表目中明文ナキモノニ付テハ其地ノ慣例ニ從ヒ五圓以内ノ手数料ヲ徵收スヘシ

第二十六條 日本臣民ノ願出ニ依リ領事館所在地外ニ出張シテ事務ノ取扱ヲ要スルトキハ規定ノ手数料ノ外其出張入費ヲ出願人ヨリ拂ハシムヘシ

第二十七條 領事ノ裁判權執行ニ付テハ民事訴訟用印紙規則ヲ適用スヘシ

第二十八條 領事ハ其職務上ノ職務ニ付外務大臣ニ報告スヘシ

第二十九條 領事ハ豫メ外務大臣ノ承諾ヲ得タル場合ノ外本邦他官廳ト直接通信スルコトヲ得ズ (二十年勅令第四十五號ヲ以テ本項ヲ改正シ次項ヲ追加ス)

外務大臣ノ承諾ヲ得直接通信ヲ爲シタルトキハ次便ヲ以テ其寫書ヲ外務大臣ニ送達スヘシ

第三十條 此規則ニ於テ領事ト稱スルハ總領事領事又ハ其代理及ヒ委任狀ヲ有スル總領事又ハ其代理ヲ云フ

領事手数料及出張入費表目(略)

● 內務省官制 (三十一年 勅令第二百五十九號)

第一條 內務大臣ハ地方行政、議員選舉、警察、監獄、土木、衛生、地理、社寺、出版、版權、賑恤及救濟ニ關スル事務ヲ管理シ臺灣總督、警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ監督ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲ケルモノノ外復賞、臺灣及北海道ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 內務省專任參事官ハ三人專任書記官ハ九人ヲ以テ定員トス

第四條 內務省ニ左ノ六局ヲ置ク

地方局、警保局、土木局、衛生局、社寺局、監獄局

第五條 地方局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 議員選舉ニ關スル事項

第十六編 內務省官制

内閣ニ於テ之ヲ命ス臨時委員亦同シ

第五條 試験事務ニ關シ庶務ニ從事セシムル爲ニ書記ヲ置キ外務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 外交官及領事官試験委員並臨時試験委員ニハ外務省官吏ヲ除クノ外年額百圓以内ノ手當金ヲ給スルコトヲ得

附則

第七條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●日本帝國領事規則 (二十三年勅令第八十號)

第一條 領事ハ日本帝國ノ利益殊ニ貿易交通及航海ノ利益ヲ保護獎勵シ日本ト駐在國トノ間ニ締結セラル條約ノ施行ヲ視察シ日本臣民並ニ日本友好アル外國ノ臣民ヨリ倚頼アルトキハ之ニ相當ノ勸告若クハ保護ヲ與フヘシ

領事ハ諸般ノ事務ヲ執行スルニ當テハ日本ノ法律及命令ニ準據スヘシ但特別ノ條約又ハ慣例アル國ニ駐在セル者ノ外駐在國ノ法律及慣例ニ違フコトヲ得ス

第二條 領事ハ駐在國ニ於テ日本臣民ノ爲メ名簿ヲ備置キ日本臣民ヨリ居住、婚姻、出生、死亡ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ其名簿ニ登錄スヘシ其請求アルトキハ右事項ニ關シ證明書ヲ付與スヘシ

第三條 領事ハ駐在國ニ於テ日本臣民死亡ノ際其遺留財産ヲ相續スヘキ者不在ナルカ又ハ其他ノ事故アリテ遺留財産ニ危險アルトキハ之ヲ保護スルノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 領事ハ駐在國ニ於テ救助ヲ要スル日本臣民アルトキハ之ニ一時ノ救助ヲ爲シ若クハ之ヲ本邦ニ送還スヘシ

第五條 領事ハ必要アルトキハ日本ノ海軍艦船及其乗組員ヲ補助スヘシ

第六條 領事ハ駐在國ニ於テ日本海軍艦船乗組員脱走シタルトキハ艦船長ノ要求ニ依リ其逮捕ヲ駐在國ノ官廳ニ照會スヘシ

第七條 領事ハ災厄ニ遭遇セル日本船舶ニ對シ必用ノ救助ヲ爲シ及駐在國ヨリ與フル救助ヲ監視スヘシ

領事ハ船舶報告及船難證書ヲ證明スヘシ

第八條 領事ハ日本船舶ノ國旗ヲ監視スヘシ

領事ハ國旗掲揚ノ認可書ヲ付與スヘシ

第九條 領事ハ駐在國ニ於テ日本船舶ノ海員雇入雇止定約ヲ公認スヘシ

第十條 領事ハ日本船舶ノ賣却及抵當ヲ公認スヘシ

第十一條 領事ハ駐在國ニ於テ日本船舶ノ船長ヲシテ出入港届出ヲ爲サシムルコトヲ得

入港地ニ於テ船舶諸證書ヲ領事ノ保管ニ附スヘキ成規又ハ慣例アル時ハ領事之ヲ保管スヘシ

第十二條 領事ハ日本臣民ニ旅券ヲ附與シ及其旅券ヲ查證スルコトヲ得

領事ハ日本ニ旅行セントスル外國人ノ倚頼ニ依リ其旅券ノ查證ヲ爲スコトヲ得

第十三條 領事ハ日本船舶及日本ニ航行スル外國船舶ニ對シ其船長ノ倚頼ニ依リ船舶健康證書ヲ付與スルコトヲ得

第十四條 領事ハ駐在國ノ官廳ヨリ發セル證書ヲ署名捺印ヲ證明スルコトヲ得

第十五條 領事ハ駐在國ニ於テ日本船舶ノ海員脱走シタルトキハ船長ノ申出ニ依リ其復役ヲ強制スル爲メ駐在國ノ官廳ニ照會スルコトヲ得

第十六編 日本帝國領事規則

第十六編 日本帝國領事規則

第十六條 日本船舶ノ船長疾病死亡其他ノ事故ニ由リ船舶ノ指揮運轉ニ差支テ生シタルトキハ領事ハ其船舶關係人申出ニ依リ假ニ船長ヲ選定スルコトヲ得

第十七條 條約若クハ慣例ニ從ヒ領事裁判權ヲ行フヘキ國ニ駐在スル領事ハ裁判權ヲ行フヘシ

第十八條 領事ハ日本臣民相互ノ間若クハ日本臣民ト外國人トノ間ニ生シタル民事上ノ爭論ニ關シ勸解ノ倚賴ヲ受ケタルトキハ之ヲ勸解スルコトヲ得

第十九條 領事ハ駐在國ノ法律規則及慣例ニ矛盾セサル限りハ日本臣民及日本船舶ニ對シ取締ヲ爲スコトヲ得

第二十條 領事ハ職務上必要アルトキハ日本軍艦ニ對助ヲ要求スルコトヲ得

第二十一條 領事ハ此規則ニ掲ケル領事手数料及出張入費表目ニ據リ手数料及出張入費ヲ徵收スヘシ但別ニ法律規則ノ明文アル事項ニ付テハ其規定ニ從フヘシ

第二十二條 表目第一第二ノ手数料ハ其關係者無資力ナル場合ニ於テハ之ヲ免除スルコトヲ得

第三ノ手数料ハ遺留財産ノ價格五拾圓未滿ナルトキハ之ヲ免除ス

第二十三條 (二十六年勅令第九號)ニ以テ削除ス

第二十四條 外國語ヲ以テ證明書ヲ付與シタルトキハ規定ノ手数料ニ十分ノ五ヲ増課スヘシ翻譯ヲ要スルモノアルトキハ更ニ其實費ヲ拂ハシムヘシ

第二十五條 各地ノ法律規則又ハ慣例ニ依リ領事ノ證明又ハ取扱ヲ要スヘキ事項ニシテ表目申明文ナキモノニ付テハ其地ノ慣例ニ從ヒ五圓以内ノ手数料ヲ徵收スヘシ

第二十六條 日本臣民ノ願出ニ依リ領事館所在地外ニ出張シテ事務ノ取扱ヲ要スルトキハ規定ノ手数料ノ外其出張入費ヲ出願人ヨリ拂ハシムヘシ

第三十七條 領事ノ裁判權執行ニ付テハ民事訴訟用印紙規則ヲ適用スヘシ

第三十八條 領事ハ其職務上ノ職務ニ付外務大臣ニ報告スヘシ

第三十九條 領事ハ豫メ外務大臣ノ承諾ヲ得タル場合ノ外本邦他官廳ト直接通信スルコトヲ得ズ

第五年勅令第四十五號(以下ニ本項ヲ改正シ次項ヲ追加ス)

外務大臣ノ承諾ヲ得直接通信ヲ爲シタルトキハ次便ヲ以テ其寫書ヲ外務大臣ニ送達スヘシ

第三十條 此規則ニ於テ領事ト稱スルハ總領事領事又ハ其代理及ヒ委任狀ヲ有スル總領事又ハ其代理ヲ云フ

領事手数料及出張入費表目(略)

●内務省官制(三十一年 勅令第二百五十九號)

第一條 內務大臣ハ地方行政、議員選舉、警察、監獄、土木、衛生、地理、社寺、出版、版權、眼恤及救濟ニ關スル事務ヲ管理シ臺灣總督、警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ監督ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲ケルモノノ外褒賞、臺灣及北海道ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 內務省專任參事官ハ三人專任書記官ハ九人ヲ以テ定員トス

第四條 內務省ニ左ノ六局ヲ置ク  
 地方局、警保局、土木局、衛生局、社寺局、監獄局

第五條 地方局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 議員選舉ニ關スル事項  
第十六編 內務省官制

- 二 府縣會、府縣經濟其ノ他總テ府縣行政ニ關スル事項
  - 三 郡會、郡經濟其ノ他總テ郡ノ行政ニ關スル事項
  - 四 市町村會、公共組合會及市町村公共組合ノ經濟其ノ他總テ市町村公共組合ノ行政ニ關スル事項
  - 五 官有地ニ關スル事項
  - 六 賑恤及救濟ニ關スル事項
  - 七 府縣立以下ノ貧院、育嬰院、瘋癲院及育兒院其ノ他慈善ノ用ニ供スル營造物ニ關スル事項
  - 八 徵兵及徵發ニ關スル事項
- 第六條 警保局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 行政警察ニ關スル事項
  - 二 高等警察ニ關スル事項
  - 三 圖書出版及版權登錄ニ關スル事項
- 第七條 土木局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 本省直轄ノ土木工事ニ關スル事項
  - 二 府縣經營ノ土木工事其ノ他公共ノ土木工事ニ關スル事項
  - 三 直轄工費及府縣工費補助ノ調査ニ關スル事項
  - 四 水面埋立ニ關スル事項
  - 五 土地收用ニ關スル事項
- 第八條 衛生局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 傳染病及地方病ノ豫防、種痘其ノ他總テ公衆衛生ニ關スル事項
  - 二 檢疫停船ニ關スル事項
  - 三 醫師及藥劑師ノ業務並藥品賣藥取締ニ關スル事項
  - 四 衛生會及地方病院ニ關スル事項
- 第九條 社寺局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 神宮、官國幣社、招魂社並神社社格及古社寺保存ニ關スル事項
  - 二 神佛各派ノ教規、宗制、神職僧侶教師ノ身分、社寺及宗教ノ用ニ供スル堂宇ノ存廢其ノ他總テ宗教ニ關スル事項

第十條 監獄局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 監獄ニ關スル事項
  - 二 假出獄及監視假免ニ關スル事項
- 第十一條 内務省ニ專任監獄事務官一人ヲ置ク委任トス監獄局ニ屬シ監獄ノ事務ヲ掌ル
- 第十二條 内務省ニ專任技師五人ヲ置ク内一人ヲ勅任トス
- 内務省ニ專任技師十五人ヲ置ク
- 内務省屬ハ二百人ヲ以テ定員トス

附 則

第十三條 本令ハ明治三十一年十一月二日ヨリ施行ス

臺灣事務局官制及明治二十七年勅令第六十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十六編 日本帝國領事規則

第十六編 土木監督官制

五〇

●土木監督官制(二十七年勅令第八十六號)

第一條 地方土木事業監督ノ爲メ府縣ヲ分置シテ七土木監督區トス其ノ區域左ノ如シ

第一區

東京府 神奈川縣 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 茨城縣 栃木縣 山梨縣

第二區

宮城縣 福島縣 巖手縣 青森縣 山形縣 秋田縣

第三區

新潟縣 長野縣 石川縣 富山縣

第四區

三重縣 愛知縣 靜岡縣 岐阜縣 福井縣

第五區

京都府 大阪府 兵庫縣 奈良縣 滋賀縣 和歌山縣 德島縣 高知縣

第六區

鳥取縣 島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 香川縣 愛媛縣

第七區

長崎縣 福岡縣 大分縣 佐賀縣 熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣

第二條 各土木監督區ニ土木監督署ヲ置ク其ノ位置ハ內務大臣之ヲ定ム

第三條 各土木監督署ニ左ノ職員ヲ置ク

署長

技師

技手

書記

第四條 署長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署務ヲ管理シ所屬職員ヲ指揮ス

第五條 署長ハ區内地方土木事業ヲ監視シ利害得失ヲ查覈シ內務大臣ニ報告ス

第六條 署長ハ第一條ニ記載シタル事務ノ外內務大臣ノ命ヲ承ケ內務省直轄ノ土木事業ヲ計畫シ及其

ノ施行ヲ管理ス

第七條 技師ハ各署ヲ通シ十七人ヲ以テ定員トシ内二人以内ヲ勅任トス署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ分掌

シ並第六條ノ事務ヲ補助ス

土木監督署ニ勅任技師ヲ置クトキハ勅任技師ヲ以テ署長トス(三十二年勅令第二百六十號ヲ以テ改

正)

第八條 技手ハ各署ヲ通シ二十五人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス(同上)

第九條 書記ハ判任トシ各署ヲ通シ二十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス(同上)

第十條 直轄土木事業ノ管理ハ第一條ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

附 則

第十一條 本令ハ明治二十七年十月一日ヨリ施行ス

●土木會規則(二十七年勅令第五百五十四號)

第十六編 土木會規則

五一

土木會規則

- 第一條 土木會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ治水修路築港ニ關スル重要事項ニ付内務大臣ノ諮詢ニ應ジ濶見ヲ開申ス
- 第二條 土木會ハ土木ニ關スル事項ニ付主任各省大臣ニ建議スルコトヲ得
- 第三條 土木會ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ制定シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 土木會ハ會長一人委員二十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス  
内務省高等官三人、陸軍省及參謀本部高等官二人、遞信省高等官二人、海軍省農商務省高等官及工科大學教授各一人ハ委員中ニ加フヘキモノトス
- 第五條 特別ノ事件ヲ審議スル爲メ臨時必要ノ場合ニ於テ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得
- 第六條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ
- 高等官ノ内ヨリ命スヘキ委員ハ所屬大臣ノ奏請ニ依リ其ノ他ノ委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第七條 會長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ會議ノ決議ヲ内務大臣及主任各省大臣ニ具申ス
- 第八條 會長事故アルトキハ内務大臣ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム
- 第九條 土木會ニ幹事一人ヲ置キ内務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ  
幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
- 第十條 會長、委員及幹事ニハ一箇年五百圓以内臨時委員ニハ事件ノ輕重ニ應ジ其ノ部度相當ノ手當

ヲ給スルコトヲ得

第十一條 土木會ニ書記ヲ置ク會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

書記ハ内務屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十三條 書記ニハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附 則

第十三條 從前シ會長及委員ハ別ニ辭令ヲ用非ス本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

警察監獄學校官制 (三十二年勅令百五十四號)

- 第一條 警察監獄學校ニ左ノ職員ヲ置ク  
校長 勅任  
教授 專任五人 奏任  
幹事 專任一人 奏任  
書記 專任四人 判任
- 第二條 校長ハ内務次官ヲシテ之ヲ兼ネシメ内務大臣ノ指揮ヲ承ケ校中一切ノ事務ヲ統理ス
- 第三條 教授ハ校長ノ指揮ヲ承ケ教授ノ事ヲ掌ル
- 第四條 幹事ハ校長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計及生徒監督ノ事ヲ掌ル
- 第五條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス
- 古社寺保存會規則 (三十年勅令第四百六號)
- 第一條 古社寺保存會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ古社寺保存法第二條及第四條ニ關スル事項其ノ他古社

第十六編 警察監獄學校官制

寺保存ニ關スル事項ニ付内務大臣ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申ス

第二條 古社寺保存會ハ古社寺保存ニ關スル事項ニ付内務大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 古社寺保存會ハ會務整理ノ爲規則ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 古社寺保存會ハ會長一人委員二十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 特別ノ事件ヲ審議スル爲ニ臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第六條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 委員及臨時委員ハ官吏又ハ學識者ハ經驗アル者ノ中ニ就キ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ

之ヲ命ス

第八條 古社寺保存會ニ幹事一人ヲ置キ内務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第九條 會長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ内務大臣ニ具申ス

第十條 會長事故アルトキハ内務大臣ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第十一條 會長委員及幹事ニハ二箇年五百圓以内臨時委員ニハ事件ノ輕重ニ應ジ相當ノ手當ヲ給スル

コトヲ得

第十二條 古社寺保存會ニ書記ヲ置ク會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

書記ハ内務省ヲ以テ之ニ充ツ

第十三條 書記ニハ事務ノ繁閑ニ應ジ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十四條 内務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ委員又ハ其ノ他ノ者ヲシテ古社寺保存ニ關スル諸般ノ

調査ヲ爲サシムルコトヲ得

●古社寺保存法(三十年法律第四十九號)

第一條 古社寺ニシテ其ノ建造物及寶物類ヲ維持修理スルコト能ハサルモノハ保存金ノ下付ヲ内務

大臣ニ出願スルコトヲ得

第二條 國費ヲ以テ補助保存スヘキ社寺ノ建造物及寶物類ハ歴史ノ證據、由緒ノ特殊又ハ製作ノ優

秀ニ就キ古社寺保存會ニ諮詢シテ内務大臣之ヲ定ム

第三條 前條ノ建造物及寶物類ノ修理ハ地方長官之ヲ指揮監督ス

第四條 社寺ノ建造物及寶物類ニシテ特ニ歴史ノ證據又ハ美術ノ模範トナルヘキモノハ古社寺保存

會ニ許諾シ内務大臣ニ於テ特別保護建造物又ハ國寶ノ資格アルモノト定ムルコトヲ得

第五條 特別保護建造物及國寶ハ之ヲ處分シ又ハ差押フルコトヲ得ス但シ内務大臣ノ許可ヲ得テ國

寶ヲ公開ノ展覽場ニ出陳スルハ此ノ限ニ在ラス

第六條 前條ノ物件ハ神職(官國幣社ニ在テハ官司、府縣郷社ニ在テハ)若ハ住職之ヲ監守シ内務大

臣ノ監督ニ屬スルモノトス但シ内務大臣ノ許可ヲ經テ別ニ監守者ヲ置クコトヲ得

第七條 社寺ハ内務大臣ノ命ニ依リ官立又ハ公立ノ博物館ニ國寶ヲ出陳スルノ義務アルモノトス但

シ祭典法用ニ必要ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ命ニ對シテハ訴願ヲ爲スコトヲ得

第八條 前條ニ依リ國寶ヲ出陳シタル社寺ニハ命令ニ定メタル標準ニ從ヒ國庫ヨリ補給金ヲ支給ス



第九條 神職住職其ノ他ノ監守者ニシテ内務大臣ノ命ニ違背シ國寶ヲ出陳セサルトキハ内務大臣ハ其出陳ヲ強要スルコトヲ得

第十條 社寺ニ下付シタル保存金ハ地方長官之ヲ管理ス  
保存金ハ豫算額ヲ以テ之ヲ下付ス但シ精算ノ上剩餘アルトキハ内務大臣ハ之ヲ選付セシムルコトヲ得

第十一條 社寺ニ下付シタル保存金ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第十二條 第十條及第十一條ノ保存金ハ其利子ヲ包含スルモノトス

第十三條 監守者其ノ監守スル所ノ國寶ヲ竊取シ、毀棄シ、隱匿シ若ハ他ノ物件ト變換シ又ハ第五條ノ規定ニ違背シタルトキハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五條ノ物件ナルコトヲ知リテ之ヲ讓受ケ、借受ケ、擔保ニ取リ、寄藏シ若ハ其ノ牙保ヲ爲シタル者ハ六月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 監守者怠慢ニ由リ國寶ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス  
過料ハ地方裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ハ檢事ノ命令ニ依リ之ヲ徵收ス其ノ徵收ニ付テハ民事訴訟法第六編ノ規程ヲ準用ス但シ此ノ場合ニ於ケル檢事ノ命令ハ執行文ノ効力ヲ有ス

第十五條 第七條ニ依リ出陳シタル國寶ノ監守者故意怠慢ニ由リ國寶ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ國庫ハ命令ニ定メタル評價ノ方法ニ從ヒ其ノ損害ヲ賠償スルモノトス但シ其ノ評價額ニ關シテハ

裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第十六條 本法ニ定メタル保存金及補給金トシテ國庫ヨリ支出スヘキ金額ハ一箇年拾五萬圓乃至貳拾萬圓トス

附 則

第十七條 本法施行前社寺ニ下付シタル保存金ニ關シ内務大臣ハ第十條乃至第十二條ヲ適用スルコトヲ得

第十八條 第四條ニ該當スル物件ハ社寺ニ屬セサルモノト雖所有者ノ請求アルトキハ第七條第一項ニ掲ケタル博物館ニ出陳ナルコトヲ許可シ之ニ補給金ヲ支給スルコトヲ得

第十九條 名所舊蹟ニ關シテハ社寺ニ屬セサルモノト雖仍本法ヲ準用スルコトヲ得

第二十條 本法施行上必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

●古社寺保存法施行ニ關スル件 (三十年勅令第四百四十六號)  
第一條 古社寺保存法第七條ニ依リ國寶ヲ博物館ニ出陳セシメタル時ハ當該博物館ニ國寶監守ヲ置

第二條 官立博物館ノ國寶監守ハ當該博物館長ヲ以テ之ニ充ツ  
公立博物館ノ國寶監守ハ當該博物館長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 國寶監守ハ身元保證金ヲ納ムヘシ  
前項ノ身元保證金ニ關シテハ明治二十二年勅令第六十號會計規則及明治二十三年勅令第四號ヲ準

第四條 國寶監守故意怠慢ニ由リ其ノ監守スル國寶ヲ亡失若ハ毀損シタルトハ辨償ノ責ニ任スヘシ  
第五條 古社寺保存法ハ第八條ニ依リ支給スヘキ補給金ハ國寶一箇ニ就キ一箇年二圓以上五十圓以下トシ内務大臣ハ出陳ヲ命スル都度之ヲ定ム但シ國寶ニシテ特ニ貴重ナルモノアルトキハ内務大臣ハ古社寺保存會ニ諮詢シ五十圓以上百圓以下ヲ支給スルコトヲ得

第六條 出陳ニ要スル荷造運搬費等ハ總テ當該博物館ニ於テ支辨スヘキモノトス出陳ノ義務ヲ解除シタルトキ返送ニ要スル荷造運搬費等亦同シ

第七條 古社寺保存法第十五條ニ依リ損害賠償ヲ要スルトキハ内務大臣ハ賠償金額ヲ豫定シ古社寺保存會ノ議ニ附ス

前項ニ依リ古社寺保存會ニ於テ議決シタル金額内務大臣ノ豫定金額ニ相違シタルトキハ内務大臣ノ豫定額ト古社寺保存會ノ議決額トヲ合セ之ヲ二除シタル額ヲ以テ賠償ノ實額トス

第八條 本令ニ定ムルモノノ外古社寺保存法施行ニ要スル細則ハ内務大臣之ヲ定ム

●中央衛生會官制 (二十八年勅令第五十七號)

第一條 中央衛生會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ニ就キ各省大臣ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申ス

第二條 中央衛生會ハ各省主管事務中衛生ニ關スル事項ニ就テハ其ノ主任大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 中央衛生會ハ衛生各般ノ事項ニ關シ警視總監北海道廳長官及府縣知事ニ尋問ヲ要シ或ハ臨時會員ヲ各地方ニ派遣シテ調査檢察ヲ要スト認ムルトキハ之ヲ内務大臣ニ具申スヘシ

第四條 中央衛生會ハ議事整理ノ爲メ規則ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 中央衛生會ハ會長一人委員二十八人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

會長ハ勅任トス

委員ハ宮内省侍醫局長内務省參與官内務省地方局長内務省警保局長内務省土木局長内務省衛生局長内務省高等官三名傳染病研究所長陸軍省醫務局長陸軍獸醫監一名海軍省醫務局長東京帝國大學醫科大學長農務省農務局長農商務省高等官一名及醫師藥學者衛生工學者若干人ヲ以テ之ニ充ツ (二十年勅令第二百九十)

六號ヲ以テ改正)

第六條 特別ノ事件ヲ審議スル爲ニ臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第七條 委員中内務省高等官陸軍獸醫監農商務省高等官醫師藥學者衛生工學者及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

醫師藥學者衛生工學者ヨリ出テタル委員ノ任期ハ四箇年トス但シ滿期後再任セララルコトヲ得 (同上)

第八條 會長ハ會務ヲ總管シ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ内務大臣及主任大臣ニ具申ス

第九條 會長事故アルトキハ内務大臣ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第十條 中央衛生會ニ幹事一人ヲ置ク

幹事ハ奏任トス會長ノ指揮ヲ受ク庶務ヲ整理ス

第十一條 會長及幹事ニハ一箇年五百圓以内臨時委員ニハ事件ノ輕重ニ應ジ其ノ都度相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十六編 衛生試驗所官制

第十二條 中央衛生會ニ書記ヲ置キ内務廳ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ職事ノ筆記及庶務ニ従事ス

第十三條 書記ニハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附則

第十四條 従前ノ委員ハ別ニ辭令ヲ用非ス本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

●衛生試驗所官制 (二十三年勅令第五百五十五號)

第一條 東京大阪横濱ニ衛生試驗所ヲ置ク

第二條 衛生試驗所ハ内務大臣ノ管轄ニ屬シ衛生上試驗ニ關スル事項ヲ取扱フ所トス

第三條 各衛生試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師

二十六年勅令第三百三十一號ヲ以テ技師試補ノ項ヲ削除ス

技師

書記

第四條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ受ケ所内ノ事務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス

第五條 技師ハ奏任トシ專任六人ヲ以テ定員トス各試驗所ニ分屬シ所長ノ指揮ヲ承ケ試験ノ事務ヲ分掌ス(二十四年勅令第五百五號ヲ以テ七人ヲ六人ニ改ム二十六年勅令第三百三十一號ヲ以テ次項ヲ削除ス二十九年勅令第三百六十一號ヲ以テ專任ノ二字ヲ加フ)

第六條 技師ハ判任トシ專任十六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス(二十四年勅令第五百五號ヲ以テ改ス二十九年勅令第三百六十一號ヲ以テ專任ノ二字ヲ加フ)

第七條 書記ハ判任トシ四人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス(二十四年勅令第五百五號及二十六年勅令第三百三十一號ヲ以テ改ス)

第八條 各試驗所事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム

●醫術開業試驗委員官制 (二十九年勅令第一百八號)

第一條 醫術開業試驗委員ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ醫術開業試驗ニ關スル事務ヲ管掌ス

第二條 醫術開業試驗委員ハ委員長一人主事二人委員若干人ヲ以テ組織ス

醫術開業試驗委員長及主事ハ高等官ヲ以テ之ニ充ツ

高等官ニアラサル醫術開業試驗委員ノ待遇ハ奏任トス

第三條 醫術開業試驗委員長主事委員及附屬病院長ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

醫術開業試驗委員ノ任期ハ四箇年トス但滿期ノ後再任セラルルコトヲ得

第四條 醫術開業試驗委員長ハ醫術開業試驗主事委員及附屬病院長ヲ監督シ其ノ事務ヲ掌理ス

第五條 醫術開業試驗委員長ハ醫術開業試驗委員ノ提出シタル試験ノ成績ヲ査定シ及第シタル者ニ及第證書ヲ付與ス

及第證書ニハ醫術開業試驗委員長署名スヘシ

第六條 醫術開業試驗委員長ハ試験了ルノ後其ノ成績及試験事務ノ要領ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

第七條 醫術開業試験主事ハ醫術開業試験委員長ノ指揮ヲ承ケ試験ニ關スル庶務ヲ整理ス

第十六編 醫術開業試驗委員官制

第十六編 藥劑師試驗委員會官制

醫術開業試驗主事ハ醫術開業試驗委員長ノ命ヲ承ケ其ノ職務ヲ代理スルコトヲ得

第八條 醫術開業試驗委員ハ醫術開業試驗委員長ノ指揮ヲ承ケ學說試驗及實地試驗ヲ掌ル

第九條 醫術開業試驗委員長主事及委員ニハ事務ノ繁簡ニ從ヒ手當ヲ給ス

第十條 醫術開業試驗ニ附屬病院ヲ置ク附屬病院長ノ待遇ハ奏任トス

附屬病院長ノ年俸ハ二千圓トス

第十一條 附屬病院長ハ醫術開業試驗委員長ノ命ヲ承ケ病院ノ事務ヲ整理ス

第十二條 醫術開業試驗書記專任四人ヲ置ク判任トス

醫術開業試驗書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

第十三條 従前ノ醫術開業試驗委員長ハ別ニ辭令ヲ用非ス本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレメルモノトス

第十四條 明治二十二年勅令第六十二號醫術開業試驗委員組織權限ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●藥劑師試驗委員會官制 (二十九年勅令第九十九號)

第一條 藥劑師試驗委員ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ藥劑師試驗ニ關スル事務ヲ管掌ス

第二條 藥劑師試驗委員ハ委員長一人主事二人委員若干人ヲ以テ組織ス

藥劑師試驗委員及主事ハ高等官ヲ以テ之ニ充ツ

高等官ニアラサル藥劑師試驗委員ノ待遇ハ奏任トス

第三條 藥劑師試驗委員長主事及委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

藥劑師試驗委員ノ任期ハ四箇年トス但滿期ノ後再任セラルルコトヲ得

第四條 藥劑師試驗委員長ハ藥劑師試驗主事及委員ヲ監督シ其ノ事務ヲ掌理ス

第五條 藥劑師試驗委員長ハ藥劑師試驗委員ノ提出シタル試驗ノ成績ヲ査定シ及第シタル者ニ及第證書ヲ付與ス

及第證書ニハ藥劑師試驗委員長署名スヘシ

第六條 藥劑師試驗委員長ハ試驗了ルノ後其ノ成績及試驗事務ノ要領ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

第七條 藥劑師試驗主事ハ藥劑師試驗委員長ノ指揮ヲ承ケ試驗ニ關スル庶務ヲ整理ス

藥劑師試驗主事ハ藥劑師試驗委員長ノ命ヲ承ケ其ノ職務ヲ代理スルコトヲ得

第八條 藥劑師試驗委員ハ藥劑師試驗委員長ノ指揮ヲ承ケ學說試驗及實地試驗ヲ掌ル

第九條 藥劑師試驗委員長主事及委員ニハ事務ノ繁簡ニ從ヒ手當ヲ給ス

第十條 藥劑師試驗書記ヲ置キ内務屬若ハ醫術開業試驗書記ヲ以テ之ニ充ツ (三十二年勅令第二)

藥劑師試驗書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

藥劑師試驗書記ニハ事務ノ繁簡ニ從ヒ手當ヲ給ス

附則

第十一條 従前ノ藥劑師試驗委員長及主事ハ別ニ辭令ヲ用非ス本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

第十二條 明治二十七年勅令第七十四號藥劑師試驗委員組織權限ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●傳染病研究所官制 (三十二年勅令第九十三號)

第十六編 傳染病研究所官制

第一條 東京ニ傳染病研究所ヲ置ク

第二條 傳染病研究所ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ傳染病其ノ他病原ノ檢索、豫防、治療方法ノ研究、豫防消毒治療材料ノ檢査及傳染病研究方法ノ講習ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 傳染病研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人 勅任

部長 專任三人 奏任

助手 專任八人 判任

書記 專任四人 判任

前項ノ定員ノ外二十人以内ノ無給助手ヲ置ケトテ得

第四條 所長ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

第五條 部長ハ所長ノ命ヲ承ケ研究檢査講習ヲ掌ル

第六條 助手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ研究檢査講習ニ從事ス

第七條 書記ハ上官ノ試験ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 傳染病研究所事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

●大藏省官制 (三十一年勅令第二百六十九號)

第一條 大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計、出納、租稅、國債、貨幣、預金、保管物及銀行ニ關スル事務

ヲ管理シ府縣郡市町村及公共組合ノ財務ヲ監督ス

第二條 大藏省專任參事官ハ二人專任書記官ハ十人ヲ以テ定員トス

第三條 大藏省ニ左ノ三局ヲ置ク

主計局、主稅局、理財局

第四條 主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 總豫算總決算ニ關スル事項

二 特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項

三 仕拂豫算ニ關スル事項

四 主計簿ノ登記ニ關スル事項

五 歲入歲出現計書ノ調製ニ關スル事項

六 諸計算書ノ下檢査ニ關スル事項

七 出納官吏ノ監督及身元保證ニ關スル事項

八 豫備金支出ニ關スル事項

九 定額繰越ノ承認及定額戻入年度開始前支出ニ關スル事項

十 收入支出ノ科目ニ關スル事項

十一 金錢及物品會計ノ統一ニ關スル事項

十二 府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ歲計ニ關スル事項

第五條 主稅局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

第十六編 大藏省官制

第十六編 大藏省官制

- 一 國稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
  - 二 稅務ノ管理監督ニ關スル事項
  - 三 民有地地種目變換ニ關スル事項
  - 四 土地査帳ニ關スル事項
  - 五 稅關輸出輸入ノ調査ニ關スル事項
  - 六 外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スル事項
  - 七 保稅倉庫ニ關スル事項
  - 八 大藏省所管稅外諸收入ニ關スル事項
  - 九 府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ諸收入ニ關スル事項
- 第六條 理財局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 國資ノ運用出納ニ關スル事項
  - 二 國庫ノ出納管理ニ關スル事項
  - 三 國庫ノ出納計算書ニ關スル事項
  - 四 國債ノ募集借入償還及利拂ニ關スル事項
  - 五 國債簿及國庫簿登記ニ關スル事項
  - 六 貨幣ニ關スル事項
  - 七 紙幣、國債證券、大藏省證券及借入證書ノ取扱ニ關スル事項
  - 八 國債計算書ノ調製ニ關スル事項

- 九 年金恩給及諸給ノ給與ニ關スル事項
  - 十 備荒儲蓄ニ關スル事項
  - 十一 金庫ノ監督ニ關スル事項
  - 十二 銀行ノ管理監督ニ關スル事項
  - 十三 國立銀行紙幣交換基金ニ關スル事項
  - 十四 預金保管物及供託物ニ關スル事項
  - 十五 地方財務ノ監督ニ關スル事項
  - 十六 會社債券ニ關スル事項
  - 十七 一般金融ニ關スル事項
  - 十八 府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ公債ニ關スル事項
- 第七條 大藏省ニ專任鑑定官二人技師一人ヲ置ク奏任トス鑑定官ハ主稅局ニ技師ハ必要ニ依リ官房其ノ他ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル
- 第八條 大藏省ニ鑑定官補技手各二人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ鑑定建築ニ關スル事務ニ従事ス
- 第九條 大藏省屬ハ二百四十人ヲ以テ定員トス

附則

- 第十條 本令ハ明治三十一年十一月二日ヨリ施行ス
- 明治二十七年勅令第九十八號ヲ廢止ス

第十六編 大藏省官制

●造幣局官制 (二十六年勅令第百三十六號)

第一條 造幣局ハ大阪府ニ置キ大藏大臣ノ管理ニ屬シ貨幣ノ鑄造、舊貨幣ノ鑄造、實牌ノ製造、地金銀ノ精製分析及諸礦物ノ試験ヲ掌ル

第二條 造幣局ニ左ノ職員ヲ置ク(三十一年勅令第百四十一號及同年勅令第百七十號ヲ以テ改正)

局長 一人 勅任

技師 四人 列任

屬 二十三人 列任

技手 二十五人

第三條 局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ管理ス

第五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ従事ス

第七條 東京市ニ造幣支局ヲ置キ地金ノ買入及代リ貨幣拂渡ノ事務ヲ分掌セシム  
造幣支局長ハ大藏省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

附則

第八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●税關官制 (三十二年勅令第百六十一號)

第一條 税關ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 關稅、噸稅及稅關諸收入ニ關スル事項

二 保稅倉庫其ノ他ノ倉庫ニ關スル事項

三 船舶及貨物ノ取締ニ關スル事項

四 關稅法及噸稅法犯則者ノ處分ニ關スル事項

五 酒類及石油鹽油製造稅下戻及製造煙草輸出入交付金ニ關スル事項

六 關稅道路ノ取締ニ關スル事項

第二條 左ノ六港ニ稅關ヲ置ク

武藏國橫濱、攝津國神戶、攝津國大阪、肥前國長崎、渡島國函館、越後國新潟

第三條 稅關ニ稅關長一人ヲ置ク奏任トス

滿三年以上高等官三等ニ在リテ功績顯著ナル者ハ高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得

第四條 稅關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

事務官 專任 奏任 八人

監視官 專任 奏任 四人

鑑定官 專任 奏任 十二人

事務官補 專任 列任 三百十二人

監視 專任 列任 七十七人

鑑定官補 專任 列任 百十七人

監吏 專任 列任 六百八十人

技手

專任

三十六人

- 第五條 税関長ハ大藏大臣ノ指揮ヲ承ケ税関ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス
- 第六條 事務官ハ税関支署長タル者ノ外税関ニ分屬シ税関長ノ事務ヲ助ク
- 第七條 監視官ハ税関長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス
- 第八條 鑑定官ハ税関長ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ關スル事務ヲ掌理ス
- 第九條 事務官補ハ税関支署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第十條 監視ハ税関監視部長若ハ税関監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス
- 第十一條 鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ從事ス
- 第十二條 監吏ハ税関監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス
- 第十三條 税関ニ税関監視部ヲ置ク  
税関監視部ニ部長一人ヲ置キ監視官又ハ監視ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十四條 税関管轄区域内必要ナル場所ニ税関支署及税関監視署ヲ置クコトヲ得  
税関監視署ノ位置ハ大藏大臣之ヲ定ム
- 第十五條 税関支署ニ支署長一人ヲ置ク事務官若ハ事務官補ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十六條 税関監視署ニ署長一人ヲ置ク監視若ハ監吏ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條 税関支署長ハ税関長ノ指揮ヲ承ケ其ノ管轄内ノ税関事務ヲ掌理ス

第十八條 税関監視署長ハ税関長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

附則

第十九條 本令ハ明治三十二年四月二十五日ヨリ施行ス

● 稅務管理局官制 (二十九年勅令第三百三十七號)

- 第一條 稅務管理局ハ大藏大臣ノ管轄ニ屬シ内國稅ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第二條 稅務管理局ノ名稱位置及管轄區域ハ別表ニ依ル
- 第三條 稅務管理局管轄内須要ノ地ニ稅務署ヲ置ク其ノ位置及管轄區域ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第四條 稅務管理局ニ左ノ職員ヲ置ク (三十一年勅令第二百七十二號及三十二年勅令第三十四號ヲ以テ改正)
  - 局長、司稅官、稅務屬、技手
- 第五條 局長ハ委任トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ稅務ニ關スル法律命令ヲ執行シ其ノ管轄内ノ事務ヲ管理ス(同上)
- 第六條 局長ハ所部ノ官吏ヲ監督シ判任官ノ任免ヲ大藏大臣ニ具狀ス
- 第七條 (削除)(同上)
- 第八條 司稅官ハ委任トシ各局各署ヲ通シテ百人ヲ以テ定員トス第十條ニ依リ署長タル者ノ外各局ニ分屬シ局長ノ指揮ヲ承ケ稅務ノ監督ニ從事ス(同上)
- 第九條 稅務屬技手ハ判任トシ稅務屬ハ五千八百十九人技手ハ三百七十五人ヲ以テ定員トス
- 稅務屬及技手ハ稅務管理局若ハ稅務署ニ分屬シ稅務屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及検査ニ從事シ技手

第十六編 稅務管理局官制

出



第十六編 專賣局官制

ハ上官ノ指揮ヲ承ケ酒類ノ鑑定其ノ他技術ニ關スル事務ニ従事ス(同上)  
第十條 各稅務署ニ署長一人ヲ置キ司稅官若クハ稅務屬ヲ以テ之ニ充ツ(同上)  
稅務署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

附則

第十一條 本令ハ明治二十九年十一月一日ヨリ施行ス但シ北海道ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

明治二十六年勅令第百二十三號各省官制通則及同年勅令第百六十二號地方官官制中收稅長收稅屬收稅部收稅署ニ係ル條項ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(別表略之)

●專賣局官制(三十二年勅令第百七十號)

第一條 專賣局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ葉煙草ノ検査、收納、輸入、保管、賣渡、營業免許及專賣取締ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 專賣局ハ之ヲ東京ニ置ク

各地方ニ專賣支局ヲ置キ專賣局ノ事務ヲ分掌セシム

第三條 專賣局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 局長 一人 勅任
- 事務官 專任三十六人 奏任
- 鑑定官 專任三人 奏任
- 事務官補 專任二十四人 判任

局

鑑定官補 專任千八百八十八人 判任

監視

監視 專任二百二十八人 判任

技手

技手 專任三人

第四條 局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第五條 事務官及事務官補ハ局長ノ指揮ヲ受ケ局務ヲ分掌ス

第六條 鑑定官ハ局長ノ指揮ヲ承ケ葉煙草ノ鑑定保存ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 局ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ葉煙草ノ鑑定保存ニ従事ス

第九條 監視ハ上官ノ指揮ヲ承ケ葉煙草專賣ノ取締ニ従事ス

第十條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工事ニ従事ス

第十一條 各專賣支局ニ支局長一人ヲ置キ專賣局事務官又ハ事務官補ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 專賣支局長ハ專賣局長ノ指揮ヲ承ケ支局一切ノ事務ヲ掌理ス

第十三條 大藏大臣ハ必要ト認ムル地ニ專賣局出張所ヲ設ケルコトヲ得

第十四條 專賣支局ノ名稱位置ハ別表ニ依ル其ノ管轄區域ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十二年五月一日ヨリ施行ス

明治三十年勅令第百二十一號葉煙草專賣所官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十六編 專賣局官制

(別表異)

●元帥府條例 (三十一年一月勅令第五號)

朕中興ノ盛運ニ膺リ開國ノ規謀ヲ定メ祖宗ノ遺業ヲ紹述シ臣民ノ幸福ヲ増進シ以テ國家ノ隆昌ヲ圖ラントス茲ニ朕カ軍務ヲ輔翼セシムル爲メ特ニ元帥府ヲ設ケ陸海軍大將ノ中ニ於テ老功卓拔ナル者ヲ簡選シ朕カ軍務ノ顧問タラシメントス其所掌ノ事項ハ朕カ別ニ定ムル所ニ依ラシム

元帥府條例

- 第一條 元帥府ニ列セラルル陸海軍大將ニハ特ニ元帥ノ稱號ヲ賜フ
- 第二條 元帥府ハ軍事上ニ於テ最高顧問トス
- 第三條 元帥ハ勅ヲ奉シ陸海軍ノ檢閲ヲ行フコトアルヘシ
- 第四條 元帥ニハ副官トシテ佐尉官各一人ヲ附屬セシム

●參謀本部條例 (三十二年勅令第六號)

- 第一條 參謀本部ハ國防及用兵ノ事ヲ掌ル所トス
- 第二條 參謀總長ハ陸軍大將若クハ陸軍中將ヲ以テ親補シ
- 第三條 參謀總長ハ陸軍大將若クハ陸軍中將ヲ以テ親補シ
- 第四條 參謀總長ハ國防ノ計畫及用兵ニ關スル一切ノ計畫ヲ掌リ又參謀本部ヲ統轄ス
- 第五條 參謀總長ハ陸軍大將ニ移ス
- 第六條 參謀總長ハ陸軍參謀將校ヲ統轄シ其教育ヲ監視シ陸軍大學校、陸地測量部、陸軍文庫及在外

國公使館附陸軍武官ヲ統轄ス

- 第五條 參謀本部次長ハ陸軍中將若クハ陸軍少將ヲ以テ之ニ補シ參謀總長ヲ輔佐シ本部一切ノ事務整理ニ任ス
- 第六條 參謀本部ノ編制ハ別ニ定ムル所ニ據ル

●東京防禦總督部條例 (二十八年勅令第九號)

- 第一條 東京防禦總督部ハ之ヲ東京ニ置ク
- 第二條 東京防禦總督ハ陸軍大(中)將ヲ以テ之ニ親補シ
- 第三條 天皇陛下ニ直隸シ東京防禦ニ任ス(三十一年勅令第九號ヲ以テ改正)
- 第四條 東京防禦總督ハ東京ノ衛戍勤務ヲ統轄シ師團長ニ命シテ之ヲ實行セシム
- 第五條 東京防禦總督ハ軍政及人事ニ係ル事ニ就テハ陸軍大臣、防禦計畫ニ係ル事ニ就テハ參謀總長ノ區處ヲ受ク
- 第六條 參謀長ハ部務ヲ整理シ參謀及副官ハ參謀長ノ監視ヲ受ケ各自擔任ノ事務ニ服シ其責ニ任ス

附 則

第六條 本條例實施ノ期限ハ陸軍大臣告示ヲ以テ之ヲ定ム

●都督部條例 (二十九年勅令第二百八十二號)

- 第一條 都督ハ陸軍大將若クハ陸軍中將ヲ以テ之ニ親補シ
- 第二條 天皇ニ直隸シ所管内ノ防禦計畫並ニ所管内各師團共同作戰ノ計畫ニ任セシム但シ防禦ニ關シ特ニ規定アルモノハ此限ニアラス(三十一年勅令第八號ヲ以テ改正)

- 第二條 都督ハ所管内各師團動員計畫ノ監否ヲ監視ス
- 第十六編 東京防禦總督部條例 都督部條例

第十六編

陸軍省官制

第三條 都督ハ所管内各師團ノ練成ヲシテ齊ニ進歩セシムルノ責ニ任ス但シ騎砲工輜重兵科専門ノ事ヲ除ク(同上)

第四條 都督ハ陸軍軍隊檢閱條例ニ依リ所管内師團ノ檢閱ヲ行フ(同上)

第五條 都督ハ主任ノ事ニ關シ所管内ノ各師團長ニ訓令若クハ訓示ヲ與ヘ且必要ノ報告ヲ爲サシムルヲ得

第六條 都督ハ軍隊教育及部内ノ軍政、人事ニ關シテハ陸軍大臣、防禦作戰並ニ動員計畫ニ關シテハ參謀總長ノ區處ヲ受ク(同上)

第七條 都督ハ軍隊教育ニ關スル事項ハ陸軍大臣ヲ經、防禦作戰並ニ動員ニ關スル事項ハ參謀總長ヲ經テ上奏ス(同上)

第八條 都督部ニ幕僚ヲ置キ之ヲ參謀部副官部ニ分ツ

第九條 參謀長ハ都督ヲ輔佐シ幕僚ヲ統ヘ事務整理ノ責ニ任ス

第十條 幕僚ノ各將校及軍吏ハ參謀長ノ區處ヲ受ケ部務ヲ擔任ス

附則

第十一號 本條例實施ノ期限ハ陸軍大臣告示ヲ以テ之ヲ定ム

●陸軍省官制(二十九年勅令第九十二號)

第一條 陸軍大臣ハ陸軍軍政ヲ管理シ陸軍軍人軍屬ヲ統督シ及所轄諸部ヲ監督ス

第二條 大臣官房ニ副官五人ヲ置キ陸軍各兵科大中少佐及大尉ヲ以テ之ニ補シ大臣ノ命ヲ承ケ官房ノ事務ヲ掌ラシム

陸軍大臣秘書官ハ二人トシ副官中ヨリ之ヲ兼補ス

大臣官房ニ軍吏二人ヲ置キ高級副官ノ命ヲ承ケ本省ニ於ケル諸給與及用度ノ事ヲ掌ラシム

第三條 陸軍省ニ專任參事官二人ヲ置ク

陸軍省ニ參事官書記官ヲ置カス(三十一年勅令第二百七十六號ヲ以テ改正)

第四條 大臣官房ニ人事課ヲ置キ課長ハ陸軍各兵科大佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員四人ヲ置キ陸軍各兵科中少佐大尉ヲ以テ之ニ補ス

第五條 人事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 將校同相當官准士官並文官ノ進退、任免、補職、命課、增俸、增給ニ關スル事項

二 將校並准士官兵籍文官名簿、停年名簿及充員名簿ニ關スル事項

三 退職將校同相當官准士官ノ人事及名簿ニ關スル事項

四 叙位叙勳、記章、褒章、賞與ニ關スル事項

五 恩給ニ關スル事項

六 准士官下士文官採用ニ關スル事項

第六條 陸軍省ニ左ノ諸局ヲ置ク

軍務局 陸軍將官ヲ以テ局長ニ充ツ

經理局 陸軍監督總監若クハ陸軍監督監ヲ以テ局長ニ充ツ(三十年勅令第三十號ヲ以テ改正)

醫務局 陸軍軍醫總監若クハ陸軍軍醫監ヲ以テ局長ニ充ツ(三十年勅令第三十號ヲ以テ改正)

法官部 勅任理事ヲ以テ部長ニ充ツ

第十六編 陸軍省官制

第十六編 陸軍省官制

七八

第七條 軍務局ニ軍事課、歩兵課、騎兵課、砲兵課、工兵課、兵器課ヲ置ク(三十年勅令第三百三號ヲ以テ改正)

第八條 軍務局軍事課長ハ陸軍各兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍各兵科中少佐大尉一等軍吏ヲ以テ之ニ補ス(三十年勅令第三百三號ヲ以テ條中第一ノ二字ヲ削ル)

課長及中少佐課員一名ハ參謀官トス

第九條 軍事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(三十年勅令第三百三號ヲ以テ各項トモ改正)

- 一 編制、建制ニ關スル事項
  - 二 助員計畫、戒嚴及徵發ニ關スル事項
  - 三 軍隊諸勤務教育、演習及檢閲ニ關スル事項
  - 四 軍紀、風紀ニ關スル事項
  - 五 諸學校 經理學校軍醫學校獸醫學校及砲兵工科學校ヲ除クニ關スル事項
  - 六 外國駐在員ニ關スル事項
  - 七 儀式、禮式、服制徽章ニ關スル事項
- 第十條 軍務局歩兵課長ハ陸軍歩兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍歩兵科中少佐大尉陸軍一等軍吏ヲ以テ之ニ補ス(三十年勅令第三百三號ヲ以テ改正)
- 第十一條 歩兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(三十年勅令第三百三號ヲ以テ本條及第三中ヲ改正ス)
- 一 兵役、召集、解兵ニ關スル事項
  - 二 各兵科將校ノ補充ニ關スル事項

三 各兵科各部准士官以下補充ノ規程ニ關スル事項

四 現役、豫備役及後備役軍人ニ關スル事項

五 憲兵、歩兵、屯田兵、警備隊、軍樂隊ノ下士以下補充ニ關スル事項

六 其ノ他憲兵、歩兵、屯田兵、警備隊、軍樂隊、聯隊區司令部ニ關スル事項

第十二條 軍務局騎兵課長ハ陸軍騎兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍騎兵科中少佐大尉陸軍輜重兵科中少佐陸軍獸醫監陸軍一等獸醫ヲ以テ之ニ補ス(三十年勅令第三百三號ヲ以テ改正)

第十三條 騎兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(三十年勅令第三百三號ヲ以テ各項トモ改正)

- 一 馬匹ノ供給、飼養、衛生、育成、保續、獸醫及牧場ニ關スル事項
- 二 蹄鐵ニ關スル事項
- 三 獸醫ノ材料ニ關スル事項
- 四 軍馬補充部、軍馬衛生會議及獸醫學校ニ關スル事項
- 五 獸醫部ノ教育、人員補充及兵籍ニ關スル事項
- 六 蹄鐵術ノ教育及各兵蹄鐵工長下長ノ補充ニ關スル事項
- 七 騎兵、輜重兵ノ下士以下補充ニ關スル事項
- 八 其ノ他騎兵、輜重兵及獸醫ニ關スル事項

第十四條 軍務局砲兵課長ハ陸軍砲兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員三人ヲ置キ陸軍砲兵科中少佐大尉ヲ以テ之ニ補ス(三十年勅令第三百三號ヲ以テ改正)

第十五條 砲兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(三十年勅令第三百三號ヲ以テ各項トモ改正)

第十六編 陸軍省官制

七九

- 一 砲兵會議及砲兵工科學校ニ關スル事項
- 二 要塞 工兵ニ關スルニ關スル事項
- 三 砲兵ノ下士以下補充ニ關スル事項
- 四 其ノ他砲兵ニ關スル事項

第十六條 軍務局工兵課長ハ陸軍工兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員三人ヲ置キ陸軍工兵科中少佐大尉ヲ以テ之ニ補ス(三十年勅令第三百三號ヲ以テ改正)

第十七條 工兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(三十年勅令第三百三號ヲ以テ各項トモ改正)

- 一 要塞 砲兵ニ關スルニ關スル事項
- 二 運輸、通信、交通ニ關スル事項
- 三 東京防禦總督部及要塞司令部ニ關スル事項
- 四 工兵會議及築城部ニ關スル事項
- 五 工兵ノ下士以下補充ニ關スル事項
- 六 其ノ他工兵ニ關スル事項

第十八條 軍務局兵器課長ハ陸軍砲兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍砲兵科中少佐陸軍工兵科中少佐陸軍砲兵科大尉陸軍輜重兵科大尉陸軍一等軍吏ヲ以テ之ニ補ス(三十年勅令第三百三號ヲ以テ)

第十九條 兵器課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(同上)

- 一 兵器彈藥及兵器費ヲ以テ支辨スル器具材料ニ關スル事項

二 要塞ノ砲床ニ關スル事項

三 兵器廠及砲兵工廠ニ關スル事項

第二十條 軍務局ニ定員ノ外佐尉官ノ出仕將校八名ヲ置ク(三十二年勅令第二百十二號ヲ以テ改正)

第二十一條 經理局ニ第一課第二課第三課ヲ置ク(三十年勅令第三百三號ヲ以テ元十八條ハ二十一條トナシ以下順次繰下ク)

第二十二條 經理局第一課長ハ陸軍一、二等監督ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍二、三等監督監督補一等軍吏ヲ以テ之ニ補ス

第二十三條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 陸軍總豫算決算報告及助員計畫ニ係ル費額ニ關スル事項

- 二 諸給與及會計規定ノ審査ニ關スル事項

- 三 俸給諸手當旅費ノ規程及簿記證書ニ關スル事項

- 四 監督部軍吏部ノ教育人員補充及其ノ士官以上ノ兵籍ニ關スル事項

- 五 金錢ニ係ル出納官吏ニ關スル事項

- 六 經理學校ニ關スル事項

第二十四條 經理局第二課長ハ陸軍一、二等監督ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍二、三等監督監督補一等軍吏ヲ以テ之ニ補ス

第二十五條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 糧秣被服及馬匹ニ係ル給與ノ規程ニ關スル事項

- 二 糧秣被服ニ關スル事項

三 中央糧秣廠、被服廠及干住製絨所ニ關スル事項

第二十六條 經理局第三課長ハ陸軍一、二等監督ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員四人ヲ置キ陸軍二、三等監督監督補一等軍吏技師ヲ以テ之ニ補ス

第二十七條 第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 陸軍用地及諸建築 工兵事業及砲兵工廠ニ關スル事項

二 宅料、陣營具及其ノ永糧料、消耗品料、埋葬料並諸調度ノ規程ニ關スル事項

三 金、公用行李、戰用炊具及馬匹手入具ニ關スル事項 (三十年勅令第三百三號ヲ以テ本項ヲ追加シ三、四トナシ順次繰下リ)

四 官有財産ニ關スル事項

五 物品會計及出納官吏ニ關スル事項

六 東京陸軍經營部ニ關スル事項

第二十八條 醫務局ニ第一課第二課ヲ置ク

第二十九條 醫務局第一課長ハ陸軍一等軍醫正若クハ二等軍醫正ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員三人ヲ置キ陸軍二、三等軍醫正藥劑監一等軍醫ヲ以テ之ニ補ス (三十年勅令第三十)

第三十條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル (七號ヲ以テ改正)

一 衛生部ノ教育ニ關スル事項

二 建築、被服、糧食、給水、排水等ノ衛生ニ關スル事項

三 防疫及治病ニ關スル事項

四 衛生材料ニ關スル事項

五 衛生統計及衛生報告ニ關スル事項

六 軍醫學校衛生會議及中央衛生材料廠ニ關スル事項

第三十一條 醫務局第二課長ハ陸軍一等軍醫正若クハ二等軍醫正ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員三人ヲ置キ陸軍二、三等軍醫正一等軍醫ヲ以テ之ニ補ス (三十年勅令第三十)

第三十二條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル (七號ヲ以テ改正)

一 衛生部ノ人員補充及其ノ士官以上ノ兵籍ニ關スル事項

二 衛生ニ係ル規程ノ審査ニ關スル事項

三 身體検査及恩給診斷ニ關スル事項

四 傷痍疾病ニ因ル服役免除ニ關スル事項

五 赤十字社其ノ他篤志看護團ニ關スル事項

六 其ノ他衛生ニ關スル事項

第三十三條 各局各課ノ課員ハ其ノ課長ノ命ヲ受ケ其ノ課務ニ從事セシム

第三十四條 法官部ニ部員四人ヲ置キ兼任理事ヲ以テ之ニ充テ部長ノ命ヲ承ケ部務ニ從事セシム

第三十五條 法官部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 軍事司法ニ關スル事項

二 監獄ニ關スル事項

三 法官部及監獄ノ人員ニ關スル事項

第三十六條 法官部ノ職員ハ高等軍法會議ノ事務ニ服ス

第三十七條 陸軍省ニ屬百三十八人録事三人技手九人ヲ置ク

●教育總監部條例 (三十一年勅令第七號)

第一條 教育總監部ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍中將若クハ陸軍少將ヲ以テ教育總監ニ補シ陸軍大臣ノ管轄ニ屬セシム

第二條 教育總監ハ各兵監ヲ統督シ部事ヲ總理シ教育ニ關スル諸條規典範ノ改良ヲ謀リ及陸軍砲工學校陸軍士官學校陸軍中央幼年學校陸軍地方幼年學校陸軍戸山學校陸軍教導團並ニ陸軍將校生徒試驗委員ヲ管轄ス(三十一年勅令第二百二十四號ヲ以テ改正)

第三條 教育總監ハ教育上ニ關スル意見ヲ陸軍大臣ニ具申ス

第四條 教育總監部ニ本部及砲工輜重兵監部ヲ置ク

第五條 本部部長ハ教育總監ヲ輔佐シ本部部長及副官ヲ統ヘ事務整理ノ責ニ任ス

第六條 本部部長及副官ハ本部部長ノ區處ヲ受ケ事務ヲ分擔ス

第七條 騎兵監ハ各騎兵隊及教導團騎兵生徒隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍騎兵實施學校ヲ管轄ス(同上)

第八條 野戰砲兵監ハ各野戰砲兵隊及教導團砲兵生徒隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又野戰砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍野戰砲兵射擊學校ヲ管轄ス(同上)

第九條 要塞砲兵監ハ各要塞砲兵隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又要塞砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍要塞砲兵射擊學校ヲ管轄ス(同上)

第十條 工兵監ハ各工兵隊及教導團工兵生徒隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌ル

第十一條 輜重兵監ハ各輜重兵隊及教導團輜重兵生徒隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査審議シ並ニ立案スルコトヲ掌ル

第十二條 野戰砲兵監、要塞砲兵監及工兵監ハ砲工學校ヲ巡閱シ各本科學生ノ教育上ニ就キ意見アルトキハ之ヲ教育總監ニ具申スヘシ(同上追加)

第十三條 各兵監ハ陸軍軍隊檢閱條例ニ依リ臨時ニ當該兵隊ノ檢閱ヲ行フ

第十四條 各兵監部部長ハ各兵監ノ下ニ在リテ事務ヲ分擔ス

第十五條 教育總監部ニ下士並ニ判任文官ヲ置ク(同上)

附則

第十六條 監軍部條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●海軍軍令部條例 (三十年勅令四百二十三號)

第一條 海軍軍令部ハ國防及用兵ニ關スル事ヲ掌ル所トス

第二條 海軍軍令部ニ部長ヲ置キ

天皇ニ直隸シ帷幄ノ機務ニ參セシメ又海軍軍令部ノ部務ヲ統理セシム

海軍軍令部長ハ親補トス

第三條 海軍軍令部長ハ國防及用兵ニ關スル事ヲ參畫シ親裁ノ後之ヲ海軍大臣ニ移ス

第十六編 海軍軍令部

第十六編 海軍軍令部條例

- 第四條 海軍軍令部ニ次長ヲ置キ海軍軍令部長ヲ輔佐シ部務ヲ整理セシム
- 第五條 海軍軍令部ニ副官ヲ置キ庶務ヲ掌理セシム
- 第六條 海軍軍令部ニ第一局第二局及第三局ヲ置ク
- 第七條 第一局ニ於テハ作戰ノ計畫、艦船ノ配備並其ノ進退役務、艦隊軍隊ノ編制、軍港、要港、防禦  
港其ノ他軍事上必要ナル地點ノ選定並其ノ防禦計畫ニ關スル事ヲ掌ル
- 第八條 第二局ニ於テハ出師準備、演習及海運ノ計畫並動法及通信法ノ制定ニ關スル事ヲ掌ル
- 第九條 第三局ニ於テハ外國ノ軍事、諜報、翻譯及編纂ニ關スル事ヲ掌ル
- 第十條 各局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

前項ノ外第二局第三局ニ海軍機關官ヲ置ク又第三局ニ海軍編修ヲ置ク

- 第十一條 各局長ハ海軍軍令部長ノ命ヲ承ケ其ノ局務ヲ掌理ス
- 第十二條 各局長ハ局長ノ命ヲ承ケ服務ス
- 第十三條 第十條第二項ニ掲グル機關官及編修ハ各其ノ局長ノ命ヲ承ケ服務ス
- 第十四條 海軍軍令部出仕トシテ海軍將校同相當官ヲ置キ海軍軍令部長ノ命ヲ承ケ服務セシム
- 第十五條 在外帝國公使館ニ公使館附トシテ海軍將校ヲ置キ海軍軍令部長ヲシテ之ヲ管セシム
- 第十六條 海軍軍令部ニ海軍文庫主管ヲ置キ先任副官ノ命ヲ承ケ秘密圖書ノ保管出納及海軍ニ必要ナル圖書ノ蒐集、保存及出納ヲ掌ラシム

第十七條 前諸條ニ掲グル職員ノ外海軍船匠長船匠師海軍編修書記及技手ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第十八條 海軍軍令部ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

附則

第十九條 本令ハ明治三十年十二月一日ヨリ施行ス

(別表略)

●海軍省官制 (三十年勅令第五十九號)

- 第一條 海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ海軍軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス
- 第二條 海軍大臣官房ニ副官三人ヲ置キ海軍大佐一人中少佐二人ヲ以テ之ニ補ス  
副官ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ海軍大臣官房ノ事務ヲ掌ル  
必要アルトキハ本職アル海軍將校又ハ同相當官ニ海軍大臣官房附兼務ヲ命シ副官所掌ノ事務ヲ助ケシムルコトヲ得(三十二年勅令第二百一十七號ヲ以テ改正)
- 第三條 海軍大臣秘書官ハ二人トシ副官中ヨリ之ヲ補ス(同上)
- 第四條 海軍省ニ參事官專任一人海軍編修專任一人ヲ置ク  
編修ハ命ヲ承ケ翻譯編纂ノ事務ニ服ス  
海軍省ニ參與官書記官ヲ置カス(同上)
- 第五條 海軍大臣官房ニ人事課ヲ置ク
- 第十六編 海軍省官制



第十六編 海軍省官制

八八

人事課長ハ海軍大佐ヲ以テ之ニ補ス海軍大臣ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス(三十一年勅令第三百三十四號ヲ以テ改正)

人事課ニ事務課僚三人ヲ置キ海軍中少佐若ハ士官ヲ以テ之ニ補ス(三十年勅令第四百二十二號ヲ以テ改正)

第六條 人事課ニ於テハ高等武官、候補生、准士官及文官ノ進退、任免、補職、命課、増修其ノ他ノ人事、軍人軍屬ノ叙位、叙勳、記章、褒章賞與並恩給ニ關スル事項ヲ管掌ス

第七條 海軍省ニ軍務局醫務局經理局及司法部ヲ置キ軍務局長ハ海軍將官、醫務局長ハ海軍軍醫總監、經理局長ハ海軍主計總監ヲ以テ之ニ補シ司法部長ハ主理ヲ以テ之ニ充ツ

第八條 軍務局ニ於テハ建制、編制、役務、教育、訓練、演習、檢閱、高等武官ノ補充、下士卒ノ任用進級、兵員ノ徵募、軍紀、風紀、戒嚴、徵發、儀式、禮式、服制、旗章、海上保安、水路、望樓、運輸通信、艦船、兵器、艦營需品及測器ニ關スル事項ヲ管掌シ軍事課、機關課、造船課及兵器課ヲ置キ其ノ事項ヲ分掌セシム

第九條 軍務局軍事課長ハ海軍大佐、機關課長ハ海軍機關總監若ハ機關大監、造船課長ハ海軍造船總監若ハ造船大監、兵器課長ハ海軍大佐若クハ造兵大監ヲ以テ之ニ補ス

各課ヲ通シ事務課僚十三人ヲ置キ海軍造船大監中佐同相當官少佐同相當官大尉同相當官ヲ以テ之ニ補ス(三十年勅令第四百二十二號ヲ以テ改正)

第十條 醫務局ニ於テハ醫務、衛生、恩給診斷、治療品、軍人體格及軍醫官ノ教育補充ニ關スル事項ヲ管掌シ第一課及第二課ヲ置キ其ノ事項ヲ分掌セシム

第十一條 醫務局各課長ハ海軍軍醫大監ヲ以テ之ニ補ス  
各課ヲ通シ事務課僚四人ヲ置キ海軍軍醫中小監、藥劑正、藥劑監、大軍醫ヲ以テ之ニ補ス(同上)

第十二條 經理局ニ於テハ豫算、決算、出納、給與、被服、糧食、通常物品、官有財産、建築、川度及主計官ノ教育補充ニ關スル事項ヲ管掌シ金錢及物品ノ收支ヲ監督シ第一課第二課及第三課ヲ置キ其ノ事項ヲ分掌セシム

第十三條 經理局各課長ハ海軍主計大監ヲ以テ之ニ補ス  
各課ヲ通シ事務課僚七人ヲ置海軍主計中少監大主計ヲ以テ之ニ補シ及技師ヲ以テ之ニ充ツ(同上)

第十四條 司法部ニ於テハ軍事司法、懲罰、監獄及主理、録事並監獄ノ人員ニ關スル事項ヲ管掌ス

第十五條 司法部二部員三人ヲ置キ主理ヲ以テ之ニ充ツ  
第十六條 各局長及司法部長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ各其ノ主務ヲ掌理ス(三十一年勅令第三百廿四號ヲ以テ改正)

第十七條 各局ノ課長ハ局長ノ命ヲ承ケ各其ノ課務ヲ掌ル  
第十八條 課僚ハ命ヲ承ケ各其ノ事務ニ服ス

第十九條 司法部ノ部員ハ部長ノ命ヲ承ケ其ノ事務ニ服ス  
第二十條 海軍省ニ海軍兵曹長若ハ上等兵曹五人、海軍機關兵曹長若ハ上等機關兵曹一人、海軍船匠長若ハ船匠師一人、屬八十五人、技手十八人及録事三人ヲ置キ海軍大臣官房各局部課ニ分屬シ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服セシム(三十年勅令第四百二十二號ヲ以テ改正)

第二十一條 司法部ノ職員ハ海軍高等軍法會議ノ事務ニ服ス

第二十二條 本令ハ三十年四月一日ヨリ施行ス

●司法省官制 (二十六年勅令第四百十三號)  
第十六編 司法省官制

第一條 司法大臣ハ各裁判所及検事局ヲ監督シ檢察事務ヲ指揮シ恩赦復権及戸籍ニ關スル事項其ノ他諸般ノ司法行政事務ヲ管理ス(三十二年勅令百四十七號ヲ以テ改正)

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル

一 裁判所ノ設立廢止及管轄區域並其ノ變更ニ關スル事項

二 裁判所附屬吏員及辯護士ノ身分ニ關スル事項

第三條 司法省專任參事官ハ二人專任書記官ハ二人ヲ以テ定員トス(三十一年勅令第二百七十八號ヲ以テ改正)

第四條 司法省ニ民刑局ヲ置キ事務ヲ掌ラシム(右第四百四十七號ヲ以テ改正)

一 民事、刑事及其ノ他ノ法律命令ニ關スル事項

二 裁判及檢察ノ事務ニ關スル事項

三 恩赦復権及戸籍ニ關スル事項

第五條 (削除)

第六條 司法省屬ハ七十八人ヲ以テ定員トス(右第二百七十八號ヲ以テ改正)

第七條 司法省ニ專任技師一人專任技手四人ヲ置ク(三十年勅令第七十四號ヲ以テ改正)

附則

第八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●文部省官制 (三十一年勅令第二百七十九號)

第一條 文部大臣ハ教育學藝ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル

一 公立學校職員ニ關スル事項

二 文部省ニ於テ施行スル教員檢定ニ關スル事項

三 圖書及圖書館ニ關スル事項

四 海外留學生及教員ノ海外派遣ニ關スル事項

五 高等教育會議ニ關スル事項

六 學校衛生顧問會議ニ關スル事項

七 美術ニ關スル事項

八 博覽會及博物館ニ關スル事項

九 褒賞ニ關スル事項

第三條 文部省專任參事官及專任書記官ハ各三人ヲ以テ定員トス

第四條 文部省ニ左ノ二局ヲ置ク

專門學務局

普通學務局

第五條 專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 帝國大學及高等學校ニ關スル事項

二 專門學校及實業學校ニ關スル事項

三 中學校ニ關スル事項

四 美術學校及音樂學校ニ關スル事項

第十六編 文部省官制

第十六編 文部省官制

- 五 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
  - 六 天文臺氣象臺及測候所ニ關スル事項
  - 七 學術技藝ノ保護獎勵ニ關スル事項
  - 八 實業教育國庫補助ニ關スル事項
  - 九 測地學委員會及震災豫防調査會ニ關スル事項
  - 十 學士會院ニ關スル事項
  - 十一 學術會ニ關スル事項
  - 十二 學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項
- 第六條 普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 師範教育ニ關スル事項
  - 二 小學校幼稚園ニ關スル事項
  - 三 高等女學校ニ關スル事項
  - 四 盲啞學校ニ關スル事項
  - 五 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
  - 六 教育博物館ニ關スル事項
  - 七 通俗教育及教育會ニ關スル事項
  - 八 學齡兒童ノ就學ニ關スル事項
- 第七條 文部省ニ專任視學官五人ヲ置ク奏任トス學事ノ視察ヲ掌リ又各局ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル

第八條 文部省ニ專任圖書審查官三人ヲ置ク奏任トス圖書ノ審查ヲ掌ル

第九條 文部省ニ專任技師四人ヲ置ク建築ニ關スル事務ヲ掌ル

文部省ニ專任技師十人ヲ置ク技師ノ事務ヲ助ク(三十二年勅令第四百一十一號ヲ以テ改正)

第十條 文部省ニ學校衛生主事一人ヲ置ク奏任トス大臣次官又ハ各局長ノ命ヲ受ケ學校衛生ニ關スル事務ヲ掌ル

第十一條 文部省屬ハ六十人ヲ以テ定員トス

附 則

第十二條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

● 高等教育會議規則 (三十一年勅令第百五號)

- 第一條 高等教育會議ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス
- 第二條 高等教育會議ハ文部大臣ノ諮詢ニ應ジテ左ノ事項ノ要領ヲ審議ス
  - 一 帝國大學及文部省直轄諸學校圖書館ノ設置廢止ニ關スル事項
  - 二 文部省直轄諸學校公立私立學校ノ教育ノ目的並ニ其ノ學科課程設備及管理ニ關スル事項
  - 三 學齡兒童ノ就學義務及小學校授業料ニ關スル事項
  - 四 學事監督ニ關スル事項
  - 五 教科用圖書ニ關スル事項
  - 六 文部省直轄諸學校並ニ公立私立學校職員ノ資格ニ關スル事項
  - 七 文部大臣ニ於テ必要ト認ムル事項

第十六編 高等教育會議規則

第十六編 高等教育會議規則

- 第三條 高等教育會議ハ教育ニ關スル事項ニ就キ各省大臣ニ建議スルコトヲ得
- 第四條 高等教育會議ハ左ノ議員ヲ以テ之ヲ組織ス
- 一 學習院長、華族女學校長、帝國博物館總長
  - 二 陸軍及海軍教育主任將校各一人
  - 三 帝國大學總長
  - 四 帝國大學分科大學長各科每二一人
  - 五 文部省各局長及視學官二人
  - 六 高等師範學校長、女子高等師範學校長
  - 七 高等商業學校長、東京工業學校長、東京美術學校長、高等師範學校附屬音樂學校主事、帝國圖書館長
  - 八 高等學校長一人
  - 九 商船學校長
  - 十 師範學校長二人
  - 十一 公立尋常中學校長二人
  - 十二 公立高等女學校長一人
  - 十三 高等師範學校附屬尋常中學校主事、女子高等師範學校附屬高等女學校主事
  - 十四 私立學校長二人
  - 十五 東京學士會院會長

十六 文部省學校衛生顧問會議議長

十七 學識アル者又ハ教育事業ニ關係アル者七人以内

此ノ他臨時ノ須要ニ應ジ臨時議員若干人ヲ置クコトヲ得

職務上當然議員タル者ヲ除ク外議員及臨時議員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス但シ第一項第十乃至第十二ノ議員ハ當該各學校長ニ於テ二倍ノ數ヲ互選セシメ其ノ中ニ就キ文部大臣奏請

シ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條 文部大臣ハ必要ニ依リ前條ノ外部下高等官ヲ高等教育會議ニ臨時出席セシムルコトヲ得但シ

可否ノ數ニ加ハラズ

第六條 高等教育會議ニ議長及副議長ヲ置キ議員中ニ就キ文部大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

議長副議長共ニ事故アルトキハ議長ヨリ議員中ノ一人ヲ指名シテ事務ヲ代理セシム

第七條 議員ノ任期ハ三箇年ヲ以テ一期トス但シ職務上當然議員タル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 議長ハ規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ文部大臣ニ開申ス

第九條 高等教育會議ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 高等教育會議ハ毎年一回之ヲ開ク但シ必要ニ依リ臨時會議ヲ開クコトヲ得

高等教育會議ノ開會及開期ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 議員ニハ一箇年五百圓以内臨時議員ニハ事項ニ應ジ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得但シ第四

條第一項第一乃至第十三ニ該當スル者ニハ之ヲ給セス

第十二條 高等教育會議ニ幹事一人ヲ置キ文部省高等官ヲ以テ之ニ充テ書記二人ヲ置キ文部屬ヲ以テ

第十六編 高等教育會議規則

之ニ充ツ

幹事ハ議長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理シ書記ハ議長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス  
幹事ニハ一箇年二百圓以内書記ニハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附 則

第十三條 明治二十九年勅令第三百九十號ニ依リ辭令ヲ用ヒテ任命セラレタル議員ハ本規則施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

●東京帝國大學官制 (明治三十年六月勅令第二百十號)

第一條 東京帝國大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

總 長、書記官、舍 監、書 記

第二條 總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ帝國大學令ノ規定ニ依リ東京帝國大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第三條 書記官ハ專任一人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第四條 舍監ハ專任二人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ學生ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第五條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

東京帝國大學及分科大學書記ハ通計專任五十三人ヲ以テ定員トス

第六條 各分科大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

教 授、助教授、助 手、書 記

第七條 教授ハ專任九十一人奏任又ハ勅任トス各分科大學ニ置ク所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

教授ニシテ分科大學長及醫科大學長附屬醫院長ニ補セラレタル者ハ講座ヲ擔任セサルコトアルヘシ

第八條 助教授ハ專任四十二人奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ従事ス

講座ヲ擔任スル助教授ハ前項ノ定員外ニ置クモノトス但シ講座ヲ分擔スル助教授ハ此ノ限ニアラス

第九條 助手ハ專任百四人判任トス教授助教授ノ指揮ヲ承ケ學術技藝ニ關スル職務ニ服ス

第十條 第六條職員ノ外各分科大學ニ學長一人ヲ置キ其ノ分科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

分科大學長ハ帝國大學令ノ規定ニ依リ總長監督ノ下ニ於テ各其ノ分科大學ノ事ヲ掌ル

第十一條 醫科大學附屬醫院ニ醫院長ヲ置キ醫科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

醫院長ハ總長監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理ス

第十二條 理科大學附屬東京天文臺ニ天文臺長ヲ置キ理科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

天文臺長ハ總長監督ノ下ニ於テ東京天文臺ノ事務ヲ掌理ス

第十三條 理科大學附屬臨海實驗所ニ臨海實驗所長ヲ置キ理科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

臨海實驗所長ハ總長監督ノ下ニ於テ臨海實驗所ノ事務ヲ掌理ス

第十四條 理科大學附屬植物園ニ植物園長ヲ置キ理科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

植物園長ハ總長監督ノ下ニ於テ植物園ノ事務ヲ掌理ス

第十五條 農科大學附屬演習林ニ演習林長ヲ置キ農科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

演習林長ハ總長監督ノ下ニ於テ演習林ノ事務ヲ掌理ス

第十六編 東京帝國大學官制

第十六條 東京帝國大學附屬圖書館ニ圖書館長ヲ置き教授助教教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス  
圖書館長ハ總長監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事務ヲ掌理ス

附 則

第十七條 明治二十六年勅令第八十三號帝國大學官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●京都帝國大學官制 (三十年勅令第二百一十二號)

第一條 京都帝國大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

總長、書記官、舍監、書記

第二條 總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ帝國大學令ノ規定ニ依リ京都帝國大學一般ノ事務ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第三條 書記官ハ專任一人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第四條 舍監ハ專任一人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ學生ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第五條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

京都帝國大學及分科大學書記ハ通計專任二十七人ヲ以テ定員トス

第六條 分科大學ニ職員ニ置ク左ノ如シ

教授、助教授、助手、書記

第七條 教授ハ專任五十七人奏任又ハ勅任トス各分科大學ニ置ク所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

教授ニシテ分科大學長及醫科大學附屬醫院長ニ補セラレタル者ハ講座ヲ擔任セサルコトアルヘシ

第八條 助教授ハ專任十七人奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

第九條 助手ハ專任二十八人判任トス教授助教ノ指揮ヲ承ケ學術技藝ニ關スル職務ニ服ス

第十條 第六條職員ノ外各分科大學ニ學長一人ヲ置キ其ノ分科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

分科大學長ハ帝國大學令ノ規定ニ依リ總長監督ノ下ニ於テ各其ノ分科大學ノ事ヲ掌ル

第十一條 醫科大學附屬醫院ニ醫院長ヲ置キ醫科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

醫院長ハ總長監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第十二條 京都帝國大學附屬圖書館ニ館長ヲ置キ教授助教教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

館長ハ總長監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事ヲ掌理ス

●文部省直轄諸學校官制 (二十六年勅令第八十六號)

第一條 文部省直轄諸學校ハ高等師範學校女子高等師範學校札幌農學校高等商業學校第一高等「中」學校第二高等「中」學校第三高等「中」學校第四高等「中」學校第五高等「中」學校東京工業學校東京外國語學校東京美術學校東京音樂學校大阪工業學校及東京盲啞學校トス (二十九年勅令第二百二十六號及三十二年勅令第十七號ヲ以テ改正)

諸學校通則第一條ニ依リ文部大臣ノ管理ニ屬スル高等中學校ハ山口高等「中」學校トシ總テ此ノ官制ノ規定ニ依ラシム (二十九年勅令第二百九十號ヲ以テ本項中改正)

第二條 高等師範學校ニ附屬尋常中學校及附屬小學校ヲ置キ東京教育博物館ヲ附設ス (三十二年勅令第十七號ヲ以テ改正)

第十六編 文部省直轄諸學校官制

第十六編 文部省直轄諸學校官制

第三條 女子高等師範學校ニ附屬高等女學校附屬小學校及附屬幼稚園ヲ置ク

第四條 (三十二年勅令第百十七號ヲ以テ削除)

第五條 東京工業學校ニ附屬職工徒弟學校ヲ置ク

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長、教授、助教授、書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス(同上改正)

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル(同上)

助教授ハ勅任トス教授ノ職務ヲ助ク

第九條 書記ハ勅任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第十條 高等師範學校及女子高等師範學校ニ舍監ヲ置ク他ノ學校ニ於テ舍監ヲ置クノ必要アルトキハ

教官ヨリ兼任セシム

舍監ハ奏任トス校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第十一條 高等師範學校及女子高等師範學校ニ第五條及第九條職員ノ外左ノ職員ヲ置ク

教諭、助教諭、訓導

第十二條 教諭ハ奏任トス附屬尋常中學校及附屬高等女學校ノ生徒ヲ教授シ兼テ師範生徒ノ實地授業

ヲ監督ス

助教諭ハ勅任教諭トス教諭ノ職務ヲ助ク

第十三條 訓導ハ勅任トス附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌リ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス

第十四條 高等師範學校ニ助手ヲ置ク勅任トス教授ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ従事ス(同上追加)

第十五條 女子高等師範學校ニ保姆ヲ置ク勅任トス附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル

第十六條 東京育啞學校ニ教授助教授ヲ置カス訓導ヲ置ク勅任トス生徒ノ授業ヲ掌ル

第十七條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若

クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコ

トヲ得

第十八條 文部大臣ハ高等師範學校女子高等師範學校高等[中]學校及東京工業學校教官ノ中ヨリ各其

ノ附屬學校主事東京教育博物館主事附屬幼稚園主事專門學部主事ヲ命シ其ノ事務ヲ掌ラシムルコト

ヲ得(三十年勅令第百八號及三十二年勅令第百十七號ヲ以テ改正)

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大

臣之ヲ命ス

附 則

第二十條 本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

●尋常師範學校官制 (二十四年勅令第二百十七號)

第一條 尋常師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長、教諭、助教諭、舍監、訓導、書記

第二條 教諭助教諭舍監訓導及書記ハ勅任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但教諭三名以内ハ特ニ奏任文官ト

第十六編 帝國圖書館官制

同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ(三十一年勅令第三十一號ヲ以テ改正)

第三條 學校長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督シ兼テ其府縣内ニ於ケル小學教育ニ關スル學事ヲ觀察ス(二十六年勅令第八十五號ヲ以テ改正)

第四條 教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第五條 助教諭ハ教諭ノ職掌ヲ助ケ

第六條 舍監ハ教諭助教諭ノ中ヨリ之ニ兼任ス

舍監ハ學校長ノ命ヲ承ケ寄宿舎ニ關スル事ヲ掌ル

第七條 訓導ハ附屬小學校兒童ノ教育ヲ掌ル

第八條 書記ハ學校長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第九條 教諭助教諭舍監訓導及書記ノ人員及俸額ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 府縣知事ハ教諭ノ中ヨリ附屬小學校主事ヲ命シ校務ヲ掌ラシム

附 則

第十一條 本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

●帝國圖書館官制 (三十年勅令第一百十號)

第一條 帝國圖書館ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ内外古今ノ圖書記録ヲ蒐集保存シ及衆庶ノ閱覽參考ノ用ニ供スル所トス

第二條 帝國圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク(三十一年勅令第二百八十號ヲ以テ改正)

館長 一人 奏任

司書 七人 判任

書記 二人 判任

第三條 館長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條 (削除) (同上)

第五條 司書ハ上官ノ命ヲ承ケ圖書記録ノ整理保存及閱覽ニ關スル事務ニ從事ス

第六條 書記ハ館長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第七條 圖書記録ノ選定若ハ分類等ニ關シ必要アルトキハ館長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ囑託員ヲ置クコトヲ得

第八條 文部大臣ハ館務上ノ須要ニ依リ帝國圖書館ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

附 則

第九條 明治二十四年勅令第三百三十八號東京圖書館官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●中央氣象臺官制 (三十一年勅令第四百十八號)

第一條 中央氣象臺ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ氣象ニ關スル事項ヲ攻究シ氣象事業ヲ統轄ス

第二條 中央氣象臺ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 全國氣象ノ調査及報告、 二 暴風警報、 三 天氣豫報、 四 氣象通報、

五 氣象器械檢定、 六 氣象、地磁氣、空中電氣、地震等ノ觀測

第三條 中央氣象臺ニ左ノ職員ヲ置ク

第十六編 中央氣象臺官制



監長、技師、技手、書記

- 第四條 監長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ文部大臣ノ指揮監督ヲ承ケ監務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス
- 第五條 技師ハ專任三人奏任トス監長ノ指揮ヲ承ケ監務ヲ分掌ス
- 第六條 技手ハ專任十四人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ中央氣象臺又ハ附屬測候所ノ事務ニ從事ス
- 第七條 書記ハ專任三人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第八條 事務ノ分課ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第九條 中央氣象臺ニ附屬測候所ヲ置ク其ノ位置ハ鹿兒島縣下大島沖繩縣下石垣島トス
- 第十條 附屬測候所ニ所長ヲ置キ中央氣象臺技手ヲ以テ之ニ充ツ
- 所長ハ監長監督ノ下ニ於テ測候所ノ事務ヲ掌理ス

●農商務省官制 (三十一年勅令第二百八十二號)

- 第一條 農商務大臣ハ農、商、工、水産、林野、鑛山、發明、意匠、商標及地質ニ關スル事務ヲ管理ス
- 第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲ケルモノノ内外外博覽會及褒賞ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第三條 農商務省專任參事官專任書記官ハ各三人ヲ以テ定員トス
- 第四條 農商務省ニ左ノ局所ヲ置ク
  - 農務局、商工局、山林局、鑛山局、特許局、水産局、地質調査所
- 第五條 農務局ニ於テハ農事、蠶、茶、畜産、家畜衛生及狩獵ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第六條 商工局ニ於テハ商事、工業及度量衡ニ關スル事務ヲ掌ル
- 商工局ニ商品陳列館ヲ置キ内外ノ商品見本ヲ蒐輯陳列シ衆庶ノ觀覽參考ニ供セシム

- 第七條 山林局ニ於テハ森林原野ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第八條 鑛山局ニ於テハ鑛業ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第九條 特許局ニ於テハ發明、意匠及商標ニ關スル事務ヲ掌ル
- 特許局ニ圖書館ヲ置キ審判及審査ニ關スル見本及雛形ヲ保管セシム
- 第十條 水産局ニ於テハ水産ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十一條 地質調査所ニ於テハ地質、土性、地形及分析ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十二條 特許局ニ專任審判官五人專任審査官十五人專任審査官補二十人ヲ置ク
- 審判官ハ奏任トス但シ兼任シ者ノ本官勅任ナルトキハ勅任ト爲スコトヲ得
- 審判官ハ特許、意匠及商標ニ關スル審判ヲ掌ル
- 審査官ハ奏任トス特許、意匠及商標ニ關スル審査ヲ掌ル
- 審査官補ハ判任トス審査官ヲ助ケテ審査ニ從事ス (三十二年勅令第二百三十六號ヲ以テ改正)
- 第十三條 商品陳列館ニ技師一人書記四人ヲ置ク
- 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス
- 第十四條 農商務省ニ專任技師二十七人專任技手四十一人ヲ置ク (同上)
- 第十五條 農商務屬ハ百二十四人ヲ以テ定員トス (同上)

二附 則

第十六條 本令ハ明治三十一年十一月二日ヨリ施行ス

●林區署官制 (三十年勅令第八十六條)

第十六編 林區署官制

第十六編 林區署官制

第一條 大林區署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル(三十年勅令第四百五)

一 國有林野ノ保管經營及利用ニ關スル事項

二 部分林ニ關スル事項

三 森林ノ監督ニ關スル事項

第二條 大林區署ニ左ノ職員ヲ置ク

林務官、林務官補、營林主事、書記、營林主事補、森林監守

第三條 各大林區署長ハ一人林務官ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌

理ス

第四條 林務官ハ奏任トシ各大林區署ヲ通シテ三十二人ヲ以テ定員トス大林區署ニ分屬シ署務ニ從事

ス(三十二年勅令第二百八十二號ヲ以テ改正)

第五條 林務官補ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ八十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事

ス

第六條 營林主事ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ二百五十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ營林事

務及森林調査ニ從事ス(同上)

第七條 書記ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ百五十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

(同上)

第八條 營林主事補ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ七百三十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ森林

ノ保護ニ從事シ營林事務及森林調査ヲ分擔ス(同上)

第九條 森林監守ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ四百八十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ森林ノ

保護ニ從事ス(同上)

第十條 大林區署ノ事務ヲ分掌スル爲メ管轄内須要ノ地ニ小林區署ヲ置ク

各小林區署長ハ一人營林主事ヲ以テ之ニ充ツ大林區署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ掌理ス(三十年勅令第

四十五十三號

第十一條 (同上ヲ以テ削除)

第十二條 大林區署ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

第十三條 小林區署ノ名稱位置及其管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル(同上)

附 則

第十四條 明治二十六年勅令第四百七十七號大小林區署官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(別表略之)

●林野整理局官制(三十二年勅令第五百十號)

第一條 林野整理局ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ國有林野ノ處分、國有林ノ實測、施業案ノ編製、造林

及森林買上ニ係ル特別經營ノ業務ヲ掌ル

各大林區署所在地ニ林野整理支局ヲ置キ林野整理局ノ業務ヲ分掌セシム

第二條 林野整理局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 勅任

書記官 奏任

第十六編 林野整理局官制

監督官 奏任

支局長 奏任

監督官補 奏任

技師 列任

技師 列任

技師 列任

支局長監督官補及技師ハ林野整理支局ニ屬及技手ハ林野整理局及支局ニ勤務セシム

第三條 局長ハ農商務省山林局長ヲシテ之ヲ兼ネシメ農商務大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 書記官ハ專任二人トス上官ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌ル

第五條 監督官ハ專任四人トス上官ノ命ヲ承ケ支局業務ノ監督事務及局中各課ノ事務ヲ分掌ス

第六條 支局長ハ支局所在地ノ大林區署長タル林務官ヲシテ之ヲ兼ネシム上官ノ命ヲ承ケ所管ノ事務ヲ掌理ス

第七條 監督官補ハ專任十六人トス林野整理業務ノ監督及支局中ノ庶務ヲ掌ル

第八條 技師ハ專任十六人トス

第九條 屬技手ハ通シテ專任二百十八人トス

屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條 林野整理支局ノ管轄區域ハ其ノ所在地大林區署ノ管轄區域ニ依ル

第十一條 農商務大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ林野整理支局出張所ヲ置クコトヲ得

●臨時林野下戻處分調査ニ關スル職員(三十二年勅令第百五十一號)

第一條 臨時林野下戻處分ノ調査ヲ爲サシムル爲農商務省ニ左ノ職員ヲ置キ山林局ニ屬セシム

山林局事務官 奏任

山林局技師 奏任

山林局鑑定官 奏任

山林局屬 列任

山林局技手

第二條 山林局事務官ハ專任三人山林局技師ハ專任二人山林局鑑定官ハ一人山林局屬及技手ハ並シテ

五十四人ヲ以テ定員トス

第三條 山林局鑑定官ノ官等ハ高等官六等以下トシ其ノ年俸ハ八百圓以下トス

第四條 農商務大臣ハ事務ノ必要ニ依リ第一條ノ職員ヲ大林區署ニ勤務セシムルコトヲ得

●林野整理審査會規則(三十二年勅令第百七十九號)

第一條 林野整理審査會ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ國有林野ノ特別經營ニ關スル重要ノ事項ニ就キ農

商務大臣ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申ス

第二條 林野整理審査會ハ會長一人委員十一人ヲ以テ組織ス

委員ハ農商務省高等官四人、内務省高等官二人、陸軍省、海軍省、大藏省、文部省及逓信省高等官

各一人ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外五人以内ノ臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第十六編 臨時林野下戻處分調査ニ關スル職員 林野整理審査會規則 一〇九

第十六編 林野整理審査會規則

第四條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

會長委員及臨時委員ハ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條 會長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ農商務大臣ニ具申ス

第六條 會長事故アルトキハ委員中上席ノ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第七條 林野整理審査會ニ幹事二人ヲ置キ農商務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第八條 林野整理審査會ニ書記ヲ置ク會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

書記ハ林野整理局判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 林野整理審査會ノ議事及會務整理ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

●地方森林會規則 (三十年勅令第四百四十號)

第一條 地方森林會ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ左ノ事項ヲ審議ス

一 保安林ノ編入又ハ解除

二 保安林買上價格ノ評決

三 保安林補償金額ノ評決

第二條 地方森林會ハ會務整理ノ爲必要ナル規則ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 地方森林會ハ議事上實地ノ調査ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ議員ヲ派遣スルコトヲ得

第四條 地方森林會ノ開會及閉會ノ期日ハ府縣知事ノ稟請ニ依リ農商務大臣之ヲ定ム

地方森林會ノ審議事項ニシテ其ノ利害ノ關係ニ府縣以上ニ涉ルコトキハ聯合地方森林會ヲ設クシ其

ノ開會地及閉會開會ノ期日ハ關係地方府縣知事ノ稟請ニ依リ農商務大臣之ヲ定ム

第五條 農商務大臣ハ左ノ場合ニ於テ地方森林會又ハ聯合地方森林會ノ解散ヲ命シ又ハ其ノ議事ヲ停

止スルコトヲ得

一 第一條ニ掲グル事項ヲ審議セサルトキ

二 議事其ノ權限ヲ越ヘ若ハ法律命令ニ背クト認ムルトキ

聯合地方森林會解散ノ場合ニ於テハ之ニ關聯スル地方森林會ハ同時ニ解散セラレタルモノトス

解散ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ解散ヲ命シタル日より三十日以内ニ更ニ地方森林會ノ議員ヲ選定

スヘシ

第六條 地方森林會ハ議長一名議員十四名以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第七條 議長ハ議事ヲ整理シ會務ヲ指揮ス

第八條 議長ハ府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ

議員ハ左ニ掲グル者ニ就キ農商務大臣之ヲ選定ス但シ第五ニ該ルモノハ其ノ互選ニ依リ

一 府縣高等官 一人

二 土木監督署高等官 一人

三 嶺山監督署高等官 一人

四 大林區署高等官 一人

五 名譽職府縣參事會員 二人

府縣制ヲ實施セサル地方ニ在リテハ府縣常置委員 二人

第十六編 地方森林會規則

一一三

第十六編 鑛山監督官制

六 森林事業ニ經驗アル者

若干

七 治水土木及鑛山事業ニ經驗アル者

若干

第九條 官吏ニシテ職員タル者ノ外職員ノ任期ハ二箇年トス

第十條 地方森林會ニ幹事一名書記若干名ヲ置ク

幹事ハ府縣高等官ヲ以テ之ニ充テ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理セシム

書記ハ議長ノ選任ニ依リ府縣判任官ヲ以テ之ニ充テ幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事セシム

第十一條 聯合地方森林會ハ關係地方森林會議員ノ總數ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ議長幹事及書記ハ開會

地ノ地方森林會議長幹事及書記ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 官吏ニシテ議長職員タル者ノ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ニ充ツ

前項ノ外職員ノ手當及旅費其ノ他地方森林會ノ費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 聯合地方森林會ノ費用ハ職員ノ手當及旅費ヲ除ク外總テ開會地府縣ノ負擔トス

●鑛山監督官制 (二十九年勅令第二百八十三號)

第一條 鑛山監督署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鑛山監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 鑛山監督署ニ左ノ職員ヲ置ク

鑛山監督官、 鑛山監督官補、 書記

第三條 鑛山監督署長ハ每署一人監督官ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務

ヲ掌理ス

第四條 鑛山監督官ハ奏任トシ各鑛山監督署ヲ通テ十二人ヲ以テ定員トス

鑛山監督署ニ分屬シテ職務ニ從事ス

第五條 鑛山監督官補ハ判任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ六十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署

務ニ從事ス

第六條 書記ハ判任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條 鑛山監督ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

(別表略)

●製鐵所官制 (三十二年勅令第三百七號)

第一條 製鐵所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鋼鐵製造ノ事務ヲ掌ル

第二條 製鐵所ニ左ノ職員ヲ置ク

長官 一人 勅任

事務官 專任二人 奏任

技師 專任十四人 内一人ハ勅任トス

書記 專任三十八人 判任

技手 專任五十三人

第三條 長官ハ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ總理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

長官ハ奏任官ノ進退ハ之ヲ農商務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第四條 事務官ハ長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第五條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六編 製鐵所官制

第十六編 特許局審判事務章程

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ従事ス

第八條 製鐵所ニ左ノ諸部ヲ置ク

工務部、製鐵部、製鋼部、製品部、經理部

各部ニ於ケル事務ノ分掌ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九條 農商務大臣ハ所中ニ課ヲ置クコトヲ得

第十條 製鐵所ニ技術長ヲ置キ勅任技師ヲ以テ之ニ充ツ

技術長ハ上官ノ命ヲ承ケ技術官ヲ指揮監督シ技術ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十一條 各部ニ部長ヲ置キ工務部製鐵部製鋼部製品部ニ在テハ技師經理部ニ在テハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ

部長ハ上官ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第十二條 農商務大臣ハ製鐵所豫算定額内ニ於テ製鐵所出張所ヲ設置スルコトヲ得  
出張所所管ノ事務ハ農商務大臣之ヲ定ム

●特許局審判事務章程 (三十二年勅令第二百七十九號)

第一條 特許局長ハ各審判事件ニ付審判官ヲ指定ス可シ

第二條 特許局長ハ審判官中審判ニ參與スルコト能ハサル故障アル者アルトキハ其ノ指定ヲ解キ更ニ他ノ審判官ヲ指定シテ之ヲ補充ス可シ

第三條 審判長ハ指定審判官ノ中上席者ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 審判長ハ審判ニ關スル事務ヲ統理ス

第五條 審判長ハ一名若ハ二名ノ主査審判官ヲ命スルコトヲ得

第六條 審決ハ審判評議ヲ經ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 審決ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可非同數ナルトキハ審判長ノ決スル處ニ依ル

第八條 審判官ハ左ノ事件ニ參與スルコトヲ得ス

一 自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件

二 直接又ハ間接ニ利害ノ關係ヲ有シタル事件

三 審査官トシテ審査ニ參與シタル事件

附 則

第九條 本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●農商工高等會議規則 (三十年第百八十八號)

第一條 農商工高等會議ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ農商工業ニ關スル重要ノ事項ニ付農商務大臣ノ諮問ニ應ジ意見ヲ開申ス

第二條 農商工高等會議ハ農商工業ニ關スル重要ノ事項ニ付關係各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 農商工高等會議ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 農商工高等會議ハ議長副議長各一人及議員三十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 特別ノ事件ヲ審議スル爲メ臨時必要ノ場合ニ於テ前條定員ノ外臨時議員ヲ命スルコトヲ得

第六條 議長副議長議員及臨時議員ハ官吏又ハ農商工ニ關スル學識者ハ經驗アル者ノ中ニ就キ農商務

第十六編 農商工高等會議規則

大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條 議長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ農商務大臣ニ具申ス

第八條 議長事故アルトキハ副議長ヲシテ事務ヲ代理セシム

第九條 農商工高等議會ニ幹事二人ヲ置キ農商務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條 議長副議長議員及幹事ニハ一箇年三百圓以内臨時議員ニハ事件ノ輕重ニ應シ其ノ都度相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十一條 農商工高等會議ニ書記ヲ置ク議長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

書記ハ農商務省判任官又ハ其ノ他ノ者ニ就キ之ヲ命ス

第十二條 書記ニハ事務ノ繁閑ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十三條 農商務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ議員又ハ其ノ他ノ者ヲシテ農商工業ニ關スル施設ノ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

附 則

第十四條 従前ノ議長副議長議員臨時議員及幹事ハ別ニ辭令ヲ用井ス本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

●逓信省官制(三十一年勅令第三百九十五號)

第一條 逓信大臣ハ官設鐵道、郵便、小包郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話及航路標識ヲ管理シ北海道官設鐵道、私設鐵道、電氣、造船、水陸運輸ニ關スル事業及航路、船舶、海員ヲ監督ス

第二條 逓信省專任參事官ハ三人專任書記官ハ九人ヲ以テ定員トス

第三條 逓信省ニ左ノ局所ヲ置ク

鐵道局、通信局、管船局、電信燈臺用品製造所

第四條 鐵道局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 鐵道ノ監督ニ關スル事項

二 私設鐵道ノ免許ニ關スル事項

三 鐵道補助金ニ關スル事項

第五條 通信局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 郵便、小包郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ニ關スル事項

二 陸運及電氣事業ノ監督ニ關スル事項

三 逓信事業ニ關スル經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項

第六條 管船局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 航路標識ニ關スル事項

二 航路、船舶、海員、水運及保護海事會社ノ監督ニ關スル事項

第七條 電信燈臺用品製造所ニ於テハ電信燈臺用品ノ作業ニ關スル事務ヲ掌ル

所長ハ逓信省高等官ヲシテ之ヲ兼テシム

第八條 逓信省ニ專任技師二十三人ヲ置ク但シ内三人以内ヲ勅任トス

第九條 逓信省屬ハ二百五十人ヲ以テ定員トス

第十六編 逓信省官制

第十條 遞信省專任技手五十七人ヲ置ク

附 則

第十一條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

●鐵道作業局官制 (三十年勅令第二百六十八號)

第一條 鐵道作業局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ官設鐵道ノ建設保存及運輸ノ業務ヲ掌ル

第二條 鐵道作業局ニ左ノ職員ヲ置ク(三十一年勅令第二百九十六號ヲ以テ改正)

長官、部長、鐵道事務官、鐵道技師、鐵道書記、鐵道技手、鐵道書記補

第三條 長官ハ一人勅任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 削除(同上)

第五條 部長ハ定員五人奏任トシ長官ノ命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ分掌ス

第六條 鐵道事務官ハ奏任十八人奏任トス各部ニテ分屬シ部務ヲ掌ル(同上)

第七條 鐵道技師ハ專任五十九人ヲ以テ定員トシ内三人以内ヲ勅任トス(同上)

第八條 鐵道書記ハ八百五十三人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス(同上)

第九條 鐵道技手ハ三百五十人ヲ以テ定員トス(同上)

第十條 鐵道書記補ハ五百七十八人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記ノ事務ヲ助ク(同上)

第十一條 鐵道作業局ニ左ノ五部ヲ置ク

建設部、工務部、海軍部、運輸部、計理部

各部事務ノ分掌ハ遞信大臣之ヲ定ム

第十二條 建設部長工務部長海軍部長運輸部長ハ鐵道技師ヲシテ之ヲ兼ネシム(同上)

第十三條 遞信大臣ハ必要ニ應ジ局中ニ課ヲ置キ又ハ地方ニ鐵道業務取扱ノ部所ヲ置キ各部ノ事務ヲ

分掌セシムルコトヲ得

課ニ部長部所ニ部所長ヲ置キ高等官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

附 則

第十四條 明治二十九年勅令第八十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●鐵道會議規則 (二十七年勅令第五百十三號)

第一條 鐵道會議ハ遞信大臣ノ監督ニ屬シ鐵道敷設法第十五條ニ掲クル事項ヲ審議シ及鐵道ニ關スル

事項ニ就キ遞信大臣ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申スルモノトス

第二條 鐵道會議ハ鐵道ニ關スル事項ニ就キ主任各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 鐵道會議ハ事務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ(二十九年勅令第二百五十)

第四條 鐵道會議ハ議長一人議員二十一人以内ヲ以テ之ヲ組織ス(七號ヲ以テ次項トモ改正)

遞信省高等官四人陸軍省及參謀本部高等官二人海軍省及海軍軍令部高等官二人内務省大藏省農商務

省高等官各一人ハ議員ニ加フヘキモノトス(三十年勅令第三百五十七號ヲ以テ改正)

第五條 特別ノ事件ヲ審議スル爲メ臨時必要ノ場合ニ於テ前條定員ノ外臨時議員ヲ命スルコトヲ得

第六條 議長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

高等官ノ内ヨリ命スヘキ議員ハ所屬大臣ノ奏請ニ依リ其ノ他ノ議員及臨時議員ハ遞信大臣ノ奏請ニ

依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第十六編 鐵道會議規則



第七條 議長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ逓信大臣及主任各省大臣ニ具申ス

第八條 議長事故アルトキハ其ノ指名シタル議員ナシテ事務ヲ代理セシム

第九條 鐵道會議ニ幹事一人ヲ置キ逓信省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條 議長、議員及幹事ニハ一箇年五百圓以内、臨時議員ニハ事件ノ輕重ニ應ジ其ノ都度相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十一條 鐵道會議ニ書記ヲ置ク議長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

書記ハ逓信屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 書記ニハ一箇年二百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附 則

第十三條 従前ノ議長、議員及臨時議員ハ別ニ辭令ヲ用非ス本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルコトヲ得

●郵便及電信局官制 (三十年勅令第二百六十九號)

第一條 郵便及電信局ハ逓信大臣ノ管理ニ屬シ郵便、電信ノ事務ヲ執行スルコトヲ掌ル

第二條 郵便及電信局ヲ分テ一等郵便電信局、二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局、三等郵便電信局、三等郵便局、三等電信局トス

第三條 一等郵便電信局ニ於テハ管轄内ノ各郵便電信局、郵便局、電信局ヲ監督ス

逓信大臣ハ官署ナル一等郵便電信局ニ於テハ電信建築ノ事務ヲ兼掌ス

逓信大臣ハ二等郵便電信局、二等郵便局ヲシテ其ノ指定シタル區域内ノ三等郵便電信局、三等郵便局、三等電信監督事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトアル可シ

逓信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ郵便及電信ノ支局所ヲ置キ郵便電信ノ業務ヲ分掌セシムルコトヲ得

得

第四條 一等郵便電信局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長、通信事務官、通信書記、通信書記補

電信建築ノ事務ヲ兼掌スル一等郵便電信局ニハ前項職員ノ外通信技師通信技手ヲ置ク

第五條 二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長、通信書記、通信書記補

第六條 一等郵便電信局、二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局ニ通信事務官補ヲ置クコトヲ得

第七條 三等郵便電信局、三等郵便局、三等電信局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

第八條 一等郵便電信局長ハ通信事務官ヲ以テ之ニ充ツ逓信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第九條 二等郵便電信局長、二等郵便局長、二等電信局長ハ通信官書記ヲ以テ之ニ充ツ所轄一等郵便

電信局長ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

通信事務官補ヲ置ク二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局ニ於テハ通信事務官補ヲ以テ局長ニ

充ツ

第十條 三等郵便電信局長、三等郵便局長、三等電信局長ハ列任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌

理ス

第十六編 郵便及電信局官制

理ス

第十一條 通信事務官ハ委任トス第八條ニ依リ局長タル者ノ外各局ニ分屬シ局長ノ事務ヲ助ケ

第十二條 通信技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十三條 通信事務官補ハ委任トス第九條ニ依リ局長タル者ノ外各局ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ局

務ヲ分掌ス

第十四條 通信書記ハ判任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ局務ニ從事ス

第十五條 通信技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第十六條 通信書記補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記ノ事務ヲ助ケ

第十七條 一等郵便電信局ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

第十八條 二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局、三等郵便電信局、三等郵便局、三等電信局ノ

名稱、位置及其ノ管轄區域ハ通信大臣之ヲ定ム

(別表略之)

●郵便爲替貯金管理所官制 (三十年勅令第二百七十一號)

第一條 郵便爲替貯金管理所ハ通信大臣ノ管轄ニ屬シ郵便爲替資金郵便貯金ヲ管理シ及郵便爲替郵便

貯金ノ検査計算ニ關スル事務ヲ掌理スル所トス

第二條 郵便爲替貯金管理所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長、通信事務官、通信事務官補、通信書記、通信書記補

第三條 郵便爲替貯金管理所長ハ通信事務官ヲ以テ之ニ充ツ通信大臣ノ命ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 通信事務官、通信事務官補ハ委任トス第三條ニ依リ所長タル者ノ外所長ノ事務ヲ助ケ又ハ郵便爲替貯金管理支所長トナリテ其ノ事務ヲ掌理ス

第五條 通信書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記、簿記、計算ノ事務ニ從事ス

第六條 通信書記補ハ判任トス通信書記ノ事務ヲ助ケ

第七條 通信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ郵便爲替貯金管理支所ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシムルコト

ヲ得

●航路標識管理所官制 (二十六年勅令第五百五十四號)

第一條 航路標識管理所ハ通信大臣ノ管理ニ屬シ航路標識ノ工事及其ノ保守ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 航路標識管理所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長、技師、書記、技手、看守

第三條 所長ハ一人委任トス通信大臣ノ命ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理ス (三十年勅令第二百七十一號)

第四條 技師ハ六人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ所中ノ事務ヲ分掌ス (二十九號勅令第八十三號) 技師ヲ以テ定員トス (二十九號勅令第八十三號)

第五條 書記ハ判任トシ二十四人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス (二十九號勅令第八十三號) 書記ハ判任トシ二十四人ヲ以テ定員トス (二十九號勅令第八十三號)

第六條 技手ハ二十四人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ工事ニ從事ス (全上) 技手ハ二十四人ヲ以テ定員トス (全上)

第七條 看守ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ看守ニ從事ス其定員ハ左ノ如シ

一等燈臺

各三人

二等燈臺

- 三等燈臺
  - 四等燈臺
  - 五等燈臺
  - 六等燈臺
  - 等外燈臺
- 各二人

- 燈船
  - 霧警號
- 二人  
二人

得 遞信大臣ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ前項定員ノ外航路標識看守豫備員十五人以内ヲ置クコトヲ

附 則

第八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●港務局官制 (三十二年勅令第五十二號)

第一條 港務局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ開港港則ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 各港務局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク(三十二年勅令第二百九十七號ヲ以テ改正)

- 局長 三人
- 港務官 專任三人
- 醫官 專任三人
- 書記 專任十二人

技手 專任三人

港吏 專任六人

港吏補 專任三十人

第三條 港務局長ハ奏任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ港長ノ事ヲ行フ

第四條 港務官ハ奏任トス各港務局ニ分屬シ局長ノ事務ヲ助ケ

局長事故アルトキハ之ヲ代理ス(同上)

第五條 (削除)(同上)

第六條 醫官ハ奏任トス局ノ指揮ヲ承ケ衛生ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 港吏ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條 港吏補ハ判任トス港吏ノ事務ヲ助ケ

第十條 港務局ノ名稱及位置ハ遞信大臣之ヲ定ム

●海事局官制 (三十二年勅令第二百六十三號)

第一條 海事局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ船舶職員及水先人ノ試験船舶ノ測度検査其ノ他法令ノ定ムル

所ニ從ヒ管海官廳ノ事務ヲ掌ル

第二條 海事局ノ名稱位置及管轄區域ハ別表ニ依ル

第三條 海事局管轄區域内須要ノ地ニ海務署又ハ出張所ヲ置キ局務ヲ分掌セシム其ノ名稱位置及管轄

區域ハ遞信大臣之ヲ定ム

第十六編 港務局官制 海事局官制

第十六編 海軍局官制 電話交換局官制

第四條 各海軍局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

- 局長 奏任 四人
- 海軍官 奏任 專任四十六人
- 書記 判任 專任三十二人
- 技手 專任二十七人

第五條 局長ハ逕信大臣ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第六條 海軍官ハ海務署長タル者ノ外海軍局又ハ海務署ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 海軍官ハ臨時命ヲ承ケ逕信省管船局ノ事務ヲ助ク

第九條 海務署ニ醫長ヲ置キ海軍官ヲ以テ之ニ充ツ

附 則

第十條 本令ハ明治三十二年六月十六日ヨリ施行ス

船舶司檢所官制及明治三十年勅令第二百二十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十一條 本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ船舶司檢所司檢官ニシテ船舶司檢所長ノ職ニ在ル者ハ海軍局長ニ船舶司檢所司檢官及船舶司檢所司檢官補ハ海軍官ニ船舶司檢所書記ハ海軍局書記ニ船舶司檢所技手ハ海軍局技手ニ任セラレタルモノトス

(別表附)

●電話交換局官制 (三十年勅令第二百七十四號)

第一條 電話交換局ハ逕信大臣ノ管轄ニ屬シ電話交換ノ業務ヲ執行スル所トス

第二條 電話交換局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 局長 奏任 一人
- 通信技師 奏任 十人
- 通信書記 判任 十人
- 通信技手 判任 十人

逕信大臣ハ必要ナシト認ムル場合ニ於テ電話交換局ニ通信技師ヲ置カサルコトヲ得

第三條 局長ハ通信技師又ハ通信技手ヲ以テ之ニ充ツ逕信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 通信技師ハ局長ノ指揮ヲ承ケ局中ノ事務ヲ分掌ス

第五條 通信書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條 通信技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ電話交換ノ工事ニ從事ス

第七條 電話交換局ノ名稱及位置ハ逕信大臣之ヲ定ム

第八條 逕信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ電話交換支局ヲ設置シ其ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

●商船學校官制 (二十九年勅令第八十一號)

第一條 商船學校ハ逕信大臣ノ管理ニ屬シ航海、運用、機關ニ關スル學術及技藝ヲ教授スル所トス

二條 商船學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長、幹事、教授、學生監、教諭 (三十年勅令第二百七) 分校長、助教、書記 (三十二年勅令第二百六)
- 校長ハ勅任又ハ奏任トス逕信大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第三條 校長ハ勅任又ハ奏任トス逕信大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス (令第二百六十六號ヲ以テ改正)

第四條 幹事ハ一人教授之ヲ兼任ス庶務會計ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

第五條 教授ハ奏任トシ專任十一人ヲ以テ定員トス學生ノ教授ヲ掌ル (三十二年勅令第二百五) (十四號ヲ以テ改正)

第十六編 電話交換局官制 商船學校官制

第六條 學生監ハ奏任トシ專任一人ヲ以テ定員トス學生ノ取締ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 教諭ハ奏任トシ專任十人ヲ以テ定員トス技藝ヲ教授シ又ハ實地練習ヲ監督ス(三十年勅令第百五十四號ヲ以テ改正) (三十年勅令第二百七十五號)

第八條 分校長ハ教授又ハ教諭之ヲ兼任シ分校ノ事務ヲ掌理ス(全上)

第九條 書記ハ判任トシ專任八人ヲ以テ定員トス教授及教諭ノ職掌ヲ佐ケ(三十年勅令第二百七十五號ヲ以テ追加)

第十條 逓信大臣ハ簡易ノ學術及技藝ヲ教授セシムルカ爲メ必要ト認ムル地ニ商船學校分校ヲ置クコトヲ得

トヲ得

第十一條 逓信大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ逓信大臣之ヲ命ス

附 則

第十二條 本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●東京郵便電信學校官制 (二十四年勅令第五百四十四號)

第一條 東京郵便電信學校ハ逓信大臣ノ管轄ニ屬シ郵便電信事業上須要ノ學術及技藝ヲ教授スル所トス

第二條 東京郵便電信學校ニ左ノ職員ヲ置ク  
校長、幹事、教授、助教、書記

第三條 校長ハ一人奏任トス逓信大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理ス

第四條 幹事ハ一人教授之ヲ兼任ス校長ノ監督ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理シ校長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

代理ス

第五條 教授ハ奏任トシ專任八人ヲ以テ定員トス校長ノ監督ヲ承ケ生徒ノ教授ヲ掌ル

第六條 助教ハ判任トシ專任十人ヲ以テ定員トス校長ノ監督ヲ承ケ教授ノ職掌ヲ助ケ

第七條 書記ハ判任トシ六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

附 則

第八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

●會計検査院法 (二十二年法律第十五號)

第一章 組織

第一條 會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス

第二條 會計検査院ハ院長一員部長三員検査官十二員ヲ置キ之ヲ會計検査官トシ別ニ書記官二員検査官補三十二員及屬若干員ヲ置ク(二十九年法律第九十號ヲ以テ検査官補ノ定員ヲ改正ス)

第三條 院長ハ勅任トシ部長ハ勅任又ハ奏任トシ検査官書記官及検査官補ハ奏任トシ屬ハ判任トス

第四條 院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス

第五條 院長事故アルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第六條 會計検査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

第七條 會計検査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラ

會計検査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラ

會計検査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラ

第十六編 東京郵便電信學校官制 會計検査院法 一一九

ル、コトナシ

會計検査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 父子兄弟ハ同時ニ會計検査官トナルコトヲ得ス

第八條 會計検査官ハ他ノ官職ヲ兼ネ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス

第九條 會計検査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス

議事ハ多數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十條 左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス

一 第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ 天皇ノ下問ニ奉答スルトキ

二 第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ

三 第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ

四 検査事務ノ規程計算證明ノ様式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ

五 其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ

第十一條 計算検査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計検査院長ノ定ムル所ニ依ル

第二章 職權

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

一 總決算

二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算

三 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算

四 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算

第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各々其ノ豫算ノ規定又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ

三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條 會計検査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ検査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ

前項ノ委託ニ拘ラズ會計検査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ検査ヲ

行フコトアルヘシ

第十三條第三項團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條 金庫ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アル

トキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計検査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算證明ノ様式並ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條 會計検査院ハ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

會計検査院長ハ検査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地検査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本廳長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ検査ニ立合ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本廳長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一條 會計検査院ノ判決ニ依リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ 天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本廳長官之ヲ減免スルコトヲ得ス

第二十二條 出納官吏計算書及證憑書ノ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラサルトキハ會計検査院ハ本廳長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條 政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條 會計検査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得

得世シ詐偽ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得  
出納官吏ハ會計検査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章 附則

第二十五條 會計検査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●警視廳官制 (二十六年勅令第五百十九號)

第一條 警視廳ニ左ノ職員ヲ置ク (二十九年勅令第二百五十一號及三十一年勅令第三百四號ヲ以テ改正)

警視總監、警視、技師、警察醫長、典獄、警部、警視廳、技手、消防士、警察醫、監獄書記、看守長、消防機關士

第二條 警視總監ハ一人勅任トス

第三條 警視ハ二十五人警察醫長ハ一人典獄ハ三人委任トス(同上)

第四條 警部、警視廳、消防士、警察醫、監獄書記、看守長及消防機關士ノ定員ハ通シテ三百六十人トシ其ノ各官ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ警視總監之ヲ定ム (三十年勅令第九十一號及三十一年勅令第三百四號ヲ以テ改正)

第五條 技師技手ハ警視廳ノ須要ニ依リ俸給豫算定額内ニ於テ之ヲ置クコトヲ得

第六條 警視總監ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ東京府下ノ警察消防及監獄ノ事務ヲ管理ス

第七條 警視總監ハ各省ノ主務ニ關スル警察事務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ受ケ高等警察事務ニ就テハ内閣總理大臣及内務大臣ノ指揮監督ヲ受ケ

第八條 警視總監ハ東京府下ノ警察事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部

第十六編 警視廳官制

ニ應令ヲ發スルコトヲ得

第九條 警視總監ハ其ノ主務ニ就テハ東京府下ノ島司郡市區長及町村長ヲ指揮監督ス (三十年勅令第百九十一號及三十二年勅令第百二十八號ヲ以テ改正)

第十條 警視總監ハ所部ノ官吏ヲ監督シ委任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十一條 警視總監ハ所部ノ奏任官ノ懲戒ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條 警視總監ハ廳中處務ノ細則ヲ設ケルコトヲ得

第十三條 警視總監事故アルトキハ第一部長其ノ職務ヲ代理ス

前項ノ場合ニ於テ第一部長事故アルトキハ内務大臣ニ於テ警視廳ノ高等官ノ一人ヲシテ警視總監ノ職務ヲ代理セシム

第十四條 警視廳ニ總監官房ヲ置ク (二十九年勅令第百五十號ヲ以テ各項トモ改正)

總監官房ニ三課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課

一 各部署成案ノ審査及制規ニ關スル事項

二 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項

三 公文ノ編纂、保存、統計並書籍ノ管守ニ關スル事項

四 文書ノ往復及官印圖印ノ管守ニ關スル事項

五 他課及各部署ノ主務ニ關セサル事項

第二課

一 高等警察ニ關スル事項

二 外國人ニ關スル事項

第三課

一 經費豫算、決算及金錢出納ニ關スル事項

二 金錢物品出納ノ検査ニ關スル事項

三 需用物品ノ調度及地所建物ニ關スル事項

四 官沒並保管ノ金錢物品及不用品ニ關スル事項

第十五條 總監官房ニ主事一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ補ス

主事ハ警視總監ノ命ヲ承ケ官房ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

官房第二課員ハ主事ヲ以テ之ニ充テ第一課長及第三課長ハ警部警視廳ヲ以テ之ニ充ツ

官房各課員ハ警部警視廳ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ上官ノ命ヲ承ケ其ノ課ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス課員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課ノ庶務ニ從事ス(同上)

第十六條 警視廳ニ左ノ部署ヲ置ク

第一部、第二部、第三部、第四部、消防署

第十七條 第一部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ (三十年勅令第百九十一號ヲ以テ改正)

第一課 犯罪ノ捜査、刑餘人、無賴徒、變死傷者其ノ公安ニ關スル事項

第十六編 警視廳官制



第十六編 警視廳官制

- 二 失踪者、瘋癲者、不良子弟、癡兒、迷兒及戶口民籍ニ關スル事項
- 三 遺流失物理埋藏物等ニ關スル事項

第二課

- 一 警備ニ關スル事項
- 二 警察署警察分署派出所ノ廢置及其ノ職員ノ配置ニ關スルノ事項
- 三 巡查召募及其ノ教習ニ關スル事項

第十八條 第二部ニ課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ(二十九年勅令第二百五十一號及三十年勅令第九十一號ヲ以テ改正)

第一課

- 一 營業及風俗警察並銃砲火藥刀劍等ニ關スル事項

第二課

- 一 交通警察並田野森林河海堤防取締及水火災豫防等ニ關スル事項

第十九條 (二十九年勅令第二百五十一號) 號ヲ以テ各項トモ刪除ス

第二十條 第三部ニ課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ(二十九年勅令第二百五十一號) 號ヲ以テ第四部ヲ第三部ニ改ム

第一課

- 一 衛生警察ニ關スル事項

第二課

- 一 警察監獄ニ關スル醫務及分析等ニ關スル事項

第二十條ノ二 第四部ニ於テハ監獄ニ關スル事務ヲ掌ル(三十年勅令第九十號) 號ヲ以テ本項追加

(二十九年勅令第二)

第二十一條 第一部長第二部長ハ警視第三部長ハ警察廳長第四部長ハ典獄ヲ以テ之ニ補ス

(百五十一號及三十年勅令) 第九十一號ヲ以テ改正

部長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第一部及第二部ノ課長ハ警部又ハ警視廳、課員ハ警部、警視廳ヲ以テ之ニ充ツ

第三部ノ課長ハ警視廳又ハ警察廳課員ハ警視廳、警察廳ヲ以テ之ニ充ツ(三十年勅令第九十號) 號ヲ以テ本項追加

第四部員ハ監獄書記看守長ヲ以テ之ニ充テ監獄署員ノ内ヲシテ兼ネシム(一號ヲ以テ本項追加)

第二十二條 部長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第一部長ハ警察事務ニ付警察署長以下第四部長ハ監獄事務ニ付監獄署長以下ヲ指揮スルコトヲ得

(三十年勅令第九十號) 號ヲ以テ本項改正

課長ハ上官ノ指揮ヲ受ケ其ノ課務ヲ處理シ課員ハ上官ノ指揮ヲ受ケ其課ノ庶務ニ從事ス

第二十三條 消防署ニ於テハ水火消防ニ關スル事項ヲ掌ル

第二十四條 警視總監ハ東京市内ニ消防分署ヲ配置ス

第二十五條 消防署長ハ第二部長タル警視ヲ以テ之ヲ兼補シ署員ハ消防士、消防機關士ヲ以テ之ニ充

ツ(同上)

消防署長事故アルキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

消防分署長ハ消防士、分署員ハ消防士、消防機關士ヲ以テ之ニ充ツ

第二十六條 消防署長ハ警視總監ノ命ヲ受ケ其ノ署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス(三十年勅令第九十號) 號ヲ以テ本項改正

警察署長ハ水火災ニ際シ消防署長出場前ニ於テ消防分署長以下ヲ指揮スルコトヲ得

第十六編 警視廳官制

以テ本  
項追加)

消防分署長ハ上官ノ指揮ヲ受ケ其ノ分署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

消防士ハ上官ノ指揮ヲ受ケ消防組ヲ指揮監督ス

消防機關士ハ上官ノ指揮ヲ受ケ消防機關ノ運用ヲ掌ル

第二十七條 東京府下ニ三監獄署ヲ置ク在監人ノ分配ハ警視總監之ヲ定ム(三十年勅令第九十一號ヲ以テ次項トモ改正)

監獄署ニ分課ヲ設クルコトヲ要スルトキハ警視總監之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ

第二十八條 警視總監ハ内務大臣ノ認可ヲ經東京府下ニ監獄支署ヲ置クコトヲ得

第二十九條 監獄署長ハ典獄ヲ以テ之ニ補ス但シ監獄署長ノ内一人ハ第四部長ヲシテ之ヲ兼ネシム

(三十年勅令第九十一號ヲ以テ本項改正)

監獄署長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

監獄支署長ハ監獄書記ヲ以テ之ニ充ツ(三十年勅令第九十一號ヲ以テ本項改正)

第三十條 監獄署長ハ警視總監ノ命ヲ受ケ監獄ニ關スル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ受ケ監獄ニ關スル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

監獄署員監獄支署員ハ監獄書記看守長ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ受ケ監獄ノ事務ニ従事ス(三十年勅令第九十一號ヲ以テ改正)

看守長ハ前項ノ職務ノ外看守ヲ指揮監督ス

第三十一條 東京府下ニ二十三警察署ヲ置ク其管轄區域ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

東京府下ニ一水上警察署ヲ置ク

警視總監ハ警察署ノ下ニ便宜分署ヲ置クコトヲ得

第三十二條 警察署長ハ警視又ハ警部署員ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

必要ノ場合ニ於テハ警部ヲ以テ分署員ニ充ツルコトヲ得

第三十三條 警察署長警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ受ケ其ノ署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

署員ハ上官ノ指揮ヲ受ケ其ノ署ノ事務ニ従事シ巡查ヲ指揮監督ス

第三十四條 警視廳職員ノ外監獄署ヲ置ク判任官ノ待遇トス

第三十五條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附 則

第三十六條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

(別表略之)

●北海道廳官制 (三十年勅令第三百九十二號)

第一條 北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク(三十二年勅令第二百五十二號ヲ以テ改正)

長官、事務官、警部長、支廳長、參事官、視學官、警視、技師、典獄、囹、視學、技手、

警部、翻譯生、監獄書記、看守長、監獄醫

第二條 長官ハ一人勅任トス

第三條 事務官ハ專任二人委任トシ内務部長及殖民部長ニ充ツ但シ内務部長ニ充ツル事務官ハ勅任ト

ナスコトヲ得(三十二年勅令第三百九十二號ヲ以テ改正)

第十六編 北海道廳官制

第四條 警部長ハ一人奏任トシ警察部長ニ充ツ(同上)

第五條 支廳長ハ各支廳一人奏任トス

第六條 參事官二人視學官警視及典獄各一人奏任トス(同上)

第七條 技師八十人ヲ以テ定員トス(同上)

第八條 屬、視學、警部、翻譯生、監獄書記、看守長、監獄醫ハ判任トス屬、警部、監獄書記、看守長、監獄醫

ヲ通シテ四百九十人ヲ以テ定員トス(同上)

第九條 視學ノ定員ハ内務大臣及文部大臣之ヲ定ム

技手ハ八十人翻譯生ハ二人ヲ以テ定員トス(三十二年勅令第二百五十二號ヲ以テ改正)

第十條 長官ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ北

海道ノ拓地殖民並内ノ行政事務ヲ總理ス

長官ハ屯田兵ノ開墾授産ノ事ヲ監督ス

第十一條 長官ハ北海道ノ事務ニ付其ノ職權若ハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ廳令ヲ發

スルコトヲ得

第十二條 長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ師團長ニ移牒

シ出兵ヲ請フコトヲ得

第十三條 長官ハ支廳長ノ處分若ハ命令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルト

キハ其ノ處分若ハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第十四條 長官ハ所部ノ官吏ヲ統督シ高等官ノ進退ハ内務大臣若ハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之

ヲ專行ス

第十五條 長官ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其ノ高等官ニ係ルモノハ之ヲ内務大

臣若ハ主務大臣ニ具狀シ其ノ他ハ之ヲ專行ス(同上)

第十六條 長官ハ廳中及所轄官廳ノ分課並處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 長官事故アルトキハ内務部長タル事務官其ノ職務ヲ代理ス

長官及内務部長タル事務官共ニ事故アルトキハ内務大臣ニ於テ道廳高等官ノ内一名ヲシテ其ノ職務

ヲ代理セシム

長官ハ道廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

長官ハ其ノ職權ニ關スル事務ノ一部ヲ支廳長ニ委任スルコトヲ得

第十八條 北海道廳ニ長官官房ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム

一 官吏ノ進退身分及褒賞ニ關スル事項

二 文書ノ往復及記録編纂ニ關スル事項

三 官印廳印ノ管守ニ關スル事項

第十九條 道廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メ左ノ三部及一署ヲ置ク(同上)

内務部、 殖民部、 警察部、 監獄署

第二十條 内務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(同上)

一 支廳戶長役場ノ廢置分合並區會郡町村總代人ニ關スル事項

二 區町村ノ經濟其ノ他區町村及公共組合ニ關スル事項

- 三 賑恤救濟ニ關スル事項
- 四 兵事、社寺及教育ニ關スル事項
- 五 外國人ニ關スル事項
- 六 豫算、決算、會計、官有財産及物品ニ關スル事項
- 七 所轄官廳ノ會計監督ニ關スル事項
- 八 出納官吏ノ身元保證ニ關スル事項
- 九 土木、建築及修繕ニ關スル事項
- 十 水面埋立ニ關スル事項
- 十一 統計報告ニ關スル事項
- 十二 廳中他部署ノ主掌ニ關セサル事項
- 第二十一條 殖民部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(同上)
  - 一 殖民地ノ選定經營其ノ他殖民ニ關スル事項
  - 二 土地ノ處分及開墾ニ關スル事項
  - 三 地籍ニ關スル事項
  - 四 官有地管理ニ關スル事項
  - 五 土地收用ニ關スル事項
  - 六 農商工務ニ關スル事項
  - 七 水陸運輸ニ關スル事項

- 八 水産及漁獵ニ關スル事項
- 九 山林ニ關スル事項

第二十二條 (削除)

第二十三條 警察部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 行政警察ニ關スル事項
- 二 高等警察ニ關スル事項
- 三 圖書出版及版權ニ關スル事項
- 四 衛生ニ關スル事項

第二十四條 (削除)

第二十五條 (削除)

第二十六條 監獄署ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 道廳監獄ニ關スル事項
- 第二十七條 部長ハ長官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及部中各部ノ事務ヲ指揮監督ス
- 第二十八條 支廳長ハ長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理ス
- 第二十九條 支廳長ハ行政事務ニ就テ其ノ部内ノ部長ヲ指揮監督ス
- 第三十條 支廳長ハ法律命令ニ依リ若ハ長官ヨリ委任セラレタル事件ニ付支廳令ヲ發スルコトヲ得
- 第三十一條 支廳長事故アルトキハ其ノ應勤務ノ上席屬其ノ職務ヲ代理ス

支廳長ハ其ノ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得